

1621

號

第一

軍事

房官臣大		課局務主		裁	決	大臣	件	番受
了結	領受	出提	領受					號領
明治 三十三年 三月廿七日	明治 三十三年 十月廿四日	明治 三十三年 十一月廿日	明治 三十三年 月 日	  	 	 	 	名
聯帶局長								參事官
聯帶課長				主務局長	主務課長	主務課員	主計	廳名
審案筆者								

ワレ〇

十二月一日

大臣

次官

軍事

參事

陸軍省

1293

明治四十年十月十日

清國駐屯軍司令官中村愛三

陸軍次官田代新六殿

去月五日附陸密第二〇號ヲ以テ御照人魚相
可候元付願ハ喜多ノ大氣ノ件ニ付當座者
當座者長陸軍省長官大島那須大三郎
報告別紙通及進達候也

陸軍省
軍司令官
第九四号

十月十日

陸軍



1294

手

清國北京内城敬言祭總署より民政部呈出
 する報告中虚構の事實并に錯誤の要点
 を指摘し之に對し我憲兵の職務執行及現認
 せし事實、真相附記し以て御回答す
 一七月七日張壽芝の住宅に闖入致し其妻及生
 たる者此を拒み許さざりしに日本人が彼を廊下
 に推し倒し奥庭に抛入りし時張壽芝は不快に
 爲り病床に就き此に對する際云々トマルモ事
 實に決し然らば張壽芝の住宅に到り門番
 三名刺し通したる主人不在なり旨に答へ尤モ

査

目

1295

はつり
はつり

皇出	女点	及現認	及姓李	鄺下	不快	んも事	り明番
----	----	-----	-----	----	----	-----	-----

1295

此の字は
 お梅の
 通分

始メ正式家主丁錦ナルモノニ面會ヲ求メ
 ルニ依ル主人不在トアラハ張主人ニ面會シキ
 旨ヲ請ヒ門番齊桂林、案内ニ順路
 奥庭ニ這入りモナリ又門番ヲ廊下推し倒
 シタル等トハ虚構モ亦甚タレ同庭宅ニ正門
 ヲ入りテ奥庭ニ至ル間ニ廊下ト稱スルモノ無
 レ次ニ張壽芝不快ナル爲メ病床ニ就カント
 シツアル際ニハトアルモノナリ曾々大ニ相違ス當
 日同人現ニ地面ヲ翻キ頻リニ取リ片付ケツアリ
 タルナリ

ニ故川喜喜ヲシメ女カヲ教メ日本兵庭内ニ入リシ

武器ヲ提ケ居ルヲ曾見シ大驚惶トナリ
 云々トアルモ此日出張セシ憲兵伍長八重樫九
 郎右衛門以下、背廣又ハ諸襟、普通通澤
 服ヲ着用セリ獨リ、八重樫伍長ハ不慮故
 障ノ用意息トシテ拳銃ヲ上衣ノ右胸ニ納
 ノアリタルニ過キヌ

ニ日本兵ハ未ダ室ニ入ラズニ銃ヲ放チ窓戸ノ
 硝子ヲ破リ張壽司之角ノニ傷キ床ニ昏倒
 シタルニ云々トアルハ又事實實ニ反ル甚レ即
 チ張壽司甘之ヲ居室ノ外ニ觀ミ日隈キノ扉
 ニテ右扉ヲ半ハ押開キテ室内ニ這入ラントシタ

際川喜多ヲ抜刀拒抗ヨリ職務執行ス
 ルコトヲ得ズ止レタ得ス正當防衛上発射
 角シムンモノニテ窓戸硝子ヲ破リタムコトナシ
 四、昏倒シタム張壽正ヲ縛シ尚モ控人祁ナニモノ
 ラ召シ上ケモタトアムモ倒レタム川喜多ヲ道中馬
 車ニ乗セ從僕齋に桂林（祁トハ齋に桂林ナラカ
 策諾ヲ得テ同行シ一應ノ聴取ヲ爲シム
 而モニテ暫時ニテ同人ニ馬車中負テ去給
 ニテ飯宅セシメラレサリ
 五、後受持ノ警官カ多ク兵士武器ヲ携ヘ
 車中ニ三人ノ捕縛人アルヲ以テ直ニ詰問シテ

ル日本兵ハ銃ヲ以テ押壓キ云々トアルモ虚構
モ甚ク何トモハ當日張壽母之宅ニ出張
セシ憲兵ハニニ名モ押服ヲ受ケ用ヤンモノナリ又銃
ヲ持テ押ヤンモノナリナリ

六、警言官蒲田鳴^{ウシテ}警言告^ル以^テ査部長

文案急ニ追跡云々トアルモ是等ニ受持

警言官自己ノ責任ヲ辨^ハケシカ爲メノ遺言

ナリ途中ニ憲兵何等ノ故障ナリ憲兵被

害所ナリ^{キヤ}上^ルヤ^ルモノナリ又日本兵管^ハ同^ニ至

リシニ衛兵拒^テムルヲ許^サスト^ニ至^リ實^ニ無^キ根^拠ナリ

七、清國警言官カニ使^シ錦^ヒ至^リ警言家宗四者長

大喜多ク、面會シタル事、實ニ大
 喜多ク、署長、此ナキヲ主張シ、モ、特ニ責任
 ナキ事、件、説明ヲ憚リ、モ、何トモハ
 本事件、在、東京、憲兵、取扱、軍、警
 察、ニ属ス、ハ、キ、モ、ナシ、ナリ
 以上、現場、出張、セシ、重、程、憲兵、區長、報告、書、及
 同行、セシ、憲兵、上、等、兵、原、口、良、次、同、木、下、加、藤、託
 言、ニ、依リ、最モ、確、實、ナル、コトヲ、附、言、ス

次官より清國駐屯軍司令官へ

元休職川喜多砲兵大尉軍械保護法違反嫌疑
ノ虞アリ逮捕件ノ旨ハ量見外務大臣ヨリ主
本邦清國公使へ別紙甲部通リ宛書送付相
表名有處今般右宛書記載ノ趣ハ事實ニ依
セリ右ノ旨別紙乙部通リ清國民政部
ヨリ外務部へ移牒シタル公行清國公使ヨリ送付
致事有旨外務大臣ヨリ照會有之旨官為事實
取調上正急御田根取分

(別紙ハ外務大臣照會附添ノ申方ニシテ)

陸密第二〇〇 號

十月廿四

内閣

卷之七



外務省

1304 1303

機密送第六三號

河喜多休職破兵大尉軍械保護法
 違反終事件ニ突シ暴ニ申上之旨
 ト少協議ノ結果本件ニ弄ス覚書別
 紙甲子通テ本年郵傳省ニ使ハ送
 付相成片々今般口ニ使リ在覚
 書記載ノ趣ハ事一實ニ相違ヤル旨
 以別紙乙子通文ニ通テ清王民政
 部ヨリ外務部ニ移牒ニルニ信送付
 致来リ右右長ニ及リ移牒ヨリ存件
 ニ突シ為一懸案其ノ如何ノ上ハ我
 シ東京相成片々今般口ニ使ハ送
 付相成片々今般口ニ使ハ送

明治三十二年十一月十三日



清王民政

1305

手

外務

名	氏	氏	氏	氏	氏	氏
付	氏	氏	氏	氏	氏	氏

1305

冬子

一

外務省在四書業成部業成部

河

從德

外務省

陸軍大臣青木宣親



吉中邦彦公使ニ年々父老シキ

高年者

自称高年人張壽長ハ其父帝國陸軍
砲兵大尉壽多大治郎ノ妻名ニシテ
現役軍人タルニ拘ラス曩ニ踪跡ヲ晦マシ
且ツ犯罪ノ嫌疑アリシ依リ帝國政府
於テ其居所ノ捜索中ニ其父帝國
公使館守備兵堂山憲兵派出所員カ
偶々前記妻名ノ下ニ其父人ノ服装アリシ
門樓胡同ニ立ルヲ知リ且ツ其父ニ他ニ踪跡ヲ
隠サントスル形勢ノ急ムルヲ探知シタルヲ以テ
第一機舎ヲ急セシカ再ビ之カ消息ヲ得
知テ其父大尉一日憲兵ニ其父派出所ニ到

穩カニ之ヲ後論シテ憲兵派出所ニ以テ
 セントラントノハ自ラノ紀罪ヲ甚見セラシムルヲ
 為セシカ憲兵刀ヲ拔キテ彼等ヲ害セトシ
 タルヲ以テ憲兵ハ危急ノ場合已ニ得ス正
 當防衛ノ為メテ銃ヲ放シ人ノ暴行
 ヲ鎮壓シ得テ憲兵派出所ニ連シ帰
 リタルモノナリ要スルニ本件ハ帝ノ臣民
 タル一軍人ヲ所轄憲兵カ穩便ニ以テ
 セントシタルヨリ若生シタル事柄外ナ
 ラズ而シテ前記ノ以テ形勢急転事
 態切迫ノ為メ本件ノ如ク情ヲ急急
 憲ニ通タルノ機ナリ故テ法廷以テ之ヲ
 豫メ事ノ真相ヲ解セラルニ由ナカリレハ

遺憾なりと云ふ事も前記に事、
 思ふに伴ふ事、情止むを得ん、
 テクンモノナリハ、
 ル、
 信ス

漢

民部
戶部
工部
刑部
禮部
兵部
吏部

拜殿内城、於此、張壽長、
 七月、日、平、公、使、館、張、壽、長、
 門、樓、胡、同、張、壽、長、
 生、李、名、此、
 彼、
 時、張、壽、長、
 元、
 四、
 張、
 張、

乃、傷中府上ニ命倒シテ、口本兵ハ乱入シテ
 張壽之ヲ傳シ、為主内ニ存セル事類及
 僅人初ル者ヲ召シ上ケ、護送シタリ、後
 受持ノ難ク、皮カ多クノ兵士武署ヲ捕ヘ
 車中ニ之ノ捕傳者アルヲテ、主々ニ治
 理シタル口本兵ハ銃ヲ以テ、押シ開キ南方
 ニ向テ馳走セリ、該驛ヲ皮カ留ヲ鳴シテ、教令
 告シ、以テ重部長文安急ニ追跡シテ、日
 市兵學ノ門ニ至リ、口本兵拒テ入ルヲ許サス
 次テ、驛ニ出テ、海署ヨリ、皮カ負テ、浪シ、口本公
 使館ニ至リ、口本使館ヨリ、浪シタル口本使館
 驛ニ出テ、署長大喜多ハ、決シテ、此事
 無キヲ主張シ、後、以テ重部長文安ヲ伴

亡彼を及デ姓ノ家ハ其妻アを捕傳
 之シテ張妻を其ハ日中陸軍ヲ討ノ政名
 ナリトテ其時ニ實兵ヲ用テ其妻一匹
 ナルセシメ
 以上ノ情形ハ署員ノ詳細ニ取調メ諸
 果衆人ノ其ニ申之テ其確言を以テ
 リ云々
 右ノ如シト云々

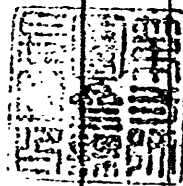
ETET

明治三十一年八月七日

密發号外

第一師團參謀長橋本勝太郎

陸軍省人事局補任課長草生三郎殿



左記ノ者、関シ一應取調ハ其処本人ヲ渡清等
ノ事ニ就テ何等申出スル迄、届出オノ事ニ於テモ
別次ノ通リニシテ勅諭金、不明ノ次、外ニ吾間此以
及片内報、也

左記

休職陸軍砲兵大尉川喜多大次郎

秘

1315

一明治三十九年九月二十九日付職當時に北の六籍面記載
一市籍地の東京市芝区愛宕町二丁目五番地ニシテ別
届出ナキ属、縣區區目ナキナリ察スルニ舊リ太一坊
所ニ宛送付スル所在不明ニシテ返戻セラレタルコト
了。其後調査、結果本人現役中(明治三十五年
八月十日)芝区芝区市芝区富久町四十八番地ノ
新籍ト更ニ明治三十九年十月六日芝区芝区市芝区
愛宕町中野町三十三番地ニ番地、新籍ト被
付。居住し居ルコトヲ発見スルニ前後二回、届
出ヲ為サレシモノ付明治四十年十月十九日及同年

十月廿六、兩度、之、
 以、
 大、
 以上

極秘

河喜多大尉ノ官勲位ヲ其生前ニ遡リテ剥奪スヘキヤ

一 司法處分トシテハ問題ハ簡短ナリ即被告人ノ死去ハ
公訴權消滅ノ一原由ナルカ故ニ既ニ審判ニ著手シ
タルトキト雖被告人死去スレハ其被告人ハ無罪者
ヲ以テ待タルハ勿論ナリ況ニイ本件ノ如キ未被告
事件トシテ提起シアラザルモノヲヤ

二 行政處分トシテハ問題ハ稍複雑ナリ本人ニ重大
ノ非行アリ其性質上本人ヲシテ官勲位ヲ保有
セシムルノ甚不可アルモノアルニ決セハ本人ハ既ニ死
亡シタリト雖扱ヲ以テ生前ニ其官勲位ヲ剥奪

左

星

セラレタルフト、スル等ノフト亦妨ケナレトス然ル
ニ愈生前ニ逝リ官勲位ヲ剥奪スルニ付テハ左
ノ各項ニ付遺漏ナキヲ要ス

大尉ハ職務上ノ地位ヲ利用シ軍事上秘密ヲ
要スル圖書ヲ竊取シ由テ以テ外國政府ヨリ不正
ノ利益ヲ得タルモノ、如シ果シテ然リヤ事實ノ認
定正確ヲ要スルハ惟リ司法處分ノミナラズ行
政處分亦然リトス大尉ノ死後、遺レル書類等
ニ付テ推測スルトキハ亦テ此等大要ノ事實ハ明
ナリヤ蓋シ多少ノ疑ヲ免レザレ

大尉ハ去ル五十九年以來專前項ノ事實ニ付テ嫌

疑フ被フリレ者ナルモ今日に至ル迄行政處分ヲ
 モ受ケス刑事被告人トモ爲ラリレハ要スルニ具
 體的證據備ハラリレ爲ナラン然ルニ今回大尉
 ノ官勲位等ヲ剥奪スルモノトセハ實際ハ死後
 ニ判明セル事實ニ對シ生前ノ官勲位ヲ追奪スル
 モノナリ死後ノ追奪ヲ生前ニ剥奪ノ体ニ装フ上
 ニ於テ彼此擇フナキモ生前ニ判明セル事實ヲ理由
 トスルモノト死後ニ判明セル事實ヲ理由トスル
 モノトハ自ラ異ナルモノアリ随テ事實亦勢
 生前ニ判明セシモノト取繕ハカルヲ得サルヘシ斯
 クスル上ニ於テ上奏等ノ手續ニ故障ナキヤ

以上二項
 意見ノ通りニテ然ルヘシト思考ス
 本件ハ冬事官

系子官

一電報記載ノ如キ証拠アル以上官位勲章褫奪ノ
 處分ヲ為スル至當トスヘク又剥奪ノ行政處分ハ所
 在裁判ト關係ナク之ヲ加フルコトヲ得ルモノナルヲ以テ本
 件ノ如キ起訴ニ至ラザンモノニ對シ世々處分ヲ為スル
 固ヨリ支障ナシト雖本人ハ既ニ死亡シタルカ故ニ本
 處分ハ死亡ノ日ニ溯リテ之ヲ為スル要ス然ルニ本件ハ
 本人死亡後秘密圖書及支那陸軍勲章ノ没収
 書換等ヲ其兄ニ從ヒ初テ本人ノ本台ニ背キタル
 確証(軍機保護法違反ナルヤ否ヤハ裁判ノ決定ヲ

何んぞノナルヲ以テ剥官苦ノ處分ニ要係ナシヲ獲
 得シタルモノナルカ故ニ死之前ニ瀕リテ剥官苦ノ處分
 分ヲ加フルハ即チ事實ノ旨ニ此等ノ政令分
 ヲ為ス外ナラズミテ其當ヲ得サレ、要係ト云ハサレ
 ヲ得ス或ハ事件ヲ以テ依り依るトキハ本人ノ官位
 喪失ハ消滅セサルノミナラズ遺族ハ扶助料ヲ受ケ
 ルノ不都合ナキコアラサルモ右ハ本人死之後犯罪者
 若シタル場合ト同シク現行法令ニ其要係ヲ認
 定セサルモノニシテ已ムヲ得サレ所ニ屬ス
 以上ノ理由ニ依リ事件ニ對シテハ行政上何苦ノ處分
 ヲ加ヘス此等ニ為シ置クノ外ナシト思考ス尚事件

二付此例ヲ調査セルモ亦タ死亡者ニ對シ潮ヲ剥
 官苦ノ憂分ヲ加ヘタル例ナシ
 一本人ヲ射殺シタル處ニ甘テハ手続書ヲ提出
 實際中常防備ニ出テ已テ得サルモノナルヤ否ヲ調
 査スルヲ要ス

秘

取扱者

電報

八月二日午前九時十分發
午後一時三十分着

陸軍省 岡少将宛

在北京

松井大尉

ト喜多太尉今日廣邸ニテ我軍兵ノ多ク速捕セシモ速
捕ニ際シ極力抵抗シフルヲ遺憾ナガウ遂ニ之ヲ射殺セ
リ後ヲ檢察處分充分ナルヲ得サハモ押収シ得タル秘
密書類及支那陸軍側ノ往復書類等徴スルモ眾跡
殆ント疑ナリ官位勲章被奪處分ヲ要スルモト認ハ遺
骸明日当地ニテ送葬シ遺骨所持品等凡テ追テ貴
部ニ送附ス見込番細文

陸軍省

内

1324

後醍醐天皇 四十六

河本より休職馳兵大尉軍械得渡は事及
婦親事件之事は左清河印傳付代理に
封じ別河有甲早由て書被及置る事
別河有子由て通電有る事右重
二面迄及以送付る旨同書有る事此段
申進る事也

以て四年より

外務大臣寺内正毅

陸軍大臣寺内正毅

甲号

電信

明治四十二年八月二日午後零時三十分發

在清

阿部臨時代理公使

寺内大臣

第一六七号

阿部喜多休職砲兵大尉軍機保護法違反嫌疑
シテ八月一日北京憲兵派出所へ同行ヲ求メラレシ處同
大尉ハ抜刀シ極力抵抗シタルタメ憲兵伍長ハ已ムヲ
得ス之ヲ射殺シタリ其所持ニ係ル多數ノ秘密山圖
書ヲ發見シタリト云フ猶本件ニ付搜查ハ繼續スヘ
キモ自然外國人又ハ外國官憲ニモ關係ヲ及ボスト
アルハキニ付當該官ハ極メテ秘密ヲ守リテ行動
スヘキ旨訓令ヲ受ケ居リ貴官モ右所令ノ上

1327

注意アリタシ

外務省

乙号

寺内外務大臣

阿部代理公使

北京奏
 本年八月二日
 前二日
 本有着

第 二 一 三 号

貴電第一六七号^件ニ関シテハ、最初本
 官ニ相談ヲ受ケタル上決行セラルレ
 タル儀、^件其後ノ成行ハ至ノ事、總
 無事ナリ。又所轄巡警分署ヨリ
 使者ヲ以テ執警署署ヘ本件ノ
 事實ヲ問合スル外清國ヨリ
 何等公然ノ交渉、接セス。尚本件

既
之
執
置
ケ
リ
右
御
参
考
迄

ヲ
秘
密
、
附
ス
ル
、
必
要
ナ
ル
手
段
ハ

至急

次官

軍務局長

参事官

閣

1330

本件大體に於て参事官ノ意見ニ賛成ナルを嫌疑者ヲ取
調ヘスレテ此上罪證ヲ得ルコトハ殆んど望ナカルハキニ寧此
際証告事件トシテ若年スハ方然ハハカラント思考ス其
事由及順序左ノ如シ
本件之ヲ犯罪ト假定スルキハ軍機保護法違反ナリヤ
將々單純ノ密竊取ナリヤ軍機保護法ニ所謂軍事
機密ノ何モノナリヤニ付テハ同法發布ノ當時(壬午)大々
詮議ノ未解釋モ定ナラレ司法省ヘハ通牒等モ爲シ
アルコトニハ嫌疑者ノ密取シタリトモ戰間詳報カ果シ
テ此軍事機密ニ値スルモノナリヤ否此点ニ付テ先ツ

軍務局又ハ參謀本部ノ意見ヲ徴シ決マランヘキナリ果シ
 テ北戰聞詳報ハ所謂軍事秘密ニ値ヒスヘキナリハ
 嫌疑者ノ行為ハ無論重罪タヘキナリ故ニ公訴ノ時效ハ
 十年ナヘモ若シ之ニ値セリハモナリハ軍紀ノ所勿論止
 ヲリ輕罪ナルヲ故ニ其時效ハ三年ニシテ明年ハ即時效
 ニ達ス而シテ前陳ノ如キ此終已ニ得タヘ以上ノ證據ヲ
 得ハエトハ期シ難キヲ故ニ今日ヨリ被告事件トシテ若年
 セリリハ寧少シリ時機ヲ失シタヘノ感アリ證據ノ備不
 備ハ固ヨリ程度ノ問題ニ屬シ別紙ニ見ハ如ク紛失
 レタハ戰聞詳報ハ若リ嫌疑者ヲ在職中ニ其向日
 リ配賦ノモノナリト云ヒ嫌疑者ヲ轉任ノ際多量ノ書

必藉様ノモノヲ風呂敷包ニテ自宅ニ持下ケタリト云ヒ清國
 ニ於テ嫌疑者ハ何某ヲシテ多量ノ書籍ヨリ印影ヲ
 抹殺セシメタリト云ヒ、嫌疑者ハ渡清後僅少ノ年月間
 ニ七ヶ條圖ヲ仮装ノ名ヲ以テ内地ニ送金ニ地所家屋
 ヲ購ヒタリト云フカ如キハ之ニ付テ一應私罪ノ推測ヲ下ス
 亦強ク失當トスルヲ得ス以上ハ急ニ著年スルヲ然ルヘシト
 スル事由ナリ

著年ノ順序トシテハ他ニモ方法アルハキモ先ハ一切ノ書類
 ヲ蒐集スルニ付テ幸ニ此他ニ證據ノ蒐集スルキモアラハ
 蒐集スルキモ差向ナシトスルハ此後檢案處分ヲ一ニ結
 ヲ切テ並ニ罪名ヲ以テ嫌疑者ノ本籍所管師團長ハ

第二ノニ具申セシテ次テ理事ニ令メ之リテ駐在軍憲
 兵ニ向テ令狀執行ノ事、檢證、押收等ノ事ヲ囑託
 セシメ之ト同時ニ參事官ノ意思見ノ如ク外務省ニ内々
 交渉シ其令狀執行、檢證、押收等ノ實行ニ關シ外
 交上ノ紛議ヲ招リ得ノコトヲ極力前以テ打合スル方然レ
 ヘシ

山部

次官より司法次官への保案

今般軍様保護法案令を既候處同法中軍
 事と秘密ノ文字ノ意思義汎博ナルモ右ノ事
 う國防及作戰ノ利害ニ重大ノ關係ヲ有スル
 事ノ就テノ謂ニモテ秘密ヲ要スル總テノモノニ
 就テノ謂ヒモ非カルモノト立案、當時御協議
 及ヒ置中候通ニ有之而モ其無形ニ屬ス
 ル諸般ノ事項ハ豫想シテ之ヲ列擧スルリ
 得スト雖モ其有形ニ屬スルモノ即圖書ニ至
 テハ殆ダ之ヲ豫定シ道ヲフツテ得ヘキニ因リ當部

内ニ於テハ別紙記載ノ如キモノヲ以テ所謂軍
事上秘密ニ屬スルモノトスルノ内議ニ有テ属御
参考ノ内由候也

(別紙陸軍秘密圖書ト題セラルヲ添フ)

一 作戰計畫要領書 作戰計畫訓令 某年度作
戰計畫訓令

二 大本營勤員計畫令、勤員計畫令、勤員計畫訓令、要塞防禦計畫書、要塞勤員計畫訓令、某年度陸軍各部團隊勤員計畫概見表、勤員計畫調查報告規則、勤員用兵器被服糧食器具材料貯藏區分表、勤員計畫表、作戰計畫、伴、鐵道船舶輸送計畫、圖書、兵器表、要塞彈藥庫附規則、

三 國防用防禦工事造物ニ係ル圖書及要塞近傍
一万余以上ノ様尺圖

四 戰時大本營 編制、戰時編制、戰時編制理由
書、陸軍々編擴張理由書

五 戰時軍用通信書ハ（電信暗号、信号書、類）
六 謀報（最近秘密ヲ要スルモノ）及秘密ヲ要スル外

國地圖

七 其他前述項ト同一程度ノ秘密ヲ要スルモノ

法局長

閣

系事官



本件犯人ヲ犯罪嫌疑者トシテ拘引セントスルハ通常ノ
 手續ヨリスレハ清國政府ニ向テ犯罪人引渡ヲ請求ス
 ルニ在ルトモ我國ト清國間ニ有テ犯罪人引渡条約
 ナク是レ清國ニ於テ有テ引渡ニ應ズルモノト云フハ現
 ニヤ犯罪人引渡ヲ請求スルハ改ニ有罪ノ宣告ヲ
 為セルカ又ハ確定ノ證據アリテ本人ヲ拘引スル場合
 ニ限ル本件ノ如キ有テ推測ニ止ルモノニ對シテハ引渡
 ノ請求ヲ為スヲ得サルモトス然ルニ清國居留地ニ在リ
 テハ從來犯罪人又ハ其嫌疑者ヲ我居留地警察

花

七

警官に於て逮捕差ハ拘引又捕合に依りテ法國內
 地ニ在ルモノサハ引改スルノ慣例アルヲ以テ一應外務省に
 打合ノ上天津居留地警務官に囑託シテ本人ヲ引
 改スルハ左程ノ難事^{難事}ニ加ヘ犯人ハ現役軍人ニ
 シテ本人ハ駐屯軍所在地附近ニ潜伏スルモノナルヲ以
 テ右慣例ノ如何ニ拘ラス軍隊ヲ駆走セシムル當然ノ條
 果トシテ駐屯軍憲兵ヲシテ本人ヲ拘引セシメ檢案ノ手
 續ヲ為サシムルコトヲ得ヘシ然レモ茲ニ考究ヲ要スルハ
 本件ニ付テハ未ダ確タル犯罪ノ證據ヲ有セス從テ
 本人ヲ拘引ノ上居宅等ニ就キ家宅搜索等ノ手續
 ヲ為スル要スヘキニ此手續ハ獨り本人ニ止マラス清國人

又ハ場合ヲ依リテハ外國人ニモ影響ヲ及ス力故ニ左述
 フルカキ從來ノ慣行又ハ單純ノ理論ヲ以テ斯ノ如キ
 搜索處分ヲ為スヲ許サズ依テ今少シク内密ノ調査ヲ
 為シ有力ノ證據ヲ得ルヲ努メ其止ニ於テ本人ヲ逮捕
 又ハ拘ルルヲ適當ナリト思考ス若シ又此處本人
 拘ルル證據スルコト能ハサルノ事情アリトセバ實ハ前
 述ト外務省ニ協議ノ上他日ノ面倒ヲ惹起セサント注
 意スルヲ必要トス

尚本件ニ付テハ法務局ノ意見ヲ徹セラル、ヲ可トス

秘書
官受
月
日

極秘

參事官

1341

參謀
本部
記
第一
二
二
六

明治四十年七月廿二日

參謀本部次長男爵福島安正

此中乃有書付石印新之

法以濟富塞月保官張國瑞
經集衆人書紅藥之迴送海各口均
查上上以安分亦未樹口少計亦未以少

及
福
成
之

追古在耳中百步五所急月夜何月按生

氏と氏を字と
 8字失報告
 1之ニヒテ
 要領ヲ得ナ

リレニ依、嚴重に以て、其歟来り報告スベキ方ね

三三

大正其間多作ノ書卷其ノ大正ニ至ルハ
 タルノ即チ其ノ中實其ノ用使被テ其ノ
 臣 宣

1343

本館
秘記第一二二號、五

七月廿二

八六

明治四十一年七月二十日

第五師團參謀長古海嚴潮

參謀本部總務部長岡市之助殿

報告

明治三十九年中廣島灣要塞司令部、於參謀本部發行、係ル秘密面書紛失、付取調ノ結果別紙、通、候条關係書類添付此段及報告候也

別紙

一 廣島湾要塞司令部保管ニ係ル秘密圖書

紛失目録別紙ノ通り

二 紛失ノ發見、三十九年八月同部副官柳井工兵大

尉部内ノ圖書整理ノ結果發見ス

三 秘密圖書ノ取扱、司令官加藤少將ノ意圖

ニ依リ部内將校ニハ研究ノ資料トシテ隨意

ニ閲覧ヲ許セシテ此ノ間若シ部内將校カ窺

取ノ目的ヲ以テ手段ヲ講セハ發見スルト容易

ナラス

四 搜索ノ手段、紛失ヲ發見スルト共ニ司令官ハ同

要塞參謀桑田砲兵少佐及同副官柳井工兵
大尉ヲシテ其搜查ニ努力セシメタリ其結果
今年六月清國武備學堂ニ應聘シタル元要
塞參謀砲兵大尉河喜多大次郎カ勝テ前
記紛失ノ圖書ヲ使用シ竊ニ携行渡清シ
タルノ形跡ヲ認メタルヲ以テ一面廣島憲兵隊
長八代中佐ト内議シ又憲兵隊長ヨリ河喜多
大尉ノ現任地タリシ東京憲兵隊ニ内報シ
各方面ヨリ協力搜查ヲ繼續シ以テ今日ニ及
ヘリ

尚該搜索ハ東京憲兵隊長ノ手ニ於テ繼續

シツ、アリ

五、紛失ノ理由、紛失發見以來要塞司令部内
外種々搜索、手段ヲ盡セシモ今日に至ル迄
何等ノ形跡ヲ認メス而シテ河喜多大尉
ノ動作ニ就テハ未タ具体的ニ其證跡ヲ捕捉
スル能ハカルモ諸種ノ方面ヨリ推測セハ今人ノ
處為タル畧ホ確實ナルカ如シ

前記ノ理由ニヨリ紛失ノ原因ハ全ク同部將校
ノ竊取ニ由ル者ト認ム

以上事由、詳細ハ別紙要塞司令官ノ報告憲
兵隊長ノ通報ノ如シ

別紙

紛失不足戦闘詳報目録

種

類

番

號

冊

數

自三十八年二月二十二日
至全軍四月十四日 鴨緑江軍戦闘詳報

第一軍戦闘詳報

自八月二十三日至九月五日
遼陽附近、於ケル 第一軍戦闘詳報

自十月十日至同月十六日
沙河會戰、於ケル 第一軍戦闘詳報

自三十八年二月廿四日至三月七日
奉天附近、會戰、於ケル 第一軍戦闘詳報

自七月二十日至同月二十五日
大石橋附近、於ケル 第二軍戦闘詳報追加

第二軍戦闘詳報(第三師團中追加附表)

自七月廿三日至同月廿五日
大石橋附近、於ケル 第二軍戦闘詳報追加挿入圖

六月二十六日、於ケル 第三軍戦闘詳報

第一號

第二號

二

二

二

一

一

一

一

一

一

七月三、四、五日、於ケル	第三軍戦闘詳報	第二號
七月廿六、廿七、廿八、於ケル	第三軍戦闘詳報	第三號
七月三十日、於ケル	第三軍戦闘詳報	第四號
八月七、八日、於ケル	第三軍戦闘詳報	第五號
八月十九日ヨリ同二十四日迄 旅順方面、於ケル	第三軍戦闘詳報	第七號
自十月二十六日迄十一月廿六日 旅順方面、於ケル	第三軍戦闘詳報	第十號
	第三軍戦闘詳報	第一卷
	第三軍戦闘詳報第一卷附圖	
	第三軍戦闘詳報	第三卷
自三十七年十月一日 至同年同月十日	第三軍死傷表	
自十月二十六日迄十一月廿六日 旅順方面、於ケル	第三軍死傷表並准士官死傷者名簿	

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

第...

1350

明治四十一年七月四日

廣島臺灣要塞司令官川谷致秀

第五師團長男爵木越安綱殿



廣島要塞司令官印

第五〇號



當部隊後三十七年戰役戰闘詳報に失ふ是件に就
即其詳細別紙加添前任司令官、朝末迄加ふ有
之本年一月着任後之力量、申述す要す南來憲兵隊
ノ結果ヲ待つ一方、川喜多、大尉以外不足者有
果ニ就キ捜査ヲ遂ケシ他、手懸リミエ、朕此を見仕

臣

臣

依而四月之カ報告を呈出するに至りて是より居世今
 圓更に關係者、觀末を以て及是より

始末書

庄治郎儀

明治三十八年三月以降三十九年^{戦後}戦國諺報、既布リ
要ク之カ保管方取扱中司令官ノ命ニ依リ研究資
料トシテ自由ニ各將校ノ閱覽ニ供シツ、アリシガ全三
十九年八月之カ出細リ明ニセカ為嚴密ニ調査セシ、別
紙、通不足ヲ告ケ既ニ付爾后諸種ノ方面ニ精査リ
遂ケシモ發見不仕依ラ全三十九年十二月工兵第五大
隊附、轉任、際任者ハ詳細ノ申継リ為シ置候
右ハ左ノ庄治郎が秘密因テ取扱、粗漏、原因スル
第ニラ悲縮、不堪此段始末申上候也

明治四十一年五月一日

元廣島湾要塞副官

柳井庄治郎



前住司令官 加藤 泰久
 全 参謀 桑田 安二郎
 全 副官 柳井 庄治郎
 手賣書

戦聞詳報紛失、因る願未書

明治三十九年八月當部保管三十八年戦役戦聞詳報紛失不足ヲ生シ候處元要塞參謀多シ川喜多大尉兵大尉清國、傭聘赴任ノ際持行キシ形跡歴然多シリ以テ參謀桑田少佐副官柳井大尉、命シ搜索、從事セシメ先ッ參謀ノシテ今年十二月口頭ヲ以テ師團參謀長野島大佐、報告口ナリシノ一方廣島憲兵隊長八代中佐、依頼シ川喜多大尉、就テ搜索方ヲ要求多シ當時憲兵側、在ラ、店島ヲ搜索スルノ外全隊府中村憲兵大尉、川喜多大尉ノ居住地

ナル東京ニ派シ訪種ノ力復ラ遂ケルモノ如
 ヲ再後憲兵隊搜索ノ結果ヲ待テ通應
 ノ處置ヲナシト之カ通報ヲ期待シツ、アリシモ
 的確ナル結果ニ就テハ何等得ル所ナラズ
 四十年十月後任者、申継ヲナスに至リ

明治四十二年六月十二日

陸軍少將加藤 久



明治三十二年六月八日

陸軍砲兵少佐 桑田安二郎

廣島要塞司令官 川谷致永殿

副官柳井五右衛門 明治三十二年十月五日 兵部第五大隊へ轉任せし
付下官申継ヲ受テ又後ケ戰闘詳報紛失ノ件ニ関シ報

ヒシテ續書

副官柳井五右衛門 兵部第五大隊へ轉任ノ際廣島要塞司令官部
備付圖書中戰闘詳報紛失ノ件ニ就テハ已デニ第五師團
司令官へ報告シ且ツ廣島要塞兵隊へ届セテ目下搜索中ナ
ル故ニ紛失ノ実ニテハ相違ナシトシテ然レテ又後其節ヲ

陸

軍

1357

第四号

一、富分等、富分隊搜索ノ結果ヲ待ツルハ、状況イリシガ故ニ特
 ニ角立ケル中継ヲ受ケルキ故ニ、三十九年十月下旬ヨリ四十
 年月十日新任教友松山太尉等、此件ニ関シテ、何等
 ノ手續ヲモルサズ、專ラ其節ヲ、第一待ツト、同時ニ富分隊
 搜索ノ結果ヲ、悉ク知ラシムル希望セシム。

備考

一、本支中、第五師團司令部ハ、報告セシメタルハ、紛失セシメ、後
 見セシ當時、加藤司令官ノ命ニ依リ、下官自カラ、紛失セシ、同
 書目録ヲ携リ、第五師團司令部ニ到リ、當時、新隊長野
 島芳太郎大佐ヘ口頭ヲ以テ、委細ヲ報告セシメ、ラリ、ナリ
 (昨日、確實ニ記憶セカンモ、三十九年十月初旬ナリトナシ)

二 在市中唐島富兵衛へ而せ目下捜索中ト見テ前頂ト
 曰日加藤司令官ノ命ニ據リ副官柳井大尉以下官
 兵唐島富兵衛ノ部ニ移リ隊長ハ代中佐ニ而合シ親シ
 御失ノ状況ヲ尋テ語リ且ツ先任要塞長保ヲシ川喜多
 砲臺大尉ノ持テ来ニテ強ニト疑ナキ故ニ情報ノ回復セ
 事頂ヲ引渡シテ而テ同大尉ニ就キ捜索長ト要求セ
 シテテマナリ

富貴無所搜索ノ方及進取ノ概要

一、川喜多大尉が廣島係要塞を深見陸王へ轉任スル者對
向大尉と同行セシ馬下(廣島ニテ終テ鹿死ス)ヲ取調ベシ結果左

ノ
フ
石
ノ

川妻多太尉轉任、當時戰開詳敷、其稿に大部冊ノ書籍ヲ要
 卷ノ全却リ、自宅と持テ歸ル、コト命セラル、そノ大ニ風を敷ヒ包
 ミテ渡サシ言、丁ニそノ大尉自宅と持テ歸リシ

為キ情玉ニシモ曰、稿ノ書籍、現ニシテ、コト思ハル、ト云フ

二、今川妻多太尉が清玉へ伴ヒ行キ、書生ヲ取調ニ結果存

コト知得

或日清玉、今川妻多太尉ヲ命ヲ委ケ、數十冊ノ戰開

詳敷ニ持仰シ、然ル、鷹島修要集ノ全部

(その果シテ如何ん云
 字アリシハ詳カク云)

ノ官印ヲ撫リ消シ、トアリ

三、川妻多太尉、東京中野村ニテ約千坪ノ地所ヲ得シ、之ニ

自己ノ家存リ、新築シ、且、其近傍ニ教軒ノ借家ヲ建テ、初ニ

賛書ニ書きたるなり（川越多々米森食前よりなり）

此書頂の取調で得たもの川越多々米の宛取せし今一層の確實
 其証據ナキ以テ其書一巻の送ナリ川越多々米の宛取せし今一層の確實
 純の如くしナリ不例今家宅に於て其書一巻の送ナリ川越多々米の宛取せし今一層の確實
 印し記し以テ其書一巻の送ナリ川越多々米の宛取せし今一層の確實
 へ寄附し申送り曰降ニテ其書一巻の送ナリ川越多々米の宛取せし今一層の確實
 為スレバナリナリ其書一巻の送ナリ川越多々米の宛取せし今一層の確實
 之等其書一巻の送ナリ川越多々米の宛取せし今一層の確實
 センモノトナリ其書一巻の送ナリ川越多々米の宛取せし今一層の確實
 其後ハ代少佐の任に任じられ現職に任じられ其書一巻の送ナリ川越多々米の宛取せし今一層の確實
 其後ハ代少佐の任に任じられ現職に任じられ其書一巻の送ナリ川越多々米の宛取せし今一層の確實

野島秀保長が青森の戦隊長に代り八代隊長の
 後継役に引越せし中村大尉は横田に轉任をかるも
 後何等の消息をなげ候過しより而して東京富永隊
 員を何等ノ職務モナカシテ其後四年十月次中村大尉
 大尉大尉の房島富永が隊長に轉任したるが故に再
 び大尉に官過し故に件ノ進擧に就て口をなせしを富永
 隊ノ職務に就て得ル所ナシト返答す

明治三十七年八月
開闢部報告終矢、開し之が
捜索顛末書

第一、終矢ヲ發見シテ取扱ヒ、開し取リし手段方法

該書、終矢ヲ發見セシハ明治三十九年八月頃ニシテ直ニ其旨
ヲ當時ノ廣島海軍塞司令官加藤少將及今要塞參謀
桑田砲兵少佐ハ口頭ヲ以テ報告セリ

第二、捜索、開し執リし手段方法

該書ハ既布リ受テ、以來部内各將校ノ閱覽ニ供シ、ワリ
シガ三十九年五月下旬迄要塞參謀タリシ川喜多砲兵大尉
が左年六月頃清國武備學堂ノ教官トシテ赴任ノ際或ハ
納ルコトナク其供持行キシモノニアリタルヤノ感ヲ起シ尚一處

調査ヲ遂ゲシテ終矢ノモノニ悉ク令氏在職以前、配布ヲ受ケシコ
 係ルコトヲ蓋前記ノ底ヲ深クシ司令官及参謀、局告協議
 ノ上先川喜多氏、就ウ捜索スルコト、決シタリ依ラ一面、此
 時在軍中ノ令氏ハ宛副官部書記花野工兵上等工長（態ト小
 官ノ養候者タルヲ避ケ）ヲシテ私任ヲ以テ右終矢書ヲ所持セラルヤ
 在ヤウ懇談的ニ同合シタルハ令氏ハ清國ハ赴任ノ片悉ク小官ハ
 返附セシム願簡單、花野ハ返任シ来リ尚一面ハ當時小
 官ノ馬丁タリシ廣島市東白島所、在住（小官ハ左西白島町ハ
 寓居中ナリキ）ハ熊野源藏ノ友人ニシテ元川喜多氏が清國
 赴任ノ際傳入セル馬丁吉岡某ナルモノハ熊野ノ附近ハ住居中
 ナリシヲ聞ク左人ヲ司令部ハ昨ヒ寄セ右終矢書（熊野源藏）俸裁ツ安見
 セシメ令氏ガ所持セシヲ認メタルコトナヤウ尋ネタルハ令氏ハ大要ハ

ノ如キ陳述ヲ爲シタリ

(一) 左氏ハ赴任前内装品ノ何タルニ知ラサルモ風呂敷包シタル多
数ノ書籍ヲシキモノヲ左人へ渡し左氏當時ノ在廣島寓宅
へ持歸ラシメタリ

(二) 川喜多氏ガ書生トシテ清國へ連行キシ其ナルモノガ多数書
籍(表紙ハ赤青等ナリト也)ノ表紙、押捺シタル司令部書籍所
ノ類似セル印章ヲ左氏ノ存ニ依リ塗抹シタルアルヲ認メタリ(該
事實ガ廣島ニ於テハモナリシヤ將テ清國ニ於テハモナリシヤハ
尙未周知ハ陳述セシカク記憶スルモ目下明瞭ナラズ)

(三) 前記印章ヲ塗抹セシ多数ノ書籍ガ清國ニ於テ左氏ノ机上及
書籍箱ニアルヲ度々見タリ

又左氏ガ在廣島來清國へ連行キシ下其ナルモノ右調査當時

八矢張廣島、在任し前記吉岡某ト由縁ノ夫婦トナリ辰由岡ニ
 して中爲考考々人ヲ小官ノ自宅ニ呼ビ寄セ戦闘諒解ノ付裁ラ
 見ヤシノ尋同ヤシ、前記(二)(三)ト略左様ナハタリ
 右吉岡夫妻ヨリハ當時夫々ニ供書ヲ徴シ押捺セシメタリ
 尚前記書生某ナルモノ付テ調査リ送テ度ヤモ當時左人ニ在
 座中ナリシ以テ其意ヲ得ズ(尤一度小官ヨリ私信ヲ以テ問合シタル
 未知小官が書面上ノ崗左ト云ヒ且ハ左難ク爲ヒタルカ何モモ
 カルヲ回答セシカト如リ記臆ス)依ラ司令官及参謀ト協議ヲ遂
 司令官ノ命ニ依リ参謀ト合行(其時日ハ同年八月頃ナリ)當時
 ノ廣島憲兵隊長八代中佐ノ許ニ至リ紛失書籍目錄川喜多
 氏ノ返信ニ前記口供書ヲ呈シ尚口頭ヲ以テ若干ノ参考材料
 ト司令官、佐々木推所トシ左中佐ハ陳述シ之ヲ搜索方リ依頼セシ
 左中佐ハ當時ノ右隊長中村憲兵大尉ハ其搜索主任ヲ命ゼタリ

其後、左隊ニテ、吉岡某、就キ直接若クハ調査ヲ遂ケシモノ、如ク左
隊長及左大尉モ司令部ノ意向ト左様ナル推斷ヲ爲シタル者ヲ明言
セラレ、終ニ左大尉ハ上京シ、前記書生ニ就テ取調フルト共、川喜多氏
ニ就テモ秘密的ニ調査ヲ遂ケタル由ナルモ其結果、如何ナリシヤハ官
カ、今年十二月ニ左第五大隊所、轉任スルト、~~此時~~、現任地ハ轉任後
着任ナリ、至ル迄何等聴リ所ナリキ

第三 交代、際シ后任者へ申送りセシ事項

前記、通給文書籍ノ件、自テ、此時ノ参謀桑田少佐ハ熟知シ
アルノミナラズ、左任副官ノ着任、~~前轉地~~セシヨリ、當兵隊長ハ渡シ
タルモノト左様ナル通給文書籍目録ト共、左少佐へ申送りヲ爲シタリ

備考

過般呈出セシ收事書中司令部官ノ存、依リ云々ト云ハ、今年

右之通、假也

二月迄要塞司令官タリシ
此兵大佐田中信隣氏ヲ指スモノ、
シラ加藤少將、アラヌ
去同夫妻及書生某ノ住所姓名ハ前記中村大尉、熊
野源藏、就テ調査スルハ明瞭ナリ得ニ字

明治四十二年六月六日

元廣島湾要塞副官 柳井庄次郎

第
六
号

1370

廣島本密警第 五 三 號

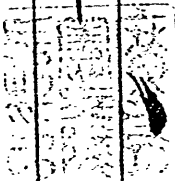
回 答

明治十一年七月三日

廣島憲兵隊長古賀要三郎

第五師團長男爵木越安綱殿

六月辛酉第五師團進第四五七兩縣照會廿九年
廣島津要塞司令部保管ノ細密圖書紛失
ノ虞ニ當付内偵セシ結果等ノ件 在當時ノ當陽
長多ノハ代憲兵中佐ノ間合セ見知別紙ノ第



一、各書一通、又其後、收兄、就、第二
 部、車、事、憲、兵、隊長、田、答、書、按、華、一通、十
 二、越、二、候、間、由、第、知、吏、一、度、及、田、答、候
 追、于、津、文、以、外、收、弟、并、必要、一、降、人、直、接、憲
 兵、司、令、官、一、由、照、會、古、煩、一、度、申、添、候

第七卷

1372

(第一編)

廣島要塞司令部ニ紛失シ見明治廿八年後ノ戰
聞詳報搜索ノ依頼ヲ受ケ其顛末ソ内報セシヤ
否ヤノ件存答辨

一、山生力重安兵隊長在職中明治廿九年五月申廣島
要塞司令部ニ紛失(口体不明)シ見廿七
年戰役戰闘詳報ノ件存當時ノ參謀栗田
少佐副官柳井大尉兼隊長頭ヲ搜索方依頼
ヲ受ケ廣島憲兵分隊長中村大尉ソ内偵
セシメタリ

二、中村大尉ヲ得タル其況川喜多夫大尉カ廣島湾

皇

臣

要塞参謀、(廣島在勤中存) 佐國ノ教官ニ転任せん當時同行せし
 馬丁某 (居る者ノ同行せ) ハ川喜多大尉転任ノ際
 洋紙ノ書籍 (編輯部) 山風ノ教ニ包み夫レ
 司令部ヨリ自電、持テ宛テトシ命せし馬丁ハ之ヲ同
 大尉ノ自電、持テ宛リ免テ了リ又佐國ヨリモ同様ノ
 書籍ノ現在セレトシ認メテ了リ
 三同断川喜多大尉ノ佐國、伴ヒ行キし書生某ハ
 或日佐國ヨリ川喜多大尉ノ命ヲ受テ教士四ノ
 編輯部、如キ書籍其他要務令勤務令
 ノ如キ子丹子ニ持印シ了官印標ノ印ヲ持テ渡
 シ了了了 (世文字ノ廣島要塞司令部)
 官印ナリヤ

四、同新川喜多大尉、廣島在勤中、面債了、蓄財
 力、其情、國司、叙朝後、東京存下、中野お、約千
 坪、地所、有之、自己、住、ト、貸家、新築シ
 稍、整、沢、暮、居、其、資金、出所、不明。
 五、在、情、況、依、レ、ハ、川喜多大尉、之、元、人、疑、ア、然、レ、モ、未、タ
 異、件、的、証、拠、ヲ、得、ス、依、テ、川喜多大尉、ノ、現金、地、タ
 ン、東京、憲、兵、隊、長、石、川、大、佐、之、内、債、事件、ノ、授、牒
 之、世、書、籍、ノ、或、部、ノ、得、レ、ト、ヲ、努、力、シ、タ
 六、石、川、大、佐、ヲ、内、部、之、川喜多大尉、係、關、朝、ノ、際、戰
 闘、詳、報、又、ハ、諸、勤、務、令、或、ハ、官、学、校、ノ、教、科、
 書、様、ノ、書、籍、ヲ、情、國、学、生、等、ノ、賣、却、シ、タ、形

跡アリ其ノ人ハ或ハ買収シ得ルノ見込アリト
 七、以上状況ハ當時ノ要塞司令官加藤少将ニ逐次
 内報セラルシテ明治四十一年四月廿生退職迄ハ
 買収シ得ルノ部ニ接セザリシ
 明治四十一年五月十九日

(第二節)

廣島傳要塞司令部ヲ紛失セシ細密書類并其後ニ於ケル内
傳ノ状況及其顛末ニ関シ御照會ノ處當ハ其筋ヲ於テ搜查
ノ進行ノ中止ノ兩方中斷ノ有様トテ居リ趣ナカシ五月中更
ニ搜查ノ必要ノ生シ先ツ本人昨今ノ所在内傳方命令傳内傳セ
シ其左記ノ状況多目下北京ニ在住シ居ニトテ探知シ其旨報
告シ此第ナリ依テ其後ノ模様ニ就テハ其筋ノ御照會相成度
此段及回答候

一、川喜多大尉ハ現時東京府豊多ヲ郡中野町字中野三千三百四十
ニ番地ニ居住スル現住所ノ宅地九百余坪(現今ノ時價一坪六七圓)ハ廿九年中
買入レタリテ該地面、約四千円ノ授シテ九棟ノ家屋(約百八

十坪)ヲ建築シ該建物中本人ノ妻子及實兄ノ住宅ニ軒ノ除
 外他ノ貸シ付ケ居家賃毎月四十金目ノ收入アリ本人ハ附近ノ
 聲望頗ル悪シ其一時ノ地所ヲ買入レ家屋ヲ建築等ノナシタ
 ル年ヲハ大ニ怪シ居テ而シテ現住所ト目下妻子ノミ居住シテ
 本人ハ昨四十年夏頃ヲ其安シ見シテナシ
 二人ノ所有財産ノ宅地九百金坪(見積約千六千坪)建物約百
 八十坪(約四千坪ノ要也)ナリ建物ノ約半部ハ長男ノ名義
 トシ居テ
 三、然レ本年夏月中旬北京ノ消息アリ郵便到來シヨリテナリ然レ其
 町名番地等ノ記入ナリト依テ本人ハ目下北京ニ居ン多ト
 思斷料ス

四、本人、在清中（保定府）辛酉年八月至一日振替野金、加入シ南來金、
 日迄十二回ニ振込金七千二百十四圓金、及ヒ之ノ辛酉九回ニ七千五百五十三
 圓金、引出シ現ニ残額六十四圓金アリ

五、前項ノ金額振込場所ハ辛酉年中二回ハ保定府在勤中ナモ
 其他人何レモ北京ニシテ振込人ハ常ニ出鱈目ノ名義ヲ用ヒ其都
 度氏名ヲ変更シ居リト

以上状況ヲ本人ノ住所ハ目下北京ト思料スモ町名番地オ
 ハ不明ナリ

明治三十一年六月十九日

陸

軍



中第五八五号

休職砲台大尉川希多大佐郎、係内偵、状況た
、如し

一、家族の妻と結五人妻、仲々、懐妊、うゑ、夫、所
在、ナド、決、し、了、了、ト

二、近隣、ノ、風、評、頗、ん、悪、く、且、今、俄、に、不、動、産、り、求
メ、し、り、怪、し、居、し、り

三、實、兄、妻、助、一、字、終、年、生、ハ、母、妻、と、四、人、ト、昔、ノ、同、機
内、ノ、別、居、し、現、ノ、麹、所、學、藝、英、結、而、事、此
查、り

四、三、十、九、年、中、現、住、所、ノ、定、地、九、畝、余、坪、三、千

登記
受入
上
記
入
受
入

1380

四万田ヲ買求之、九棟、家屋（約万平坪）
 ヲ約四千田多建築シテ賃貸シテ給ケリ
 此收入毎月四十金田
 其前記財産、約半金、長男大徳ノ名義
 ト爲シ居ケリ
 其、知人亦在、種々噂をモ五月中旬北金、情
 即見郵便站着セリトアリト
 又一説、此在、北金、佛國公使館内ノ會計
 事務ニ雇ヒ居リ給ヘシ
 七、明治十年十月中旬、思女病篤、産前ノ旨、家
 族ヲ打書、後ニ通、向、同ニ歸京シ、以、其、日

六、三十九年八月廿五日 振替 賄金 口實 加 乙 口

家
族
送
金
幣

曉
 助
 十
 分
 以
 爲
 可
 何
 三
 五
 十
 三
 我
 心
 也
 子

103

[illegible]

用と括し

一

日 月 經 年 六 月 三 日

六月三日中第五十五号休職砲台大尉川
 喜多大佐郎、居所其他に畢し、諸國駐
 在軍實兵長より電報あり
 其後内偵中十九日、要領し得る昨
 今、漸く在北京佛國天主教會堂に入
 入、且佛國公使館三等書記官に曰
 せし、ト交際するに聞知せざるは居所
 不明なり、案を以て清國土人、家産を
 潜伏せしむる、如く向付官憲及び居
 留民中に其の所を知らんをすべし

七月
 中第七三四号

續嚴密内傳中付不日真相ヲ得ヘ
 本事ト信ス委細郵便



七月
中
七
六
四

七月十三日中茅七三四号、休候砲多太時川赤多
大治郎、可立其他之就、清名駐屯軍、實多長
子、右ノ方被アリ

休候砲多太時川赤多大治郎、可立其他之就、
内便、右ノ方被アリ

一、三九年八月廿一日、北京御便局、振替貯金

二、加、第二七七番、口證番号ヲ設ケ所由

十年八月三日以降、毒大古、毒共、下綿、

李壽等ノ名義ヲ以テ、計金三千兩内、

御里ニ送付セラル、事實ナリ

三、六月上旬以来、國人ノ所立ニ執事、嚴密内
 復シ、もと更ニ消息ヲ得、又日本、居留民共
 他ノ官吏及鷹隼、文武官等、亦川来多、大
 尉ノ在法、云々知シ、云々ナシ、係多、北京、卸便局
 出入スルヲ現認セシトシ、嚴密ナル注意ヲ拂
 ン、云々アリ、又、偶々、七月、一日、一名ノ法人人
 同卸便局ヲ来リ、江蘇省、李慶ノ名義ヲ
 以テ、四百五十圓ヲ振込ニ、云々アリ、云々、尾行
 セシ、北京、東直門外、内、饒福胡同、到リ、軍
 部丁之寓ニ、表札ヲ掲ケ、シ、家ニ、入リ、談話
 云々、人、川来多、大尉ノ便者、ア、云々、云々、果シ

然るハ同古村ハ新築ノ屋敷ニ潜伏シ居ルニ
 下ラスヤト疑ハレ、以テ内偵中ナレモ未ダ確定
 ナル情報ヲ得ン、至ラズ其後引續内偵中
 此等城内丁錦ナレモ、却テ同店ニシテ
 探知スルハ同入ニ七月四日保定地方ハ旅
 行ニ目下不支ナリ丁錦ハ清西陸軍部
 議庭ハ在座スル者ニシテ同部内務ヲ務メ
 カノ者ナリ

云尚諾者其ノ探知スルハ、係ルハ并發シ
 附ケ支那服ヲ着レ居ル北京西華門内
 天主地教堂ニ出テ林主教(佛人)ナレ、

ト交際アリト又東華門外南元寶胡同、
 併蘭西三等書記官、シヨセフデ、イハシ、
 上ル者ト共ニ往復親善、上ニ交際シ居シ、
 丁巳形跡、アハシ居所、不明アリト要スルニ
 同方、附イ、信島人、家屋ニ、轉居シ、信島公
 使、輔附武官ノ、囑托ニ、依リ、離脱、的軍、
 移、往、事、シ、アハシ、居、ル、ヤ、ト、察、セ、
 評、信、島、公、使、能、附、高、級、武、官、ニ、奉
 天、駐、在、シ、日、中、軍、ノ、機、關、計、画、及、往、過、
 付、頻、ニ、知、ル、ニ、ト、察、シ、アハシ、居、ル、所、
 聞、ノ、現、況、ヲ、審、査、シ、アハシ、居、ル、所、
 過、分、ノ、報

四、大敵、乾、清、島、測、ノ、風、評、ハ、善、良、ニ、シ、テ、
 生、い、甚、タ、大、敵、ニ、信、服、シ、曾、テ、保、定、府、ニ、招、聘、
 中、書、行、不、修、ノ、為、メ、解、雇、セ、ラ、レ、タ、事、実、
 ナ、ニ、拍、ウ、ル、情、勢、人、ノ、一、部、ハ、川、越、多、大、敵、ハ、熱、
 心、シ、テ、日、中、軍、隊、ノ、秘、密、ヲ、窺、エ、ン、コ、ト、ヲ、モ、
 惜、リ、防、テ、ナ、リ、学、生、ヲ、教、習、ス、ル、外、故、ニ、帰、
 朝、リ、命、セ、ラ、レ、タ、ン、モ、ナ、ラ、ン、華、ノ、情、測、
 ヲ、ナ、レ、タ、リ、ア、リ、シ、ト、云、フ、ヲ、以、テ、利、ス、レ、ハ、目、下、
 ニ、形、ヲ、取、同、人、ノ、信、用、ハ、相、當、に、持、セ、ラ、レ、タ、
 ア、ン、タ、リ、タ、リ、

以上ノ如クニシテ考テ確定ナル要領ヲ得ル
 ニ至ラザルニ最モ密ニ査中
 明治四十年七月十日

大臣

次官

官房

軍務

補任

1391

秘

明治四十一年七月二十四日

第五師團參謀長古海嚴潮

陸軍省副官五花小一郎殿

報告

明治三十九年中廣島灣要塞司令部、於テ參謀本部發行ニ係ル秘密面書紛失、付取調ノ結果別紙ノ通、候条關係書類添付及報告候也

陸

別紙

一、廣島湾要塞司令部保管ニ係ル秘密圖書紛失目録別紙ノ通り

二、紛失ノ發見 三十九年八月同部副官柳井工兵

大尉部内ノ圖書整理ノ結果發見ス

三、秘密圖書ノ取扱 司令官加藤少將ノ意圖書ニ依

リ部内將校ニハ研究ノ資料トシテ隨意ニ閱覽

ヲ許セシヲ以テ此ノ間若シ部内將校力竊取ノ目

的ヲ以テ手段ヲ講セハ發見スルコト容易ナラス

四、搜索ノ手段 紛失ヲ發見スルト共ニ司令官ハ全

要塞參謀桑田砲兵少佐及全副官柳井工兵大尉

ヲシテ其搜查ニ努力セシメタリ其結果今年六月清國武備學堂ニ應聘シタル先要塞參謀砲兵大尉河喜多大次郎カ豫テ前記紛失ノ箇書ヲ使用シ窺ニ擄行渡清シタルノ形跡ヲ認メタルヲ以テ一面廣島憲兵隊長八代中佐ト内議シ又憲兵隊長ヨリ河喜多大尉ノ現住地ヲリシ東京憲兵隊ニ内報シ各方面ヨリ慎重力搜查ヲ繼續シ以テ今日ニ及ヘリ

尚誤搜索ハ東京憲兵隊長ノ手ニ於テ繼續シツ、アリ

五. 紛失ノ理由、紛失發見以來要塞司令部内

外種々搜索ノ手段ヲ盡セシモ今日ニ至ル迄何等
ノ形跡ヲ認メス而シテ河喜多大尉ノ動作就
テハ未ダ具體的ニ其證據ヲ捕捉スル能ハサルモ
諸種ノ方面ヨリ推測セハ全人ノ處爲タル略
ホ確實ナルカ如シ

前記ノ理由ニヨリ紛失ノ原因ハ全ク同部將校ノ
竊取ニ由ル者ト認ム

以上事由ノ詳細ハ別紙要塞司令官ノ報告書
兵隊長ノ通報ノ如シ

紛失不足戦闘詳報目録

種

類

番 號

冊

数

自三十八年二月二十日 鴨緑江軍戦闘詳報
至今年四月十四日

第一軍戦闘詳報

自八月二十三日至九月五日
遼陽附近に於ケル 第一軍戦闘詳報

自十月十日至同月十六日
沙河合戦に於ケル 第一軍戦闘詳報

自三十八年二月二十日至三月十七日
奉天附近に於ケル 第一軍戦闘詳報

自七月三日至同月二十五日
大石橋附近に於ケル 第二軍戦闘詳報追加

第三軍戦闘詳報 (第三師団中追加附表)

自七月三日至同月二十五日
大石橋附近に於ケル 第二軍戦闘詳報追加挿入圖

六月二十六日に於ケル 第三軍戦闘詳報

第一編

第二編

二

二

二

一

一

一

一

一

一

一

七月三、四、五日ニ於テ	第三軍戦開詳報	第二號	—
七月廿七、廿八日ニ於テ	第三軍戦開詳報	第三號	—
七月三十日ニ於テ	第三軍戦開詳報	第四號	—
八月七、八日ニ於テ	第三軍戦開詳報	第五號	—
八月十九日ヨリ同月三十日ニ至ル 秋瀬方面ニ於テ	第三軍戦開詳報	第七號	—
	第三軍戦開詳報	第一卷	—
	第三軍戦開詳報第一卷附圖		—
	第三軍戦開詳報	第三卷	—
自三十七年十月一日 至同年同月十日	第三軍死傷表		—
自土月二六日至十二月六日 秋瀬方面ニ於テ	第三軍戦開詳報	第十號	—
自土月二六日至十二月廿六日 秋瀬方面ニ於テ	第三軍戦開詳報		—

自月子百至九月四日 遼陽府迄之於々々	第四軍戰鬪詳報	第二陣	一
自十月十日至同月十六日 沙河金嶺之於々々	第四軍戰鬪詳報	第三陣	一
自壬子年一月至三月至庚子年九月 黑龍江合兵之於々々	臨時立見軍戰鬪詳報		一
自壬子年一月九日 至同月十四日	太子河左岸敵騎襲來顛末		一
計 貳拾 七冊			

明治四十一年七月四日

廣島湾要塞司令部發第五〇號

廣島湾要塞司令官川谷致秀

第五師團長男爵木越安綱殿

當部保管三十七八年戰役戰聞詳報紛失不足ノ件
ニ就テハ其詳細ハ別紙ハ藤前任司令官ノ顛末
書ノ如ク有之本年一月着仕後之カ要旨ノ申繼
ヲ度テ尔来憲兵隊ノ結果ヲ待ツ、一方ニハ川喜
多大尉以外不足ヲ来セシ者ノ有無ニ就テ搜查
ヲ遂ケシモ他ニ手懸ル無之依然發見不仕依テ

同四月之カ報告書ヲ呈スルニ至リシ次第ニ有之
今回更ニ関係者ノ願末書ヲ徴シ此段及呈出

始末書

庄治郎儀

明治三十八年三月以降三十七八年戦役戦聞詳報ノ配布
 ヲ度々之が保管方取扱中司令官ノ命ニ依リ研究資
 料トシテ自由ニ各將校ノ閲覧ニ供シツ、アリシカ同三十
 九年八月之が出納ヲ明ニセリガ為メ嚴密ニ調査セシ
 ニ別紙ノ通り不足ヲ告ゲ候ニ付キ爾後諸種ノ方
 面ニ精査ヲ遂ゲシモ發見不仕依テ今三十九年十
 二月ユ兵第五大隊附ニ轉任ノ際後任者ハ詳細ノ申
 継ヲ為シ置キ候右ハ全ク庄治郎が秘密圖書取
 扱ノ粗漏ニ原因スル次第ニテ恐縮ニ堪ヘズ此段

六

始末申上候也

明治四十一年五月一日

元廣島湾要塞副官柳井庄治郎

前任司令官 加藤泰久

同 参謀 桑田安三郎

手續書

同 副官 柳井庄治郎

戦鬪詳報紛失ニ関スル顛末書

明治三十九年八月當部保管三十七八年戰役戦
 闘詳報紛失不足ヲ生シ候處元要塞參謀
 タリシ川喜多砲兵大尉清國へ傭聘赴任ノ際
 持行キシ形跡歴然タリシヲ以テ參謀桑田少
 佐副官柳井大尉ニ命ジ搜索ニ従事セシメ先
 ツ參謀ヲシテ同年十二月口頭ヲ以テ師團參謀長
 野島大佐ニ報告ヲナサシメ一方廣島憲兵隊
 長八代中佐ニ依頼シ川喜多大尉ニ就テ搜索
 方ヲ要求セリ當時憲兵側ニ在テハ廣島ヲ
 搜索スル外同隊附中村憲兵大尉ヲ川喜多

大尉ノ居住地ナル東京ニ派シ諸種ノ内偵ヲ遂
 ケタルモノ、如ク爾後憲兵隊搜索ノ結果ヲ待
 テ適應心ノ處置ヲナサント之カ通報ヲ期待シツ
 、アリシモ的確ナル結果ニ就テハ何等得ル所
 ナク以テ四十年十月後任者へ申継ヲナスに至
 レリ

明治四十一年六月十二日

陸軍少將加藤 泰久

明治四十一年六月八日

陸軍砲兵少佐 桑田安三郎

廣島灣要塞司令官 川谷致秀 殿

副官 柳井 工兵大尉 明治三十九年十二月工兵

第五大隊へ轉任セシ付下官申継ラ度々

ル後々戰闘詳報紛失ノ件ニ関シ扱ヒ

ニ手續

副官 柳井 工兵大尉 工兵第五大隊へ轉任ノ際廣島灣

要塞司令部備付圖書中戰闘詳報紛失ノ件ニ

就テハ已テニ第五師團司令部へ報告也且廣

島憲兵隊へ由出テ目下搜索中ナルハ故ニ紛失
 關シテハ相商ノ手續ハ全然終了シ爾後其
 筋ヨリノ處分先ニ憲兵隊搜索ノ結果ヲ待
 ツノミノ状況ナリシカ故ニ特ニ角立タル申継ヲ
 受ケサリキ故ニ三十九年十二月下旬ヨリ四十年
 一月十二日新任副官松山大尉着任迄談件ニ
 関シテハ何等ノ手續ヲ為サズ專ラ其筋ヨリノ
 命ヲ待ツト同時ニ憲兵隊搜索ノ結果ヲ速
 カニ知ラセコトヲ希望セシノミ

備考

一 本文中第五師團司令部へ報告セントアルハ紛失

セシコトヲ發見セシ當時加藤司令官ノ命ニ依リ
 下官自ラ紛失セシ圖書目錄ヲ携行第五師
 團司令部ニ到リ當時ノ參謀長野島歩兵大
 佐ヘ口頭ヲ以テ委細ヲ報告セシモノヲ云フナリ
 (時日ハ確實ニ記憶セサルモ多分三十九年十二月初
 旬ナリシナラン)

ニ本文中廣島憲兵ヘ届出テ目下搜索中トアルハ
 前項ト同日加藤司令官ノ命ニ據リ副官柳井
 大尉ハ下官ト共ニ廣島憲兵隊ニ趣キ隊長
 ハ代中佐ニ面會シ親シク紛失ノ状況等ヲ
 語り且ツ先仕要塞參謀タリシ川喜多砲兵

大尉ノ持々居ルコト殆レド疑ナキカ故ニ諸種
 ノ内偵セシ事項ヲ引證シテ專ラ同大尉ニ
 就キ捜索スルコトヲ要求セシモノヲ云フナリ

同参考迄ニ左ニ小官ノ記憶ヲ申述候

憲兵隊搜索ノ方法及進行ノ概要

當時、憲兵隊長八代中佐ハ廣島灣要塞司令部
 來リ加藤司令官ト懇談ノ結果遂ニ川喜多大
 尉目下ノ居住地ナル東京迄部下憲兵將校名
 ヲ派遣シ充分ニ取調フベキ決心ヲ為シ當時廣
 島憲兵隊附タリシ中村憲兵大尉之ニ任テ當リ
 同大尉ハ直ニ上京シ川喜多大尉ノ事ニ関シ廣
 島及東京ニ於テ概要ヲ事項ヲ調査シタリ

一、川喜多大尉が廣島灣要塞參謀ヨリ清國ニ轉任

スル當時同大尉ト同行セシ馬丁(廣島ニテ隊ヲ雇居
 リシモノヲ同行セシナリ)

ヲ取調ベシ結果たノコトヲ確ノク

川喜多大尉轉任ノ當時戰開詳報ノ如キ猶々
大部冊ノ書籍ヲ要塞司令部ヨリ自宅迄持テ
歸ルコトヲ命セラレ之レヲ大ナル風呂敷ニ包ミテ
渡サレ馬丁ハ之ヲ同大尉自宅迄持テ歸リシ
コト

尚ホ清國ニテモ同様ノ書籍ハ現在ニアリシコト
ヲ認メタリト云フ

ニ又ク川喜多大尉が清國へ伴ヒ行キシ書生ヲ
取リ調ヘシ結果たノコトヲ知り得タリ

或日清國ニテ川喜多大尉ヨリ命ヲ度々數十

冊ノ戰聞評報ニ捺印シアル廣島灣要塞司令部(モレハ果シテ如何ナル文字ナリシカハ譯ナラス)ノ官印ヲ擦リ消シタルコトアリ
三、川喜多大尉ハ東京中野村ニテ約千坪ノ地所ヲ有シ之ニ自己ノ家屋ヲ新築シ且ツ其近傍ニ數軒ノ借家ヲ建テ稍々贅澤ニ暮ラシ居レリ
(川喜多ハ元來赤貧者ナリシナリ)

以上ノ事項ハ取調ベ得タリシモ川喜多大尉ノ竊取セシコト今一層確實ナル證據ナキ以上ハ更ラニ一步ヲ進メテ川喜多大尉ノ家宅搜索ヲ為ストモ能ハサルノコトナラズ例今家宅搜索ヲ為ストモ已ニ清國ニ於テ賣却シアル以上ハ何等ノ効能モナキ故遂ニ已ム

ヲ得ズ東京憲兵隊ヘ委細ヲ申送り同隊ニテ爾
 後川喜多大尉ノ身上ニ関シテ搜索ヲ為スコトナ
 リタリ又東京憲兵隊ニテハ目下清國ニ散在シア
 リト云フ本邦秘密圖書ノ収集ヲ努メ此圖書ヲ
 以テ其出所ヲ探ホセシモト意嚮ヲ有シ居ル上日中
 村大尉ヨリ復命アリタリ

其後八代中佐ハ後備役ニ入り現職ヲ退キ中村大尉ハ
 濱田憲兵分隊長ニ交代シ遂ニ下官交代迄何等
 ノ手掛モナカリシナリ

野島参謀長ハ青森ノ縣隊長ニ代ハラレ八代隊長
 ハ後備役ニ引退セラレ中村大尉ハ濱田ニ轉任セシカ

爲ノ尔後何等ノ消息モ無ク經過シタリ而シテ東
 京憲兵隊ヨリモ何等ノ報告モナカリシナリ其後四
 十年十月頃中村憲兵大尉ハ廣島憲兵分隊長ニ
 轉任シタルガ故ニ再ビ同大尉ト會遇シ右事件ノ進
 捗ニ就キ問合セタルモ東京憲兵隊ノ其後勵作ニ
 就テハ得ル所ナシトノ返答ナリキ

明治三十七八年戰役戰聞詳報紛失

と聞え之レが搜索願末書

第一紛失ヲ發見シテ取扱上と聞レ取リシ手段方法

該書ノ紛失ヲ發見セシハ明治三十九年八月頃ニシテ直ニ

其旨ヲ當時ノ廣島灣要塞司令官加藤少將及全

要塞參謀桑田砲兵少佐ハ口頭ヲ以テ報告セリ

第二搜索ニ関シ執リシ手段方法

該書ハ配布ヲ度ケシ以來部内各將校ノ閱覽ニ供

シツ、アリシカ三十九年五月下旬迄要塞參謀タリシ

川喜多砲兵大尉カ今年六月頃清國武備學堂

ノ教官トシテ赴任ノ際或ハ返納スヘトナク其儘

持行キレモノニアラザンヤノ感ヲ起シ尚一應心調査ヲ
 遂ケレニ紛失ノモノハ悉ク同氏在職以前ニ配布ヲ度
 ケレモノニ係ルヲ以テ益々前記ノ感ヲ深フシ司令
 官及参謀へ通告協議ノ上先川喜多氏ニ就テ
 搜索スルフトニ決シテ依テ一面ニハ當時在京
 中ノ同氏へ宛副官部書記莊野ユ兵上等工長態
 ト小官ノ發信者タムヲ避ケテ私信ヲ以テ右紛失書
 ヲ所持セサルヤ否ヤヲ懇談的ニ問合シタルニ全氏ハ清
 國へ赴任ノハ悉ク小官へ返附セシ旨頗簡單ニ莊
 野へ返信シ來レリ尚一面ニ當時小官ノ馬丁タリシ
 廣島市東白島町ニ在住（小官ハ西白島町ニ寓居

中ナリキノ熊野淳藏ノ友人ニシテ元川喜多氏カ清
 國赴任ノ際傭入レタル馬丁吉岡某ナルモノ右熊野ノ附近
 ニ住居中ナリシヲ聞キ全人ヲ司令部ニ呼ビ寄セ右
 紛失書ト全様ノ体裁ヲ實見セシメ全氏カ所持
 セシヲ認メタルコトナキヤヲ得タルニ全人ハ大要左ノ如キ
 陳述ヲ為シタリ

- (一) 全氏ハ赴任前内容品ノ何タルハ知ラサルモ風呂敷ハ
 色ミタル多数ノ書籍ヲシキモノヲ全人ヘ渡シ同
 氏当時ノ在廣島寓宅ヘ持歸ラシメタリ
- (二) 川喜多氏カ書生トシテ清國ヘ連行キシ某ナルモノ
 カ多数ノ書籍(表紙ハ赤青等ナリシ由)ノ表紙ニ

押捺シタル司令部書籍印ニ類似セル印を草ヲ
 全氏ノ命ニ依リ塗抹シツアルヲ認メタリ（誤事
 實カ廣島ニ於ケルモノナリ）ヤ將ク清國ニ於ケル
 モノナリ）ヤ付吉岡某ハ陳述セシ如ク記憶
 スルモ目下明瞭ナラズ

(三) 前記印章ヲ塗抹セル多數ノ書籍カ清國
 ニ於テ全氏ノ机上及書籍箱ニアルヲ度々見タリ
 又全氏カ在廣以來清國へ連行シテ下女某ナルモノ右調
 査當時ニハ矢張廣島ニ在任シ前記吉岡某ト
 内縁ノ夫婦トナリ居ル由聞及ヒシニ付為參考全
 人ヲ小官ノ自宅ニ呼ビ寄セ戰術詳報ノ体裁ヲ實

見セシノ尋問セシニ前記(二)(三)ト畧々全様ナル答ヲ爲シタリ

右吉岡夫妻ヨリハ當時夫々口供書ヲ徴シ梅印ヲ押捺セシメタリ尙前記書生某ナルモノニ付テ調査ヲ遂ケ度キモ當時同人ハ在京中ナリシヲ以テ其意ヲ得ス(尤一度小官ヨリ私信ヲ以テ問合シタルニ未知ノ小官カ書面上ノ聞合ト云ヒ且ハ後難ヲ恐レタルカ何レモ承知セサル旨回答セシカノ如ク記載ス)依テ司令官及參謀ト協議ヲ遂ケ司令官ノ命ニ依リ參謀ト同行(其時日ハ全年八月頃ナリシ)當時ノ廣島憲兵隊長ハ代中佐ノ許ニ至リ紛失書籍目録・川喜多氏ノ通信先

前記口供書ヲ呈シ尚口頭ヲ以テ若干ノ參考材料
 ト司令部ニ在ルニ推斷トシ今中佐ニ陳述シ之カ搜
 索方ヲ依頼セシニ今中佐ハ當時ノ分隊長中村
 憲兵大尉ハ其搜索主任ヲ命セラレタリ其後同隊
 ニテハ吉岡某ニ就テ直接若干ノ調査ヲ遂ケシモノ
 如ク全隊長及全大尉モ司令部ノ意思屬ト全様ナル
 推斷ヲ爲シ今中佐ヲ明言セラレ終ニ全大尉ハ上京
 シ前記書生ニ就テ取調フルト共に川喜多ノ氏ニ
 就テモ秘密的ニ調査ヲ遂ケタル由ナルモ其結果ノ如
 何ナリシヤハ小官カ今年十二月エ兵第五大隊付ニ轉
 任スルト今時ニ現任地ハ轉地療養ヲナスに至ル

迄何等聴ク所ナカリキ

第三 交代ニ際シ後任者へ申送りセシ事項

前記ノ通り紛失書籍ノ件ニ付テハ当時ノ参謀桑田少佐ハ熟知シアルノミナラス右任副官ノ着任ニ取テ官ハ轉地セシヲ以テ憲兵隊長へ渡シタルモノト全様ナル紛失書籍目録ト共ニ全少佐へ申送りヲ為シタリ

備考

過暇呈出セシ始末書中司令官ノ命ニ依リ云々トアルハ今年二月迄要塞司令官タリシ砲兵大佐田中信隣氏ヲ指スモノニシテ加藤少将アラス

吉岡夫妻及書生某ノ住所姓名ハ前記中村
大尉若ハ熊野源藏ニ就キ調査スルハ明
瞭ナルヲ得ルヤ

右之通り候也

明治四十一年六月六日

元廣島湾要塞副官柳井庄治郎

廣憲本密警第六三號

回 答

明治四十一年七月三日

廣島憲兵隊長古賀要三郎

第五師團長男爵木越安綱殿

六月二十五日第五師團進第四五七号照會三十九年廣
島灣要塞司令部保管ノ秘密圖書紛失ノ関シ當
時内偵セシ結果等ノ件ニ付當時ノ當隊長タリシ
八代憲兵中佐ハ問合セタル處別紙第一號答

1422

辨書ノ通り又其後ノ状況ニ就テハ第二號東
 京憲兵隊長回答書拔萃ノ通りナル趣ニ候
 間御承知相成度及回答候
 追テ本文以外ノ状況ニ付必要ノ際ハ直接憲
 兵司令官へ御照會相煩ニ度申添候

(第一號)

廣島湾要塞司令部ニテ紛失シタル明治三十七年

戦役ノ戦開詳報搜索ノ依頼ヲ度々其顛末

ヲ内報セシヤ否ヤノ件ニ付答解

一、小生が第五憲兵隊長在職中明治三十九年十二月

廣島湾要塞司令部ニ於テ紛失(日付不明)シタル

三十七年戦役戦開詳報ノ件ニ付當時ノ参謀桑

田少佐副官柳井大尉兼隊口頭ニテ搜索方依頼ヲ

受テ廣島憲兵分隊長中村大尉ヲシテ内偵セン

メタリ

二、中村大尉ヨリ得タル情况川喜多大尉カ廣島湾要

塞參謀ヨリ清國ノ教官ニ轉任スル當時同行セシ馬丁某

(廣島在勤中雇
ニ居タル者ヲ同行シ)

ハ川喜多大尉轉任ノ際洋紙ノ書籍

澤山風呂敷ニ包ミ夫レヲ司令部ヨリ自宅ニ持テ畋

ルコトヲ命セラレ馬丁ハ之ヲ同大尉ノ自宅ニ持テ畋

リタルコトヤリス清國ニテモ同様ノ書籍ノ現在セシコ

トヲ認メタリト云フ

三、同断川喜多大尉カ清國ニ伴ヒ行キタル書生某

ハ或ル日清國ニテ川喜多大尉ノ命ヲ受ケ數十

冊ノ戰聞詳報ノ如キ書籍其他要務令勤務

令ノ如キ小冊子ニ捺印シタル官印様ノ印ヲ捺リ消

シタルコトアリ

(其文字ハ廣島海軍要務司令部
官印ナリト云ヤ詳ナラス)

四、同断川喜多大尉ハ廣島在勤中ハ負債アリテ蓄財ナカリシモ清國ヨリ歸朝後東京府下中野村ニ約子坪ノ地所ヲ有シヤシ自己ノ住居ト貸家ヲ新築シ稍贅澤ニ暮シ居レリ其資金ノ出所不明

五、右ノ情況ニ依レハ川喜多大尉ニ充分疑アリ然レモ未タ具体的ノ証據ヲ得ヌ依テ川喜多大尉ノ現住地シル東京憲兵隊長石川大佐ニ内偵事件ヲ移送シ其書籍ノ幾部ヲ得レトヲ努メタリ

六、石川大佐ヨリノ内報ニ川喜多大尉歸朝ノ際戦闘詳報又ハ諸勤務令或ハ士官學校ノ教科書

様ノ書籍ヲ清國學生等ニ賣却シタル形跡
アリ其一分ハ買収シ得ラル、見込アリト

七、以上ノ状況ハ當時ノ要塞司令官加藤少將ニ逐
次内報セリ而シテ明治四十年四月ハ生退職
迄ハ買収シ得タル報ニ接セサリシ

明治四十一年六月十九日

(第二號)

廣島灣要塞司令部ニ於テ紛失セシ秘密書類ニ
 付其後ニ於ケル内偵ノ状況及其顛末ニ関シ御照
 會ノ處當時其筋ニ於テ搜查ノ進行ヲ中止シ
 爾來中断ノ有様トナリ居リシ趣ナハカ去ル五月中
 更ニ搜索ノ必要ヲ生シ先ツ本人昨今ノ所在内偵方
 命ニ依リ内偵セシニ左記ノ状況ニテ目下北京ニ在
 住シ居ルコトヲ探知シ其旨報告シタル次第ナリ
 依テ其後ノ模様ニ就テハ其筋ハ御問合相成度此
 段及回答候

一、川喜多大尉ハ現時東京府豊多ノ郡中野町字

中野三千三百四十二番地ニ居住セリ現住所ノ宅地
 九百余坪（現今ノ時價一坪六七四）ハ三十九年中買入レタルモノニ
 レテ該地面ニ約四千円ヲ投レテ九棟ノ家屋
 （約百八十坪）ヲ建築シ該建物中本人ノ妻子
 及實兄ノ住宅ニ軒ヲ除キ外ハ他ニ貸シ付ケ
 居リ家賃毎月四十余円ノ收入アリ本人ハ附近
 ノ聲望頗ル悪シク其一時、地所ヲ買入レ家
 屋ノ建築等ヲナレタルニ付テハ大ニ怪ミ居レリ
 而レテ現住所ニハ目下妻子ノミ居住シアリ本
 人ハ昨四十年夏頃ヨリ其姿ヲ見シモノナレ
 ニ本人ノ所有財産ハ宅地九百余坪（見積約五六十円）

建物約百八十坪（約四十坪ヲ要セシメノナルカ建物ノ
約半部ハ長男ノ名義トナシ居レリ

三、然ルニ本年五月中旬北京ノ消即アル郵便到
来シタルコトアリ然レモ其町名番地等ハ記入方

リント依ツテ本人ハ目下北京ニ居ルモノト思料ス

四、本人ハ在清中（係是府）三十九年八月三十一日振替

貯金ニ加入シ尔来今日迄十二回ニ振込金七千

二百十四円余ニ及ヒ之ヲ三十九回ニ七千五百五十三

円余ヲ引出シ現ニ残額六十円余アリ

五、前項ノ金額振込場所ハ三十九年中二回ハ保是

府在勤中ナルモ其他ハ何レモ北京ニシテ振込人

ハ事ニ出鱈目ノ名義ヲ用ヒ其都度氏名ヲ更
更シ居レリト

以上ノ状況ニテ本人ノ住所ハ目下北京ト思料スルモ町
名番地等ハ不明ナリ

明治四十一年六月二十九日

1433

1432

補任

軍事



陸軍省 密受第シルハ號



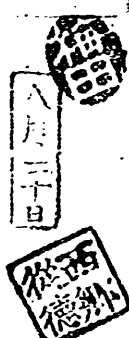
明治四十年八月十日

清國駐屯軍司令官中村慶三

陸軍大臣子爵閑寺内正毅殿

別紙軍機保護法違反者外藏陸軍砲兵大尉
川喜多 大治郎 職名 軍憲部長 那須大三郎
ヨリ報告書及進達候也

電報 發第六ノ号



客二九三

1434

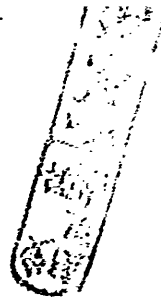
二件

1433

補任

1432

軍部



明治四十年八月十日

清國駐屯軍司令官中村霞三

陸軍大臣子爵寺内正毅殿

別紙軍機保護法違反者外藏陸軍砲兵大尉
川喜多治郎之職を軍憲部長那須大三郎
ヨリ報告書及進達候也

付人受領 五九 締

八月廿六日



八月二十日



客元三

清國駐屯軍司令部 發第六〇号

1434

二月

三郎 天嗣

0 号

1434

一得書款貴課長殿
此より一括し送る
補任通



軍機保護法違反者故川喜多

砲兵大尉關三郎續報

明治四十年八月七日

清國駐屯軍憲兵長那須大三郎

清國駐屯軍司令官中村禮三殿

第一、清國人ニテ故川喜多大尉ト關係ヲ有スルモノト認メラレ、
ハ外務部尚書日袁世凱、清國陸軍各學堂督辦殷
樸瑞、保定陸軍大學校長（一）張鴻達、清國陸軍
部軍學司長良弼、軍法司長丁士原、陸軍部許策、
琦友同、諮議官丁錦、外務部饒勳、宗滿、張連、茶陳

久輝、李炳之、毛維成、李玉麟、張慶恭、劉鴻恩、各
武官ナリ

一、袁世凱及段祺瑞ハ川喜ヲ秘密ニ招聊シタル張本人
ナリト判斷セルハ別紙第百一保定陸軍大總司令部張鴻達
ヨリ北京ハ喜ヲ大尉宛テ書翰ニ徴シテ明瞭ナリ

(談書類ハ喜ヲ大尉ノ所持品ヨリ奪取セシモノニテハ本展ナリ)

末項ニ但呈官作之出資辦不可令軍部及他處人
等知之帝布秘密爲禱專此敬請勉安トアレハ之ヲ
陸軍部良弼等ニ秘密ニス可キ事ヲ意味スルモト考ヘン
蓋シ現今清國陸軍ハ良弼派ト段祺瑞ノ二勢力カ分
レ互ニ陰々相容シサルモリアレハ之ハ良弼派頗ル日本好シニ
シテ顧問散官等ハ帝ヲ親シ出スルヲ見ル以上ニ依リテ推
察セル良弼派トハ喜ヲ大尉トハ何等ノ關係ナキニ近キカ

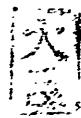
如シト雖モ現ニ我地較的信用ルニ足レ謀者ノ報告ニヨリハ
 夜間ニ於テ良弼及陸軍部左參議許東琦ヲ訪問セルコト
 ナ認メタリト云テ以テ見レハ狡猾極マリハ喜多ハ袁世凱
 及段祺瑞ニ對シテ極ナリ秘密ニ良弼狀モ應通レ此ニ面
 ヲ使役セウレタ願ハ報酬ヲ得テツマリシモノト斷ルヲ適當ト
 認メ現ニ喜多ノ所持品ニ収受簿及紙數約百枚ヲ成
 ル一帳簿及四カニ陸軍部丁錦外九名ノ武官ノ氏名ヲ記
 載セルコトヲス秘密書類受授ノ形跡瞭然タルニ於テヤ
 一以上各關係者清國陸軍部及有數ノ武官ナリ我憲
 兵及警察權ヲ自由ニ行使スルコト能ハサルハ故ニ其連類ナリ
 實ニ并ニ兩者間ノ關係等知レ由ナキハ遺憾トスル所ナリ
 茲ニ在日本張鉞弁ノ私信(憲兵司令官ニ呈出)ニヨリ察スル
 ニ張鉞清國ハ使館ニ居住スルカ然ラザレバ趙明區ニ在任ノ

日本人ニシテ偽名シツアルモノニアラスヤ

第三、在日本一連類者ニ就テハ得済ミ唯川喜多政子伊
藤好之助村捨子、郷築春五郎張鍼等ノ氏名ヲ弁
見セシメ所持品中ニ外往復私信ヲ弁見セサルヲ以テ
見トハ他ニ個々行李ヲ所有シ最モ秘密ニ格納シ居ル
モノニアラスヤ諸早川府縣モ談行行李ニ在リシヤラスヤト疑ハ
ル

慕韓仁兄丈人如握日昨身乘早車返保所帶
 三書已呈督辦司督辦厚及囑呈官保之切課務
 次飭司書用心瞻寫抄而字体猶項端正不可草
 率下應可以壯觀瞻借收効力是為至要倘司書不
 敷用可暫添一名至所添之司書自新均由敬堂書壽給
 可也似呈官保之書督辦不可令軍部及他處
 人等知之務希秘密為禱第氏致清勉安

黑第張鴻達頓首



本文

以下本文

乙卯五電 再電ス大正元年七月
 二日 阿嘉多ノ関元書 歎息地私
 有 一切しそや 元ノ無ク十ノ
 管口元 三
 若 送セリ 廿方 頃 神ノ着 今 地 運 輸 部
 陸 機 介 夫 月 汽 車 便 三 全 急 送 付 せ 三
 右 報 告 ス
 中 村 少 将
 立花大佐宛

天津 夏 田 四 七 号 廿 五 号 後 九 号 一 号 表

陸 軍



IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS (Delivery form)

Station		Office No.		Address	
Received Time		Date		Tatibanataisa	
By		26/8 19		Rikugunsho	
Station from		No. of Paper		Tokio	
Class		Original Office		Remarks	
S		Tientsin			
No.		Words			
447		24			
Date		Time			
25/8 19		9.1 p.m.			

kindaigoden saidensu
daisinate dainanadenjyung
o kawakitani kansurush
orui sonotasiyuhin
issaisusha surukotonaka
jurokuniti eitomarunite
hassoseri nijusanhikara
kobeshaku dootimayutunai

1441

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS

(Delivery form)

Station		Office No.		Address	
Received Time		Date 19		2	
By					
Station from		No. of Paper			
Class		Original Office		Remarks	
No		Words			
Date 19		Time m.			
rikunagesi soreyori kishabinnite sikyusofusa simu migihokokusu nakamura-sho					

1442

第五號

電報譯 八月二十五日午前九時三十分發着

陸軍大臣 宛 發信者 天津 中村司令官

第七電受領川喜多、岡、書類其他、卸便一切
 取捨、ルコトナリ十六日、管口丸便ニテ發送セリ二十三
 日頃神戸着、同地運輸部出張所ニ揚陸シ夫レヨ
 リ汽車便ニテ至急送付セラルコトトセリ右報告
 ス。附 第五

陸軍

陸軍電信用紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

1445

陸軍電信用紙

局		着		局				發		所名人信受				
印	附	日	技手	付午	時	分	字	付午	時	分	日	號	局	報
ズ ト ヲ エ ヨ コ セ ヲ ヤ ヲ エ 1 ヲ ヒ ヲ 2 ヲ 7 ヲ ダ キ セ ヲ シ = 7 イ キ ム テ レ 五 ヲ ル エ ヨ コ ヲ キ ヲ 3 ト ヲ * 定 指 事 記														
所名人信發 番 着 號 信 第														
號 號														

精怪

[illegible]

次官より神戸税関長へ電報集

二三日頃、煙台に九ニテ天津中村司
令官より大佐宛一立花副官宛、本荷物
到着、神戸解倉社ニテ其他運轉所出
張所、陸揚ヤスル者、右機密、同書、身
事、付、換、査、ヲ、為、サ、ル、標、取、付、ニ、タ、シ、

八月廿四日午後四時
電報、ハ、テ、電、信、
徳

八月廿二日

中書月屋良

立花 方

シシ茅五電昨未リ者再宛アレ

八月廿三日

湯下



陸軍



九月一

電報

立花大佐

五

中村王右衛門

西郷從德

八月廿五日

シン京五、今日電報、告せし如く、荷物ハ
 二三日頃、吾口丸ヲ神ノ、所差、口地、運送
 都出、出、付、陸、ス、ハ、リ、卸、船、会、社、ハ、命
 シ、ア、レ、ハ、程、重、ノ、檢、査、リ、要、セ、サ、ン、採、中、云、ハ
 然、ラ、員、教、ハ、大、正、元、一、貴、方、元、古、ナ、リ、所、以、
 物、所、差、リ、テ、結、ハ、所、差、收、ハ、亦、生、ハ、故、リ、
 ハ、神、ノ、運、送、部、ハ、お、被、シ、ア、リ、兼、知、ア、リ、

1450
 元
 如
 電
 報
 後

1451

タシのオキチ

陸

風

1452

陸軍電信用紙

局		着		局		發		所名人信受	
印 附 日		技 手		付 受		第		報 局	
		付 受 手 付 時 分 字 分		付 受 手 付 時 分 字 分		第 日 號 局 報		報 局 局 報	
定 指 事 記								所名人信發 番 着 號 信 第 號	

Handwritten message in Kana: 東京 陸軍 電信 局 へ 送る 電報 第 1452 号 昭和 20 年 4 月 1 日 午後 3 時 45 分 東京 陸軍 電信 局 へ 送る 電報 第 1452 号 昭和 20 年 4 月 1 日 午後 3 時 45 分

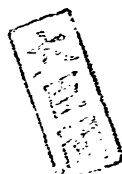
1453

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

陸軍電信用紙 1454

局		着		局				發		所名人信受	
印	附	日	技手	付午	時	分	付午	時	分	第	報局
イセ アチ アリ ク の ク 定指 事記											

1455



故川喜多大尉、件、付、清國駐 屯軍、兵、長、司、割、紙、通、報、失、ア リ									
明治三十八年八月廿五									

明治三十八年八月廿五

知



故川喜多太尉、關系報告

明治四十年八月十四日

清國駐比軍憲兵長那須太一郎

憲兵司令官林忠史殿

一、故川喜多、所持之機密圖書及所持

品一切（目錄）宛手送書表附在、其手送書・機密

品等略々、貴重品ト告之、八月十二日接圖

駐比軍司令官部ニ引渡セリ

一、尚其後曰大尉、好持品ヲ盡見シタルハ
 別紙ノ通り曰露戰役、於今各軍司
 全部以下而二十之戰聞詳報ノ目錄ニ
 之ヲ該目錄ハ清文ニ記セ凡ノミナリ現物
 ハ一部ツレモ盡見ニ終ッサルヲ判斷スルハ
 戰聞詳報ハ既ハ清國當局者ニ買収
 セルタルナリ（原戰聞詳報目錄ハ機密圖
 々共ニ軍司全部ニ引渡セリ）

写

受領証

一、梱包

五個

板川希多大助所持品

右受領候也

明治四十年八月十六日

清國駐在軍参謀 磯部 昌嗣

清國駐在軍参謀長 那須 左郎 殿

戰圖詳報部		(光緒三十四年)	
名	稱	頁數 (不在此內)	附圖之數
第七師團戰圖詳報	雷陸拾捌	拾壹	拾叁頁
太子河九年敵騎襲來剿匪遼東軍備軍	拾壹	壹	壹
騎兵第一師戰圖詳報	陸	壹	壹
第三師團後備騎兵第一中隊(二十隊)戰圖詳報	拾		
第八師團後備騎兵第一中隊戰圖詳報	玖		
後備步兵第一中隊戰圖詳報	柒		壹
後備步兵第二中隊戰圖詳報	肆		
後備步兵第三中隊戰圖詳報	捌		壹
後備步兵第四中隊戰圖詳報	柒		
後備步兵第五中隊戰圖詳報	柒		

[illegible]

第十師要新聞詳報	百松卷	商表核黃
第四軍新聞詳報	或松卷	萬一產
第五師團新聞詳報	秋松次	萬斯
第十一師要新聞詳報	公松五	萬四
山田支隊新聞詳報	榮松五	萬四
第二軍新聞詳報	西松六	萬四
近衛師要新聞詳報	巨小松六	萬松隆
第三師要新聞詳報	捌松四	萬樹
第七師要新聞詳報	西松七	萬柳
近衛師團新聞詳報	杉松	萬尾
近衛師團新聞詳報	陸	萬卷

[illegible]

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

高陽備商民成統至新軍詳報		深植四	
第三軍以勤同於通位編商			高植如
第三軍以勤同於通位編商			高植
第二師至新開詳報		西榮植秀	
正副師長到開詳報		李植樹	
第一軍砲兵到新詳報		陸植隆	
第二師砲兵到新詳報		四植武	
右翼區(臨時)到新詳報		彭植美	
左翼區(臨時)到新詳報		山植秀	表水
後備軍到新詳報		萬榮植樹	

河村五郎 (後備少将) 新聞 詳載	松 孝	
北島五郎 (後備少将) 新聞 詳載	松 孝	
後備少将 新聞 詳載	五松 次	
北島五郎 (後備少将) 新聞 詳載	五松 次	
後備少将 新聞 詳載	松 孝	
平場五郎 (後備少将) 新聞 詳載	松 孝	
北島五郎 (後備少将) 新聞 詳載	松 孝	
右側五郎 (後備少将) 新聞 詳載	松 孝	
前衛 (後備少将) 新聞 詳載	松 孝	
後備少将 新聞 詳載	松 孝	
後備少将 新聞 詳載	松 孝	

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

(3)					元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖
					元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖
					元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖
					元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖
					元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖
					元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖
					元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖
					元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖
					元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖
					元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖	元軍對明降帖

明治
日

大臣閣

人局長

1471

故川喜多大尉、件、付、清國駐
屯軍官長より別紙、通牒あり

明治三十二年八月廿五



八
月
三
日
印
八
九
八
号

分二

故川森多太信郎軍機保護法違反事件、審判
報告

明治三十四年八月廿五号

海軍省軍書長 那須太三郎

書司官 官林忠次郎

故川森多太信郎軍機保護法違反事件、審判、審判
外務部より、照會、討て界二号、通う我代
理公便より回着致置候趣付不取敢粘書候
也

一、近頃川森多太信郎軍機保護法違反事件、審判、審判

段祺瑞及袁世凱ノ計畫ナラシムトハ既報ノ
 如クナレバ清西外務部ハ形式ニモセヨ一應日
 中當局者、抗議ヲ申込リヘイ、寧ニ吾等ノ
 事ニ痛ムト爲ル裏面ニアリテハ清西政府自身モ
 如何ノ案シ徒ニ聲ヲ大ナラシメハ日清兩局
 軍事外交ニツナカテ彼外國交ニ不利ナレ可
 カヲ知レシム、如何ニシテ陸軍部ノ一部ニ於テ既
 エ之ヲ操持運動シ若キニシテハ模範ナレ
 カルリ阿部代理公使ヨリ表面公文ヲ以
 テ回答ササセシト同時ニ裏面ヨリハ外務部
 員ニ對シ抗議ヲ申込リノ意ハ不利ナレトシ

警察にともなひ以上ノ如クハ田満ニ為るヲ
見ル遠ニアツキハク悲傷セム

二 清島公使館附武官青木少将ハ七月中旬
以降福島中將ト共ニ漢口方面ニ移リ人
月吾歸歟シムル如ク也事何恙起ノ時
北京ニアツキハ彼我軍事當局者如將來
ノ關係ヲ田満ニ維持スルニ移リ却テ不利
ナシト思料セム

三 事件發生後北京天津並行ノ漢口新
聞ハ割續々也例ノ類ホリ誇大ニ掲載シ
評議シテアルモ其要ホリ得んモノ極メ少ク

攻撃、親韓の日本当局者に向てス部、法
王主権ノ尊重ヲ呼ビ或ハ法外致意案ヲ提
振シ唱ヘツクアハハ頗ル奇ナリ外西新聞ハ一
ニ事件ノ概略ヲ掲載セシモノアハハ末々大ニ
注意シ拊ヒ事件ノ解決ヲ煽動セシト云ハル
如キ形跡ヲ認ム

查各戸ノ必要アリト認メラル

第一

欽命全權大臣便宜行事軍機大臣總理外
務部事務和碩慶親王

照會事准民政部轉據內城總廳稟稱本月
初五日午後一時有日武友帶領便服衛隊馬
步兵前往門樓胡同將住戶張壽芝拘捕
該營徑巡警瞥見稟報到廳當即派員
前往該處訪查據稱門胡同原有住戶丁
錦同居之張壽芝或云廣東人、或云日本人
本日日本營前來拘去並已受有槍傷等
語知照前來查此次

貴國實在京城地面帶頗使領衛隊多人我
 朕持槍擅入中國住戶奴人復有放槍擊
 擊情事既背約章又違公法實與中朝主
 權國體有礙相應照會
 貴署大臣即將此事詳細查明並派武
 官以應得之罪以全睦誼並希
 見復為要須至照會者

左 照 會

大日本國署理欽差左權大臣阿部
 光緒二十六年庚子日
 初 柒 日

片二七

以嘉穀政上致候陳者北京門楊胡同之寓
也レ張壽芝は其ノ日本武官の拘去レリトノ
却テ老婦は其四年七月七日付貴族ヲ以テ
照會ノ次第圖悉致候本件ノ事實ハ何個候也
右張壽芝之下の其父日本臣民陸軍砲臺大尉
川桑多大治郎ノ妻名ニシテ同人之現役軍人ト
ニ拘ララス其母ノ其踪跡ヲ晦メシ且ツ犯罪ノ
嫌疑アリト因リ秘實憲ニ於テ其居所ヲ搜索
中本公便館字佛島管内ニ在リ憲兵派遣
所員偶々同人之姓名ヲ張壽芝ト知リ該西人

服装ノ爲ニ門極胡同ノ處所ニツキ知リ而シ
 甚ク更ニ他ニ踪跡ヲ隠シトスルノ形勢多ク
 以テ窺ヒ得ル多ク以テ万一機有テ逸セカ再ヒ之カ
 消息ヲ得難キヲ認メ本月一ヨリ書キ其數名速ニ
 該所ニ到リ川井多ク面會シ穩カラシメテ諒新
 シテ憲兵派遣所ニ向セトシ見ニ同人ハ
 直ニ白テ奏見セラシムルヲ知リ突如刀ヲ拔テ
 彼等ヲ害セトシテ憲兵ハ危急ニ迫リ不得已
 正當防衛ノ爲メ拳銃ヲ放テ同人ノ暴行
 ヲ鎮壓シ得テ之ヲ憲兵派遣所ニ連レ歸
 リ免却セラレ候

査るに本件は日本臣民の一軍人ノ所爲也
 名に雖も穩便ノ憲号に非ず同様にセトシ
 其の養生に事柄の外に而して前陳ノ如ク
 形勢急遽事態切迫ノ爲に豫て本件ノ事情
 ヲ要官官署ノ以柔知に入レ置クヲ得ス隨テ
 政府に於て疾ク事ノ真相ヲ解スル由ナリ
 日本代理公使ノ遺憾トスル所ニテ其政府
 於て右ノ次第に諒察アラント切望致候
 尚ホ其考ノ爲大川希多士ン張素是カ諒所
 慮スルに至リん緣由及其所属兵中ノ其部
 隊知致候候間市面調止市面亦相成度

市係新致候狀既思覆書申進候致具

明治四十一年八月十日

阿部代理公使

慶親王

大正
月一八日

本館
護法
事
部
軍
機
長
日
内
松
中
大
正
十
四
年
八
月
十
四
日

八月
中
第
八
十
三
号

軍機保護法違反嫌疑者休職砲兵

大尉川喜多大治郎に關する報告

明治四十一年八月五日

清國駐屯軍憲兵長那須本三郎

憲兵司令官林忠夫殿

川喜多砲兵大尉、犯跡の總置せし同大尉、所持
品、徴する極く、明瞭に、軍機保護法第
二條、該當する重罪犯たる同人の北京歩兵
隊醫務室、収容後約十五分、之を死亡せし

名ヲ以テ直接ニ調ヒテ能ハスルニテ又連累
 者ノ檢査ニ對シテ曰人、自白ニ依ル資料ヲ得
 以テハ其ノ到リタル甚ク遺憾トスル所ナリ曰大村
 ハ犯罪ヲ行ハシタル者初メ既ニ決意スル所
 ナリシモノナリ、丁錦宅ニ出テ、晝夜長八
 重裡ハ即ち南門ハ可成り溫和ナリ、吸
 出テ地獄晝夜派遣所ニ向テ行テ促サレトシ
 今拘ラズ、檢刀ニ極力晝夜、職務ハ
 行テ抵抗ニ至ル所ナリ又將馬牛ニ照シ
 甲午五月五日自宅ニ於テ自筆詔書ニ
 依リ遺言状ニ懷中ニ在リ、藥不(劇)業ヲ

ハ毒藥を以て國下の新試駭中（等）等、利
 新（等）性國、於て自己より、均為「あはれ
 子同母帝國、國事、果て重罪より、
 知り、利徳、為て甘しテ服するを多ク
 や、疑、餘地、多ク、誤、況、や、同、方、時、年
 九年、八月、以降、振替、貯金、加入、留守、宅
 東京府豊多摩郡宇都園三千三百四十二番
 地宛、送金、是、金、額、實、數、千、円、多、額
 二、千、五、百、圓、に、於、て、リ、ヤ
 右、振、替、也、
 追、て、記、目、録、書、類、係、付、録、也

7 養恩寺

三川希多所抄本一巻野屯軍司令部、引候に軍事機
密圖書ト共、陸軍省ニ著送、自續、ナシトス
(所抄本目録中、清國々防計画請邦兵備ハ極密
ノ旨ヲ要ス)

三川希多ハ張壽芝ト偽名ニ辨鑒、著、常、
五那杜ヲ著手セリ

報告書

一、明治四十年八月、多前工時、情、電、報、此、軍、生、
 兵、長、了、軍、機、保、衛、極、速、反、彈、疑、者、休、職、
 降、軍、砲、兵、大、尉、川、村、嘉、多、大、佐、等、ヲ、兼、謀、ヲ、得、
 三、北、京、軍、机、委、任、の、行、三、才、有、ヲ、要、々、宣、
 兵、上、等、兵、原、江、良、次、の、本、下、加、藤、ヲ、率、北、
 京、東、四、牌、門、樓、胡、日、丁、錦、方、之、際、之、門、者、
 齊、桂、林、之、諸、ヲ、主、人、丁、錦、之、向、唐、ヲ、制、
 之、物、之、齊、桂、林、之、主、人、之、在、古、台、先、々、リ、統、
 江、甘、蘇、省、人、張、大、人、之、向、唐、之、才、旨、諸、之、

此は橋人病うき名を尋ねて後、此の書し
 致すに、隨喜寺の書し見ると、表とナレト
 於是、舟柱林、奥内、西門より、二回
 斗り、また折四回斗り、こゝに折に板張り、
 中門より、通過して、別院、墨圓の書し、橋に③
 、室外、斗り、えん、室内、清徳、以て、世等
 何々、用事あり、以て、来り、えん、早、出、行、け、ト
 再、三、繰、返、し、り、此、句、書、音、に、此、書、人、又
 南、書、人、に、此、書、人、不、熟、に、後、書、人、以、て
 川、書、人、に、此、書、人、不、熟、に、後、書、人、以、て
 白、布、綿、製、の、三、尺、テ、ー、ブ、ル、脚、四、本、に、張、墨

書しりり川赤多太時、張新芝ト偽名ニ境
 下ニ謀者ニ依り既ち之所より依り硝子窓
 有り室内ヲ窺ヒ先ニ年頃三十二才ノ上郡
 結着用、異人地圖ヲ翻キ録リ、加片付
 ケツヤン有り川赤多ニ相違ナキヲ認メ戸外日
 リ五個ノタチ仰アハヒ地盤高き似てあり
 以テ中言ヒク室内ニ進入ラントシ旅ヲ半ハ
 押エ開キ川赤多太時ナラヌヤト呼ビタリ被
 トハ着鏡ヲ持テ来シ持来シト接接ヲ以テ呼
 ビテ直ニ仕込杖ヲ抜刀シ本職ニ對リ然
 ラレトセリ如職ハ所及的溫和ノ手返ヲ操リ

同行ヲ促スるを容易ニ聞カサルノ様様ナ
 一ニテ之ヲ益々暴行シテ敵ヲ捕人ノ交接ヲ
 呼ビテ、女職ノ職ヲ、斬リ下リ、概一髪
 幸ニ之ヲ剣傷ヲ免レるを職努ヲ勉メセシ
 此等器ヲ使用シ暴行シ、勝ツてア甘ハ
 不敵ナ婦人ニ迫リテ、遂ニ止リ得テ着鏡シ
 差射スル所胸部、命中シ重傷ヲ負キ
 几重ノ如クニ之ヲ転倒セリ此時同室、在ル
 衆多、善清人、翠林救助シ女職、請ヒ
 依テ同婦人ヲ室外ニ出シ再ニ室内ニテ子川
 衆多、同行ヲ求メ、見トキ川衆多、復基

下、踏をえり原に木下、西上等々静かに引出し
 せしむるに又々寢る多し、願ひ程に四、抵抗
 せざる、暫時こころ強しより依り、座敷、白書
 け施し、其那馬車に載せ、同時、妻、阿茶、妹
 、系、語り得る、荷物、物、件、鞆、方、伯、及、櫻、板
 、は、込、校、り、領、進、し、尚、下、錦、留、守、宅、担、当
 人、斎、桂、林、り、系、語、り、得、り、曰、乃、こ、曰、い、何、事
 ナ、所、世、分、曰、郎、り、出、費、し、曰、五、十、分、帰、所
 身、柄、い、直、こ、北、京、願、此、歩、号、隨、匠、賢、室、之、収、容
 と、り、(収、容、後、約、十、五、分、こ、こ、ろ、五、元、を、)
 一、押、収、え、荷、物、件、件、位、重、不、整、頓、り、極、其、

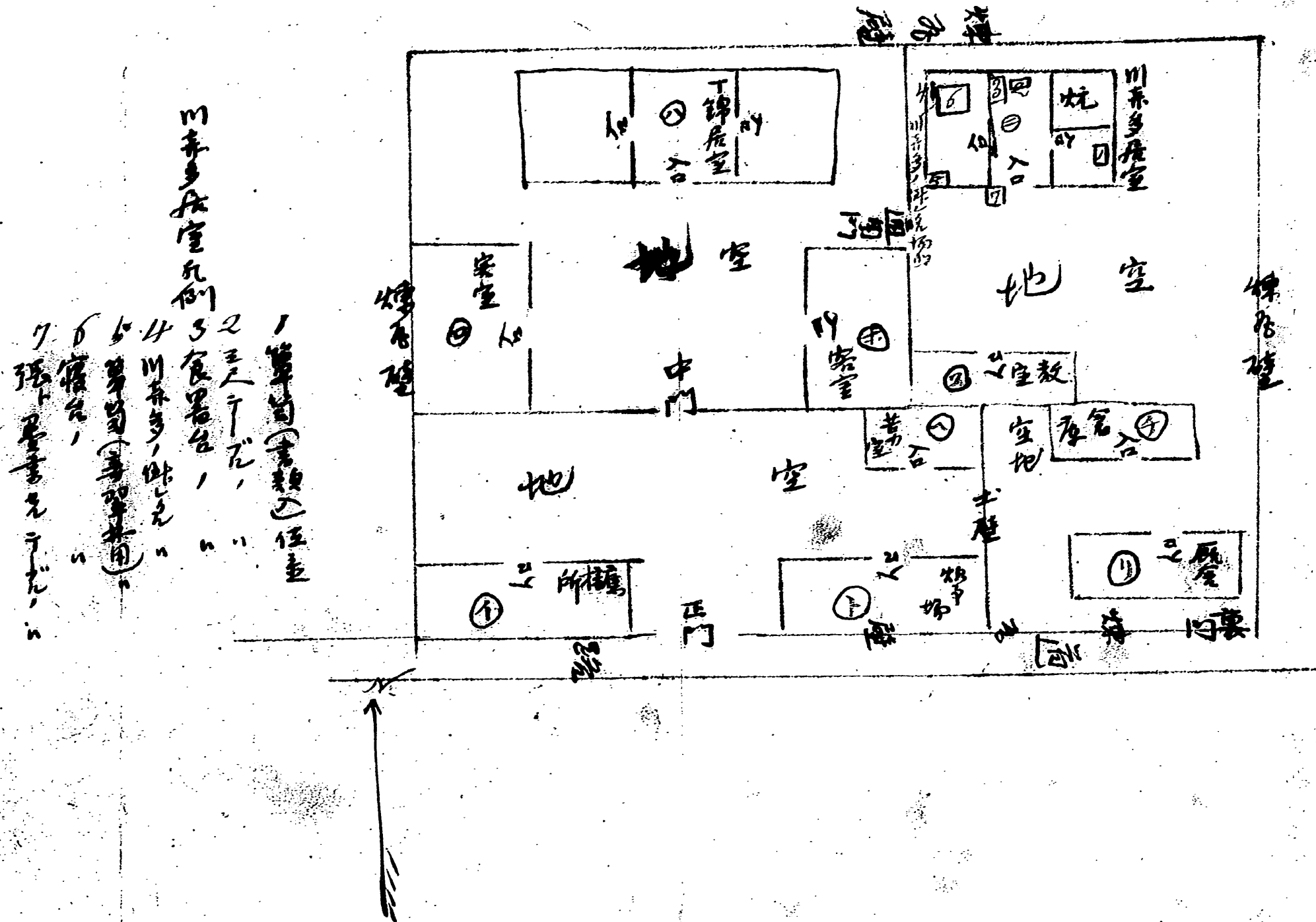
之等之地圖ノ如キハ丁寧ニ直ニ下リテ他
 書類ニ其一本ハ算司ヨリ出シテ靴ニ納メ
 又他靴ニ或ハ蓋ヲ開キ又ハ嚴重ニ梱包シ
 加之蓋ヲ翠林ノ着被敷十點ニ算司ヨ
 リ出シテ作書室トモテテ即チ書類ヲ
 密藏シタル室ノ坑ノ上ニ二重トシテ下リ
 以テ是ヲ推集スルニ是日兩名ハ早朝ヨリ荷
 出シテ五批リ被ニ下リテ他ニ転付セリト云
 ノ事ト思科ス

左様告也

明治四十年八月一日

北軍軍部遠く北長陸軍軍部血長八重握九郎在御門

清國駐屯軍軍部長那須右三郎殿



水之河新書

水之河新書

東京府下豊多摩郡中野村字中野千三百四十五番地

休祿陸軍砲方大尉 川井多大治郎

明治三十四年十月推定十七日生

右明治三十四年八月一日午後零時許方清國北
軍東四牌橋門橋胡同丁錦方假寓処に
於て胸部貫通拳銃創より受て左時五十分
北京駐屯軍醫務室より診せられ左
側腋窩腋第八肋骨部、肋骨二根に長し
一仙米皮膚傷縁鋭利な半月状、射入口

了り右肩胛下隅、下方十一仙希突、肘十肋
 骨部、射出、射出、創経一仙希突、創経
 挫、臍、左側、第八肋骨、之折、徴、外部、出血、既
 止、ム、服、球、上、竅、之、服、膊、絶、上、強、ト、心、動、ヲ、破
 破、ム、ト、能、ク、時、之、間、歇、性、ヲ、呼、吸、ヲ、苦、シ、ト
 左、方、ヲ、経、ル、午、後、一、時、五、分、但、脈、麻、痺、ヲ、受
 鬼、籍、ニ、上、ル

明治四十年八月

北条 駐屯 歩兵隊

陸軍一等軍醫 服部 富樫 稔

軍機保衛防表反孺疑者
 休政陸軍砲台耐川希多大治郎少持昌同録

[illegible]

新地圖送新稿	全	四十五号	一	明治三十九年正月
東京海軍省附近	全	五〇〇号		
秘密地圖	全	四十八号		
	全	一五二号		
	全	四七二号		
	全	四九一号		
	全	一七七号		
外國電信電話回	外	五枚		
餘圖	秘			
大野方面地圖	七	軍事秘密第一四号		
關地方和佛回	五	軍事秘密第一四号		
同治國牙二二(号方面)	日			
日所國牙二二	日			
(大野方面)	日			
三附近(中黑嶺燒山)	日			
鳥嶺利治道誌	不			

[illegible]

[illegible]

名	番	号	員	数	年月日
陸軍大學堂圖書部 ノ素信				一	永服書院新入館及 今四年〇四才在中
外 雜 品	行	李		古伯	
白筆新書上巻 陸軍大學堂圖書部	明治四十年 川希多大法部ノ白筆				
陸軍大學堂圖書部	三百五号			一	陸軍大學堂圖書部
明治四十年八月二日 於北京中野 取書 陸軍駐屯軍書長陸軍圖書長計 那須太三郎 奉人北高書長陸軍書長少佐 土井市之進 日吉清書長陸軍圖書長少佐 松井石松					

書侯共一

大坂より新少七右衛門に記すト書仲
雅号トは何号ノ無後丁子名アリ記フ

八月廿六日

七百三十五。題今信印張鉞寄書

書信及書信年一暗辨在公好

同々署を來懷し不は移極まに傳りた
くいかは方々事別宛に覽の上以考ひ
下され即ち署方より宜しくと申傳へ

フツキテ、ヌスエ、フツヌ、ツハヌ、ワケヌ

サス⁴エ、ハフムテスラ^レウヘエ、スチハ、ユエ

ハ、クスール、ヲテト、ムニス、エヒウセ

右譯

七月二十日、二十六、五師團、秘密書類

銘失、件、記事、片、保、皆、心、配、不 有、書、信、及、暗、符、ヲ、テ、先、封、筒、ハ、其、所、封、筒 三、二、少、在、妙、也	表 大清國北京城內東直門內楊胡同二千九百一十二號 張大人 啓 外、敬、請、垂、察、謹、此、佈、聞 宣統元年七月二十五日 楊胡同二千九百一十二號 張大人 啓	裏 封 七月二十五日 國
--	--	--

書信 其二

故川希多方時節來信

光緒三十二年六月二十八日付以予東京張鐵弓

張君芝二前元書面知北京郵政局

一於少親並有

半成白紙二張元在文長如已

張鐵先生與有再拜啟

張鶴齡大人鈞座前通光霽晨夕仰望

時安暑懷在台候動上萬福不勝忻慰

生不方守採如初夏足為高明處及少

重懇平尊聽

以上筆跡の男

時々やうに思ふさうよくお前の事をか前様といひ
 此等の由先の中様にて知事より来ひ申す
 何れも一人の事故せんくは身大切と致す
 尤もい母上の口通しと云ふ事と云ふ
 こそ是れ其由の物事か果へ大い安心仕へ
 故私分何つくは乳中上と
 又其後より見えてはけとの事と云ふ大
 いお前び又一回のお前様のやさしき
 多分までお前び安心しありは母上は病氣
 はサもなくい故何分くお前の世

心あかしのうれいのみをして、
くまぞんどよほとよさられぬ又こま
成のせらふいやさるる、
我先の身大切と知る

(以上女の筆跡)

船園、諸氏一同世累、
善信と兼り、
此自愛の、
新正の

(以上男の筆跡)

(3)

秘

如

1510

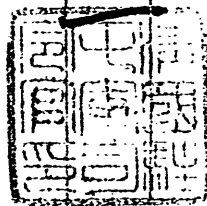
陸軍省密令第三九號

八月十七日

清國駐屯軍司令部 松發第五八号

明治四十一年一月八日

清國駐屯軍司令官 中村愛三



陸軍大臣子爵寺内正毅殿

元

別紙軍機保護法違反者休職陸軍砲兵大尉川喜多太治郎に關し軍憲兵長那須太三郎ヨリ報告書日類及進達候也

陸

軍

軍機保護法違反嫌疑者休職確実

大尉川喜多大治郎關係報告(寫)

明治三十五年八月 日

清國駐屯軍官長那須大三郎

清國駐屯軍官中村愛三郎

川喜大尉兵大尉ノ犯跡ハ領置シ同大尉ノ所持品ニ徴スルニ
極メテ明瞭ニシテ軍機保護法第二條ニ該當スル重罪
犯(有期徒刑)ナルモ同人ハ北京歩兵隊醫務室ニ収容後
約十五分ニテ死セリテ以テ直接取調フル能ハサルコトナリ

入連田原者ノ檢舉ニ對シテ同人ノ自白ニ依ル資料ヲ得ル
能ハサルニ至リハ甚々遺憾トスル所ナリ同大尉ハ犯罪ヲ行ハント
スル當初ヨリ既ニ決意スル所アリシモノ如ク丁綿宅ニ出張ノ
寔兵伍長ハ重極九郎右衛門ハ可及的温和ナル手段ニ出テ北
京寔兵派出所ニ同行ヲ促サントシタルニ拘ハラス直チ拔刀極力
寔兵ハ聯勢執行ニ抵抗シタルカ如キ又所持品中ニ明治四
年五月五日自宅ニ於テ自筆詔言ニ依ル遺言狀及懷中
セル薔苳品(激蕪草苦ミクハ毒藥ノ疑アルヲ以テ目下令拆封驗中)等
ニ依リテ判斷スルハ清國ニ於テ自己ノ行フ行爲ハ不正ニシテ日
本帝國ノ國事ニ關スル重罪ナルコトヲ知リツテ利欲ノ爲メ甘シ
テ敢テシタルモノタルヤ疑フノ餘地ナキモト認ム況ニヤ同大尉
ハ三十九年八月二十日以降振替賄金ニ加入シ留守宅東京府
豊多麻郡中野町字桃園三十三番地宛ニ送金

せし金類寶具之費十圓ノ多額上リ居ルニ於テオヤ
右報告候也

追テ左記目錄ノ書類添附致候

一 宝具共伍長ノ重保九郎右衛門ノ報告書

二 醫師死亡証明書

三 川喜方大尉所持品目錄

報告書

(寫)

一明治四十年一月二十日土時清國駐屯軍憲兵長より軍機保
 護法違反嫌疑者休職陸軍砲兵大尉川喜喜多大治郎ヲ逮
 諾ヲ得テ北京憲兵派遣所ニ同行スヘリ命ヲ受ケ憲兵上等兵
 原口良次金木下加藤ヲ率ヒ北京東西牌門樓胡同「丁錦」
 方ニ臨ミ門番「有桂林」ニ請フテ主人「丁錦」三人會ヲ求メタリ
 然ルニ「有桂林」ハ主人不在ナル旨告ケタリ然ラハ江蘇縣人「張天
 人」ニ面會シ「丁錦」上請ヒタルニ左様ノ人居ラサニ旨告ヘ尚諾ヲ
 次キ若シ疑ヒアルハ隨テ見ルモ善クナシト於是「有
 桂林」ニ案内ヲセ正門ヲ入りテ二階中ニテ左折四階中ニテ板
 張リノ中門ヲ通過シテ別紙田畠各室ヲ檢シ(一)ノ室外ニ到
 リタルトキ室内ニテ清語ヲ以テ「汝等何々用事アリテ此處ニ来

陸

幸ニシテ劍傷ヲ免レタモ職務ヲ執行セシハ兵器ヲ使用シ暴
 行ニ勝ツニアラセハ不可能ナル場合迫リテ依ニ止リ得ス拳銃
 ヲ發射シタル所胸部に命中シ重傷ヲ負ヒタルモノ、如クニシテ轉
 倒セリ此時同室ニ在リ川喜喜ヲノ妻清人「翠林」救助ヲ本職
 ニ請ヒタリ依テ同婦人ヲ室外ニ出シ再び室内ニテリテ川喜喜ヲニ
 同行ヲ求メタルトキ川喜喜ヲハ寢台ノ下ニ潜ミタルヲ原口木下
 ノ西上等兵靜ニ引出サントシタルニ又々寢台ノ下ヨリ頭ハ狂ヒ廻リ
 抵抗シタルモ暫時ニシテ斃シタリ依テ應救ノ手當ヲ施シ支那
 馬車ニ載セ同時ニ妻「翠林」ノ承諾ヲ得テ証據物件靴
 六洞及櫻柄ノ仕込杖ヲ領置シ尚「丁錦」留守宅相當人「有
 桂林」ヲ承諾ヲ得テ同行シ今日正午土時三十分同邸ヲ出奔
 シ今十分歸所身柄ハ直ニ北京駐屯歩兵隊醫務室ニ収
 容シタリ（収容後約十五分ニシテ死セリ）

明治四年

一押収証據物件ノ位置不整頓ヲ極メ在ルコトヲス地圖ノ
如キ丁寧ニ直シツアリタリ他ノ書類モ其ノ半ハ單筒ヨリ出シ
テ納メ又他ノ靴モ或ハ蓋ヲ開キ又ハ嚴重ニ梱包シ加之妻
一圓筆林ノ着服數十件モ單筒ヨリ出シテ作茶室トモ言フ
キ即チ書類ヲ密藏シアル室ノ炕ノ上ニ三重ネトシテアリタリ
此莫ヨリ推察スルニ此日兩名ハ早朝ヨリ荷造リニ取掛リ夜ナリ
テ他ニ轉居セトシタルモノナリト思科ス
右報告候也

明治四年一日

北京憲兵隊所班長陸軍中將長八重樫九郎右衛門

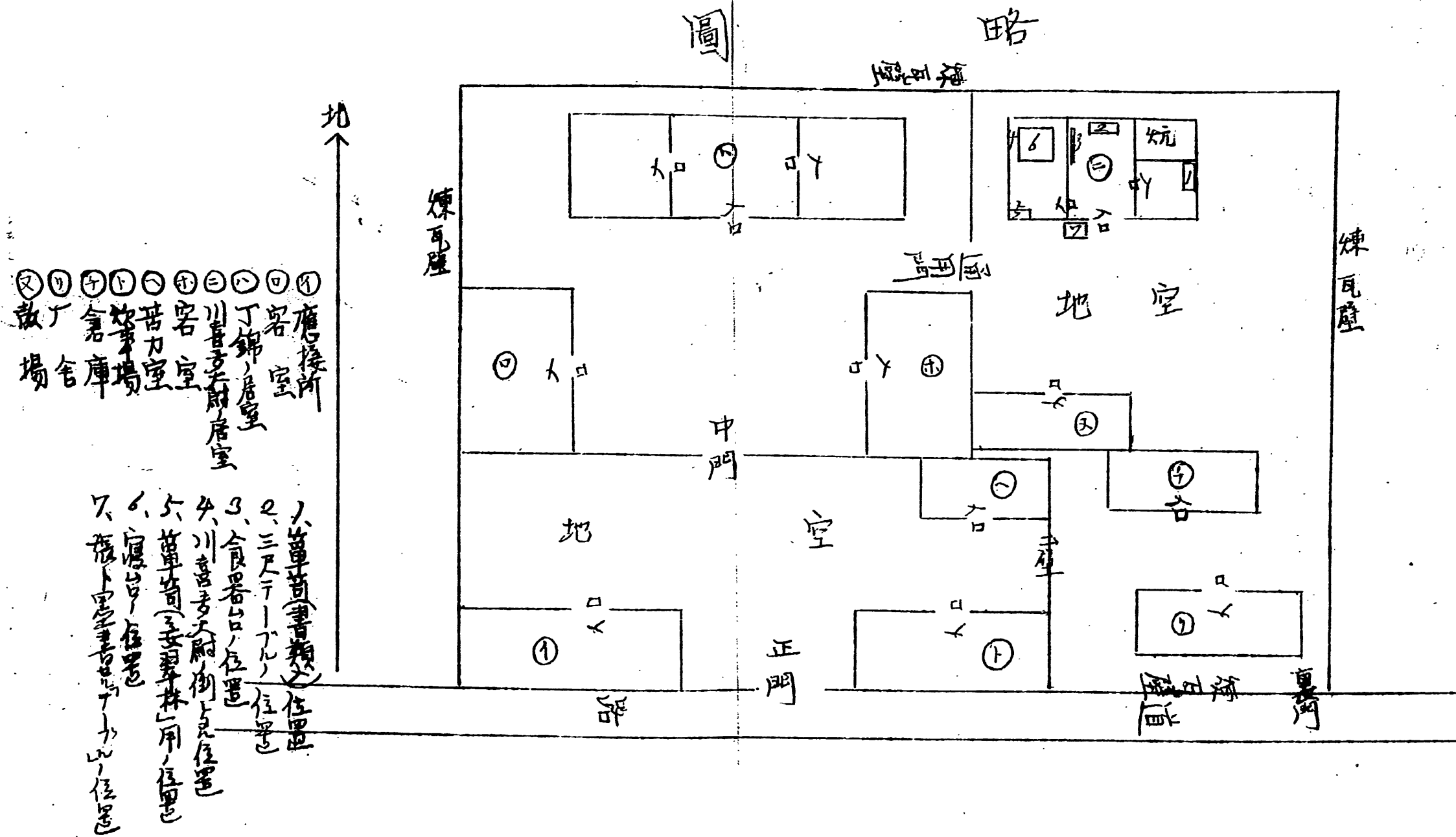
清國駐屯軍憲兵隊長那須右衛門

右原本に依り謄写ス

明治四十年一月四日

陸軍憲兵上等兵水戸次郎

陸軍



東京府下豊方郡中野村字中野十三百五十一番地

休職陸軍砲兵尉 川喜多 大治郎

明崇禎年正月推定推七日上

右明治四拾五年九月廿日午後癸時貳拾分清國北京東西牌樓門樓胡同錦方假寓處花々胸部中央痛著手銃創之處ケ今時方方北京東也歩兵隊醫務室ニ於テ診スルニ左側腋窩嚙傷ハ肋骨部ニ肋骨ニ沿ヒ長キ仙米突皮膚縁鋭利ニ半円狀射入口アリ右肩胛下隅ノ下方土仙米突第十肋骨部ニ射出シ射出口ノ創徑一仙米突創縁挫滅ス左側第八肋骨方折ヲ徴ス外部出血既止ム眼球上窩内ニ眼瞤絶止殆ト心動ヲ聽取ルニト能ハス時々間歇性ニ呼吸ヲ管ニ拾五分ヲ經

午後五時五十分 麻痺ヲ以テ鬼藉ニ上ル

明治四十年八月一日

北京駐屯歩兵隊

陸軍一等軍醫 服部富雄 印

臣

宣

軍機保護法違反嫌疑者
 林崎陸軍砲兵大尉川喜孝大
 少郎所持品目録

(寫)

陸

軍

目録				
名	称	種番	冊	年月日
吳要臺射丹級圖		吳要臺射丹級圖 明治三十二年正月發行 (二万分一)	一	
吳要臺通信網圖		吳要臺通信網圖 明治三十二年正月發行 (二万分一)	一	
吳要臺防禦防禦級圖		吳要臺防禦防禦級圖 明治三十二年正月發行 (二万分一)	一	
廣島灣要臺防禦防禦級圖		廣島灣要臺防禦防禦級圖 明治三十二年正月發行 (二万分一)	一	
廣島灣要臺防禦防禦級圖		廣島灣要臺防禦防禦級圖 明治三十二年正月發行 (二万分一)	一	
廣島灣要臺防禦防禦級圖		廣島灣要臺防禦防禦級圖 明治三十二年正月發行 (二万分一)	一	
滿洲沿海道誌		滿洲沿海道誌 明治三十二年正月發行 (二万分一)	一	
野戰軍旅長提提要		野戰軍旅長提提要 明治三十二年正月發行 (二万分一)	一	
兵站勤務令		兵站勤務令 明治三十二年正月發行 (二万分一)	一	
船舶輸送勤務令		船舶輸送勤務令 明治三十二年正月發行 (二万分一)	一	

東京灣要塞附近	秘天第四五八号	全	一六二号	計廿五枚	(三万六千)	
秘密地圖	全	四四三号	全			四九一号
	外	一七七号	五枚			
韓國電信電話面線圖	秘					
大野方面地圖第三	軍機秘密第四号	一七	六枚連合地圖			一
同附圖第六(長島)	軍機秘密第四号	五	全	一	三十九年九月自廣島運到至今 印刷(二万六千)	
同附圖第五(大野方面)	日 第四号一六	同	一	一	日 (二万六千)	
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)	同 第七八号一	四	一	一	三十九年陸地測量部印刷 (二万六千)	
自利治治通誌	明治外周覽之新	一	一	一	三十九年一月 朱澤平印第二部	
三十九式速射砲射擊表	秘 第一八六号	一	一	一	三十九年三月十日 陸軍省印刷	
海防要案防衛計劃圖	明治三十七年度	一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九式速射砲射擊表		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
佐世保要塞緊急配備		一	一	一		
海防要案防衛計劃圖		一	一	一		
吳附近 (中東嶺、燒山、吳、廣山)		一	一	一		
三十九						

Index

七冊知兵安田龍柳彈射 數千枚		外三冊	三十三年九月二十日 水陸軍省印刷
段祺瑞寫真		一	
陸軍大學堂張鴻達書		一	
外靴品	行季	六何	衣服書箱類人但及 銀印四部四仙在印
自軍書言依貴言	明治四十年九月五日 中野町自軍書房 川口書房大印自軍書		
陸軍大學校中野町書	三百五十	一	陸軍大學校中野町書
明治四十年九月五日北京步兵隊			
取調清島駐屯軍官長陸軍官署大尉那須大三郎			印
主事人北京步兵隊長陸軍步兵佐土井市之進			印
主事人在清島駐屯公使館附陸軍步兵大尉松井石根			印
右原中二依贈寫入			

明治四十一年八月四日

陸軍馬場庫曹佐々木兵五郎

陸

軍

大臣閣

八月八日

故休紙碓方大尉川希多
大佐郎軍機保護法遠及事件之付
清國駐屯軍憲号長了別紙一通
讀粘下り依了及内報有也
明治四十年八月十七日

中第八七号

軍機保護法違反者故川希多砲台大尉
三美より續報

明治四十一年八月七日

清国駐屯軍憲兵長 那須太三郎

憲兵司令官 林忠次郎

清国人より故川希多大尉ト関係ヲ有スルモノト
認メラルルハ外務部尚書袁世凱、清国陸軍
各學堂督辦段祺瑞、保定陸軍大學校長
(?)張鴻達、清国陸軍部軍學司長良弼

(秋教書法監、如キヲテ用事)
 國防軍制も意味シ、勢力アリ
 軍法司長丁士源
 (秋教書
 又本人、恩、秋教書、和會、委員トシテ)
 陸軍部許秉琦及
 同諮議官丁錦、外韓國饒、魏宗瀚、張連
 蒼、陳久運、李炳之、毛健成、李玉麟、張慶
 春、劉鴻恩、各武官ナリ
 袁世凱及段祺瑞ハ、川系多ヲ秘密ニ招聘シ
 シル張本人ナラント判断セラル、別紙第一号
 保定陸軍大學堂張鴻達ヲ、北京川系
 多大附院教授トシ、蕭毅、徵シテ明瞭ナリ
 (秋教書、川系多大附院所持品ヲ、我見セシモノ、八月廿七)
 主項ニ
 管口、由一電報ヲ、下要、報告シタルナリ
 但、軍官係之出、督辦不可、左軍部及他処人

等知之務希祕密為禱專此敬請勉安
 之レ陸軍部良弼等、祕密、不可
 キ事ヲ意味せん、ト考へ、官保、官名
 ヲ指さん、ナレ、清國人、袁世凱、官保
 ト記さん、通例トス、蓋シ現存清國陸軍ハ
 良弼派ト既祺派ノ二勢力トナレ、互ニ陰ニ
 相害シさん、カレハナレ、良弼派、頗ル日本
 好ミ、顧問教官等ハ常ニ親シク出入さん、
 兎ル以上、依テ推察セバ、良弼一派ト川希多
 大尉ト何等ノ關係ナリ、近キカ如シト、現ニ
 我比較的信用スルニ足ル、諸君ノ報告ニ依リ、故

間、移、良弼及陸軍部在、参議許業琦
 ヲ訪問せんコトヲ諾ムルヲ以テ見ルハ後
 獨極之川希多ハ袁世凱及段祺瑞ヲ討シ
 テ極メテ秘密ニ良弼派ニ應通シ此ニ而
 テ使役セラルル類ノ粘附ヲ要ケツクリシヲ
 ト斷スルヲ志スト認ム現ニ川希多ノ所持品ニ收
 受ノ簿ナシ紙數約百枚ヲ一紙澤ニ明
 二陸軍部丁錦外九名ノ武官ノ氏名ヲ記載
 セルノミナラス秘密書類受授ノ形跡瞭然タ
 ルヲ認メテヤ
 以上ノ各關係者ハ清國陸軍ニ於ケル有数武官

ナル我輩各ノ發案權ノ自由ニ行使スルコト
 能ハサルカ故ニ其連類ノ事實若シ両者間ノ
 關係ヲ知ル由ナリト貴族ト云フ

別代第一

嘉祥仁兄大人如握日昨弄乘早車返
保防帶三書已呈督辦而督辦淳之書呈
官保之切課務次飭司書用心臚抄而字
體獨頂端正不可章率應可以杜硯磨借
收効力是為至要倘司書不敷用可酌添
一名至所添之司書新均由教堂筆給
可也但呈官保之書督辦不可在軍部及
他處人等知之務希秘密為禱弄狀
致清勉安

愚弄

張鶴達

頓首

右取文

昨の一番列車に乗り乗定、返り申に所轄セシ書
翰に已に指辨を呈し申可、此に指辨の要ケシ官保
課業ノ嘱托致し行なふ事ヲ司員ニ命じ注意
シテ應答セシ字体に類ラウ端正ニシテ早率ニシテ
以テ仕勸借ニシテ効力ヲ有シムルヲ緊要ニテ又若シ司員
不足ナル時時存一名ヲ添へルを差支エテ其満シ司員
ハノ餘科ニテ、計画ニシテ出カス可ク又但シ官保ヲ出
シ指辨ノ仕事ハ軍部及他處ノ人等ニ知ラシム
ルハ極秘ニシテ秘密ヲ教上候條ハ折角申事
触レテ健康ヲ折上候也

第一號

電報譯

八月十五

日午前

午後十一時

五十五分

着

發

左記宛

發信者

天津

中村

清第四号川在号ノ遺骨ハ他
ノ遺品トモ、本リ貴友ニ送
送セシム

陸

軍

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS

(Delivery Form)

Station _____		Office No. <u>1</u>		Address _____	
Received Time <u>3.20 pm</u>		Date <u>15/8</u> 19		<u>Tatibanataisa</u> <u>Rikugunsho Tokyo</u>	
By <u>J</u>		Station from _____			
Class <u>S</u>		Original Office <u>Tientsin</u>			
No. <u>275</u>		Words <u>11</u>		Remarks _____	
Date <u>15/8</u> 19		Time <u>11.25 am</u>			
<u>Shindaisigo</u> <u>Kawakitan</u> <u>ikatsura</u> <u>tanosuhinto</u> <u>tomonihonhi</u> <u>kikannate</u> <u>hatusaushimu</u> <u>nakamura</u>					

1537

1539

ア
ン
ア
3
ろ
ア

陸軍

秘書
官
八月
日

大臣
閣

人
局
長

1541

八月五日中第八三三号川森多大尉ノ件
存八月六日答ハ經由 陸軍駐屯軍
官長ヲ 起ノ電被リ
川森多大尉ノ件 其後ノ状況著
良方如日同大尉ノ妻ヲ 七月廿五
日 露邦書一面 北京 郵便局
領置セリ 暗号文ヲ 加 故 録
ヲ 考メ 封筒ノ 手跡ハ 清國人ノ
書ニ 多ト 疑ハ 留守 宅ニ 注意
要メ 川 森 多ヲ 捕 獲 せん 就
...

八月
初
八
三
八
号

清國警務處長、駐日公使、
 とい同的の、遣る事、
 んが故、
 日、
 榎、
 議、
 来、
 抗、
 日、
 空、
 教、
 機、
 密、
 同、
 書、
 降、
 邦、
 七、
 傳、
 年、
 二、

清國之防計画、原稿等、徴々、北跡
 明瞭なり。清國陸軍部、及清國各軍
 堂、ソベシキス、二面より使ハレ居
 タンモノト察セラル川希多ノ死骸ハ
 北京、各隊、引渡シ、昨日火葬
 セリ。公使館附武官より、剥官ノ手
 續ヲ其節、為シタルハ、重臣等
 任長ハ、正當ニ兵器ヲ使用シタル事
 實、極メテ明瞭ナル故ニ、極大
 処分ヲ為ス。及リテ、見料スル所、極
 大、極大、昨終日、大勢ニ漸ク、情

了り引續被在中毛捕圍
 氏、封を聖家権、行使意如、
 寸せん如故、連歟、若くは
 甚々困難なり川弄多、往所、既
 往、用了陸軍部諮議官丁錦、
 宅す

内務省

(陸軍大臣
 兼陸軍部長)

明治28年7月2日

大臣閣

次官

法局長 閣

参事官

人局長 保

5545

山崎一三

休職中、乃、川、赤、多、古、水、部、の、軍、機、保、護、係、
造、犯、事、件、に、係、り、八、月、廿、七、日、に、一、人、ノ、妻、カ、リ、(一、
年) 実、兄、兄、助、(出、産、古、年、生) 子、臣、等、に、為、兩、人、
ノ、系、統、ヲ、得、子、其、家、宅、ヲ、押、入、り、し、て、其、後、未、だ、
如、之

妻、カ、リ、ノ、言

一、大、塚、郎、ハ、三、十、九、年、六、月、十、日、に、産、後、出、産、後、
五、保、定、府、ヲ、越、越、し、一、年、八、月、下、旬、功、能、人、
ノ、子、カ、リ、保、定、府、若、少、自、一、人、東、京、に、移、居、
之、カ、大、塚、郎、ハ、其、後、中、途、に、逃、走、シ、

姓多々名多々均國、建中、妹、多梅
難、移身、北、元、等、如、之、大、佐、郎、の、妻、
唐、橋、の、多、々、新、橋、着、と、口、時、の、永、等、
、空、家、の、引、取、う、し、り、多、時、大、橋、の、引、取、
助、の、世、後、の、ア、リ、と、牛、止、馬、久、所、の、有、七、田、
佐、一、借、宅、の、多、々、ト、リ、と、カ、子、借、二、人、と、ア、リ、
叔、母、の、娘、の、帰、も、是、レ、ト、ノ、エ、ト、多、十、月、十、三、日、
再、と、口、橋、の、多、々、ト、リ、と、リ、現、在、の、中、建、所、の、
物、娘、を、い、日、土、月、廿、五、日、と、リ、と、カ、以、上、ノ、状、況、
た、り、以、上、現、在、の、一、切、所、并、に、建、物、の、以、上、
こ、し、り、置、収、建、築、せ、し、カ、自、力、の、こ、し、り、取、得、す、

二、大坂即仁年七月上旬情勢方面之變
三、下場之形李豹等數人相率而出
七、一時因任地保室村之町長來信
了レカ方有數月前北條之捕松也旨
一、事終了矣未幾即ノ事終了レモ何
時ニ簡短ナル書状ヲテ意味了ルヤ
一、事了リナシト雖も賤賤ノ陳述ヲ反
セリ

三、手紙ヲ往復スル者一人アリ其手紙云
ト北條某直門接胡白法弄甚又ハ
張鶴山飲ト書レ何時ニ新色量助出

勅進中 有 投書し 候り
 只 海老原五右衛門 侯 覺 助 の 寸 紙 四 切、白 紙
 二 面 折 斗、片 假 名 三 行 傳、名 三 行 傳
 乙 大 佐 郎 乙 用 ア、ハ 何 封 乙 三 番 付 せ 乙
 乙 三 行 以 上、乙 那 漢、確 定 乙 形 名 三 行 割
 乙 封 乙 傳、日 封 乙 表 紙、ハ 自 分、乙 傳、名
 助 乙 後、乙 三 行 多 力 覺 助、ハ 出 勅 進 中
 投 函 せ 乙 三 行 乙
 宣 旨 覺 助、名
 五 白 石、大 佐 郎、乙 三 行、ハ 其 爲 守 宅、リ 監
 署 乙 候、リ

高、大徳寺の町年五言月信信西方面より
 下、福之出者以来時々来ん書信い
 破毀せしり以多今、保衛せし
 廿、廿年七月下旬ニ古新歩、廿五師衆、
 秘密國主給失せし旨、秘事一なり（七月
 二十日ニ古新歩中面ニ「子、軍機偏洩ノ旨」ト
 題記（廿年）大徳寺ハ元弘西師衆、
 下、勅符を授り多し以多兄弟、第、情、
 多、心配、場、二、二古新歩、五師衆、書
 報、下、り、大、大、力、ト、片、信、名、多、書、
 大、徳、寺、書、手、紙、ト、同、封、表、紙、ハ、同、書、

得、少出動進中、四石見付、或、題
 町十丁目、迎、板、其、爲、作、人、の、東
 主、張、紙、り、と、文、信、者、の、北、京、安、直、門、橋
 胡、口、陸、能、顔、り、書、し、り、
 八、前、次、片、傍、名、を、試、に、暗、号、り、使、用、さ
 る、と、し、た、語、暗、号、の、得、る、又、字、一、字、の
 、上、ノ、変、字、り、強、く、し、て、え、る、と、多、候、
 「(イ)」「(エ)」ヲ、指、す、カ、如、シ
 九、以上、一、め、り、暗、号、り、使、う、ん、の、或、は、誰、に
 見、ら、れ、や、計、ら、し、甘、ん、り、以、ち、斯、り、暗、号、り
 使、用、者、又、あ、那、人、に、あ、那、人、ノ、名、前、ノ、方

信用を以て斯く書き下す修部の出
考當時の金に充てたり

家宅捜査の結果

一、別荘に隠れたる要る封書、郵便物
暗号封、建物の各戸一箇所、中庭
等、中一戸を、探印して各係本部に
測量部に出張して二万五千坪の
枚数とあり、依りて之を捕す

二、覚悟し、言ふ依り、別荘暗号、中
用を以て、何れも二万五千坪、二何
とト書きたる約束あり

意見

三、町田、経果、コレに大抵中、可成り、
送付、乞、金、乞、情、有、其、他、地、の、家、に
建築費等、而、乞、補、乞、留、守、宅、に、於、て、
毎月、本、職、給、分、金、月、ト、貸、家、賃、ヲ、以、テ、生
活、シ、所、金、之、如、ク、書、ヲ、封、金、有、給、ト、出、納
に、至、テ、嚴、格、之、ク、任、在、ニ、生、活、費、ト、雖、モ
一、々、之、ヲ、記、帳、ニ、大、抵、即、一、承、領、ヲ、得、ん
材、料、ト、モ、所、ノ、從、テ、圖、書、寄、附、中、付
テ、付、テ、い、書、に、在、ク、知、ウ、サ、ン、テ、如、ク、覺、知、ハ
大、抵、即、一、出、者、前、前、點、點、多、ク、肉、的、ニ

七月三日 晴 予 遊 師 樂 園 生 信 笑 一 記 予
 已 心 直 之 性 高 志 等 可 推 定 乃 已
 多 少 情 之 知 予 病 名 之 卜 理 見 已 確 實
 何 也

十三
明倫彙編
家範典
孝行典
卷一百一十五

目録	
保管座名	町村名
茅一所系	八王子第十一号高尾山
同	厚町田
同	品川歌
同	橋本村
同	南和及所澤近傍大和田所 第四号
同	羽田村 第十一号
同	三溝村
同	浦和及所澤近傍扇ヶ原村 第八号
同	平塚歌 第六号

同	同	同	同	同	野越郡多摩一隅陽	同	同	第 五 回 考	同	同
田 名 村	松 戸 町	孝 國 村	秋 子 殿	流 山 村	越 々 左 殿	小 田 山	西 條 町	小 多 田	潮 和 内 傍 所 沢 村	小 田 原
第 十 八 号	第 四 号					第 廿 七 号	第 廿 七 号	第 廿 七 号	第 廿 七 号	第 廿 七 号

同	同	同	同	東常鎮名文庫	同	同	同	同	同	第一町
西力橋村	作系村	北條村	根本村	本原	山王村	長岡村	真壁町	子生村	石岡町	土浦
第一号		第八号	第七三号		第七五号	第二号	第七一号	第七二号	第四十五号	第十九号

同	同	同	野我碓氷界一區田	同	同
安所村	左田郡町	碓田村	藤原村	下石崎村	岩間下郷

八月八日營口經由清國駐屯軍憲兵
長了たノ電報了

川希多ハ北京安兵隊醫務室ニ
収容後十五名ニシテ死亡セシテ清
國軍憲兵末々之ヲ知リサレモノ
、如クリセ軍部一官吏ハ八月一日、
夜テツロ巡警局ニ次、依頼ヲ為セ
リト察スルニ押送途中身柄ヲ
奪ハントノ計画アリタリ、如ク
日本兵ノ為メニ捕ハレタリ日清陸砲兵

八月八日
四七号

士官川喜多ヲ天津又ハ日本ニ押
 送サレズキヲ以テ乗船時間等分明
 セバ至急通知ス
 七月亦五日亦六日同為妻及隣國人
 張鍼アリ、私信ニ通ト書ニ筆記
 被者明日、便船ヲ乗送ス

1560

局長
次官
大正
10

川喜多、件は八月八日警口經由情國
駐屯軍、憲兵長より電報
八月三日付より、昨日清國外務部
より阿部代理公使に、次の意味を交
渉に来る、名由
八月一日貴國歩兵騎兵十数名無断
多丁錦宅に侵入し、日本人を清國
人より刺殺せしむる、捕虜を名に國際
違反を依り茲に照會を至急何分、
回差を煩ふ事

小
中
第
八
四
八
号

此交渉ハ事無ク反る甚シ當日丁錦宅
 へ出張セシハ寓所下士以下三名極メテ
 温和ナル手般リ以テ川喜多ニ面會シ
 謝。之ヲモテナシハ決メテ家宅侵入ニアラ
 ズ又情國人ニ對シテハ何ノ損害モ與
 ハサレシ
 川喜多挨拶ヲ台無クシテ急カレシメ動
 機ハ七月廿六日及七月廿七日大坂毎日新
 聞記事ヲ以テ新聞ハ七月二十日此情
 外著シタルヲ以テ彼ノ外走ヲ要セス
 依ル

如クナラス其撃累者、按年田程ナリ左東京
 字換ト、文ニ通ニモ係、野ヲ用フルナド累跡、藩叙
 極テ巧ナリ尙、而倭ハ大衆ニ涉、收送スル者、所細
 ハ、事ニ報生ス

陸軍電信用紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

陸軍電信用紙 1565

局 着		局 發				所 名 人 信 受		
印 附 日	技 手	付 受 午	付 受 午	第	報			
	時	時	月	號	局			
	分	字	分	日	號			
コシ / オシ ^ビ リ 4 ト ^リ テー ^セ 定 指 ル ^ハ ^ツ ^タ ^ワ ^シ ^モ ^コ ^ズ ヒ ^ハ ^カ ^ト ^ロ ^コ ^タ ^ク ^ク ^コ ^ズ ^ナ リ ^ル ^ク ^ト ^リ ^サ ^ト ^エ ^子 ^ッ ハ ^セ ^タ ^コ ^ル ^ク ^ナ ^ヒ ^テ ロ ^コ ^セ ^ト ^ク ^バ ^オ ^ハ ^シ ^モ ^カ ^コ シ ^セ ^ク ^サ ^ハ ^セ ^ム ^シ ^ク ト ^リ ^ク ^フ ^シ ^ロ ^コ ^エ ^ニ シ ^ク ^ク ^フ ^ク ^サ ^ニ ^セ ^セ ^ク ^オ ハ ^リ ^ク ^サ ^ク ^シ ^ル ^ク ^ク ^イ						所 名 人 信 發		番 着 號 信 第
事 記						號		

陸軍電信用紙 1566

着局			發局				所名
印	附	日	技手	受付	受付	第	報局
			時	時	月	號	
			分	字	分	日	報局
ズ ア シ テ フ ヘ イ ト ル ニ ウ オ ト イ ル タ セ キ ソ イ キ ハ カ ス ル ニ ス ハ ス ノ エ ス ハ カ ソ グ ル ニ モ ゴ ト ル ニ ア シ テ ア シ イ グ オ ハ ツ タ エ ロ コ テ ロ ヨ ル ト ル ル グ キ ハ カ グ フ リ タ ル グ テ エ ニ ハ セ ニ イ ト ア シ ウ タ リ ハ リ サ ト セ ア ア シ グ ハ イ ハ ニ グ ア シ ウ							定指
ズ ア シ テ フ ヘ イ ト ル ニ ウ オ ト イ ル タ セ キ ソ イ キ ハ カ ス ル ニ ス ハ ス ノ エ ス ハ カ ソ グ ル ニ モ ゴ ト ル ニ ア シ テ ア シ イ グ オ ハ ツ タ エ ロ コ テ ロ ヨ ル ト ル ル グ キ ハ カ グ フ リ タ ル グ テ エ ニ ハ セ ニ イ ト ア シ ウ タ リ ハ リ サ ト セ ア ア シ グ ハ イ ハ ニ グ ア シ ウ							事記
ズ ア シ テ フ ヘ イ ト ル ニ ウ オ ト イ ル タ セ キ ソ イ キ ハ カ ス ル ニ ス ハ ス ノ エ ス ハ カ ソ グ ル ニ モ ゴ ト ル ニ ア シ テ ア シ イ グ オ ハ ツ タ エ ロ コ テ ロ ヨ ル ト ル ル グ キ ハ カ グ フ リ タ ル グ テ エ ニ ハ セ ニ イ ト ア シ ウ タ リ ハ リ サ ト セ ア ア シ グ ハ イ ハ ニ グ ア シ ウ							所名人信發 番號 第 號

陸軍電信用紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

899T

陸軍電信用紙

局		着		局					發		所名人信受	
印	附	日	技手	受付	受付	月	第	局	報	7		
				時	時							
				分	分							
ヒ ツ キ あ ら う ス 定指 事記										所名人信發		番着
												號信
												第
										號		

訂正

第三四號

電報譯

月 日 午前午後 時

分 分
着 發

陸軍大臣宛

發信者清國駐屯軍中村司令官

八月七日營口發三四號大臣宛電報訂正

清第二 川喜多大尉檢裝手ノ方法ハ適當ニ進行ス
 川喜多ノ身板及ヒ所持品ノ全部ヲ北京歩兵隊ニ
 引上ル迄何等清國官憲ヨリ故障ニ會セス其後
 於テモ何等申來リシコトナシ諸品中多數ハ機密圖
 書隣邦兵備清國國防計畫等ヲ有シ犯跡明瞭
 ナリ清國陸軍部及ヒ段祺瑞ノ二方面ニ招セラレ
 居タルモノ如シ潜伏所ハ陸軍部諮議官丁錦

一

二

宅ナリシ清國官憲ニ對シ警察權ノ行使意
 ノ如クナラス其連累者檢挙困難ナリ在東京
 家族トノ文通ニモ暗探ヲ用フルナド罪跡ノ隱蔽
 極メテ巧ナリ尚ホ尸体ハ火葬ニ附レ後送スル筈
 詳細ハ筆記報告ス

1251

八月七日陸軍省
別紙通り訂正し来り候旨更ニ
陸軍省

明治四十二年八月九日午後五時

陸軍省電信取扱



陸軍大臣官房御中

陸軍

陸軍電信用紙 1572

局		着		局		發		所名人信受	
印	附	日	技手	付受	付受	第	局	報	
		10月10日	10月10日	10月10日	10月10日	10月10日	10月10日	10月10日	親展
ホテタフニテニホタニ ルイヨナツウツ ロサニフジホコホタ トニヒペウツ タラキヒヒスハホイ イハアキニハニ ロトクニオハキセ フホセヨオトハ エハカルヘヒセウオ ハルマインタニノセ								親展 事記	所名人信發 番號 第 10月10日

陸軍電信用紙 1573

局 着			局 發				所 名 人 信 受	
印 附 日	技 手	付 受 午 時 分	付 受 午 時 分	第 月 日 號	局 報			
コシキタイゴズルシヤイイ ルシヤハタイシビ リヤ トキテヘ ビサ オハカ ムシフムシモ リルシヤト清口ヨシタコ ノハヘセ トリスサエニ ロヨセキトタルフシヒラテ シシヤシハオハムシカ トリメヲサボ セキムシフ ジノイユエ フカロヨムシ オグリヲフケハツニセキノ						定 指		
						事 記		
						所 名 人 信 發	番 着 號 信 第	
						號		

陸軍電信用紙 1574

局 着			局 發					受 信 人 名 所	
印 附 日	技 手	受 付 午 時 分	受 付 午 時 分	月	日	第 號	局	報	乙
定 指 事 記 ラ フ 4 イ ニ ヴ ン ヘ セ 4 イ ト ル ス 6 イ 4 イ テ ン ル シ タ ヴ セ シ カ 4 ト イ ス ト ル ニ コ ス フ イ 4 イ キ ヴ ヴ ヘ / フ ス ハ カ フ シ ッ テ ア シ 4 イ ヘ ゴ ナ ル ン / ム シ テ ハ ヨ ヲ レ オ ナ ッ タ ニ ヤ カ フ ヲ / ル ト ル ン グ キ ヲ オ ヘ セ ニ ナ ル ク テ エ + シ サ ト ヒ ヲ ア 4 イ ナ タ ヲ シ カ リ ム シ ヲ									

陸軍電信用紙 1575

局 着			局 發					所 名 人 信 受	
印 附 日	技 手	付 受 午 時 分	付 受 午 時 分	月	第	報	局	號	
ル フ キ 4 イ フ フ ム ハ エ ナ フ ヘ セ 4 エ バ ナ ク ヤ フ モ ナ タ セ フ レ ム ズ ヱ カ ム フ テ ル フ ソ ク サ ル シ ム フ 4 ナ ル サ セ コ コ 4 ナ ル ト カ テ イ ヒ ラ ラ ラ ク ヤ ビ ト シ サ フ ナ カ フ ラ コ イ ナ ハ カ ナ ル ヱ ハ ス ナ ト ナ ナ ナ								定 指	
事 記								所 名 人 信 發	番 號 第
								號	

陸軍電信用紙 1576

局 着			局 發					所名人信受	
印 附 日	技手	受午	受午	月	第	局	報	五	
		時	時						
		分	分						
ヒツキおろろス								所名人信發	
								番號	
								第	
								事 記	
								號	

極秘

内

八月二日午後六時

八月三日午後六時

電報

陸軍大臣

中村少将

八月一日東京。入込ニアリタル川森多休
以陸軍大臣大尉軍隊保護係達結ト見做サ
レ八月一日東京。入込ニアリタル川森多休
ヲ求メタルモ、按刀ニテ極力抵抗スルニ因リ
奉銃ヲ被射、重傷ヲ受ケ、力緩テ死セリ
所折中、多死、子機密、漏書リ、見ス目
下調中 中村少将

1527

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS

(Delivery form)

Station _____		Office No. <u>2</u>		Address _____	
Received Time <u>4.50 am</u>		Date <u>3/8</u> 19		<u>rikugundaisin</u>	
By <u>T</u>		Station from _____			
Class <u>sd</u>		Original Office <u>Tientain</u>		Remarks _____	
No. <u>190</u>		Words <u>28</u>			
Date <u>2/8</u> 19		Time <u>9.10 p m</u>			
<u>saindaiichi kanatepekinni</u> <u>irikomiaritaru</u> 21275 23420 <u>50072</u> 29167 37628 10475 14813 <u>katigatuichizitu</u> <u>pekinkenpei</u> <u>hakenjyori</u> <u>dghonidokoo</u> <u>matomitarumo</u> <u>battonte</u> <u>kyokuryoku</u> <u>teikosurunigori</u>					

1578

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS

(Delivery form)

Station _____ Office No. _____		<u>Address</u>	
Received _____ Date _____ 19 _____		2	
Time _____			
By _____			
Station from _____ No. of Paper _____			
Class _____	Original Office _____	<u>Remarks</u>	
No. _____	Words _____		
Date _____ 19 _____	Time _____ m		
kenjushataska jushootaciga tuidesibacri shajinchutau 10416 jushohatukusu mokkasirabehu nakamurasho			

1579

1580

第 四 號



電報譯

八月

廿

日午前

十一時

分

分

着發

大臣宛

發信者

中村司令官



川喜多捕縛ニ関シ本日ヨリ請玉外

務部ヨリ阿部代理公使、抗議ヲ申上ル

捕縛當時、景況、等々口電報ニテ已・報

告ス

送

送

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS (Delivery form)

Station	Office No. 4	Address
Received Time	Date 5/8 19	CL Pekingundainia
		Tatua
tion from	No. of Paper	

ass	Original Office	Remarks
No. 15	Words 17	
Date 5/8 19	Time 1:00 m	

21275 2420 50072 13501
 nikarishanijiten 45138
 gwaimubijori abedairi
 trochie 25379 13501 Trojino
 keikjawa isikodenpante
 sudhuhokotucu nakamur
 ra

1581

勅書
八月六日

大臣
閣

大正

1582

八月五日情見駐屯軍憲号長より電
報あり

本日清国外務部より交渉に來り
由

明治四十年八月五日
内報先(陸軍省)
参謀部

八月
第
八
三
二
号

秘
官
受
月
六
日

1583

八月五日清和駐屯軍憲兵長より電
報あり

其後ノ状況良好ナリ大要ハ昨日言ハレ由
電報中ノ川赤多ノ所持セシ軍事機密
圖書類ハ悉ク我憲兵ニ領置シタルハ故
逸ノ憂ナレ川赤多ノ事ヲ廿五日全暗号
文ノ手紙昨日到着シタルハ故領置セシ
毛讀メ能ハル事ノ行動ニ注意シ必要
トス

明治四十年八月五号

八月
中
第
八
三
三
号

1584

内
報
光
(
知
務
長
)

電話 八月五日

中書省

左記實文之通也。實證所局之
明。早知書而。以稿陳之。成。不
敢。故。失。人。

左記

中書省右丞相、
河東多休戰。他日大將軍將保復仇。
遠互疑。疑者トシテ小京中。若此。以
入曰。求之矣。曰大尉。拔刀。し。

力害多、防線破り、抵抗し、局々
 累力、勝つ能く、八重瀬島、長
 ハ不得止奉銃、使用し射殺せり
 所、持上、番多敷、機密、前、出、見
 二番、細、印、父

終り

秘書
八月二日

大臣閣

人自長
閣

1587

八月二日

八月二日
第八二二号

佳國駐比軍憲兵ヲた、電指アリ
 川喜多休戰砲冬下封軍機保多獲
 怯造犯陳疑有トシテ北京憲兵派
 少所、曰リリ求メタル所曰大時、板刀
 シ極力憲兵ノ職務執リニ抵抗シテ
 ル為ノ暴力ニ勝ツ能ハズ、重傷憲兵
 伍長、不得止、着銃ヲ使用シ射殺ス
 所持只多、板機密閉書リ察見ス
 委細郵便
 (参謀總長ニ函答稿)

明治四十年八月二日

陸軍大臣秋友
才五師坐於陳也

廣二牛一

三島慶事実ナリ存件ニ七月二十日電

八古方ニテ存件部ニ檢失信

紙 用 信 電 軍 陸

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

様

相續日暮、ゆき付お成候川幸多夫此即
 遺骨及圖書物品、其之、正分、形、
 候遺族、交付お跡、又、所、而、其、後、お、找
 甲、号、宿、お、下、お、書、ヲ、お、出、之、之、封、乙、号、
 一、番、号、ヲ、口、成、祖、告、お、同、身、而、ゆ、承、知、お、成、候、
 仰、参、考、正、申、進、候、也

明治四十年十月六日

法華寺副官立花五郎

法華寺住持立花

中村為義殿

左

裏

1591

参事

秋山

秋山

法橋

法橋

陸軍大臣官房

師

九月

川

生

生

生

秋山

從西

伺書

軍部第一四七一號

九月廿日

一 川喜多大浪郎親叙セラレシ原因

二 右親叙セラレシ地名及時日

三 死亡後直ニ遺族、通知ナキ、原因

四 遺骸引取、通知ナクシテ直ニ何故ニ大葬ニ附

セラレシヤ

五 正式、葬儀ヲ以テ當ナレシ理由

六 葬儀費用ヲ本人所持金ヲ以テ支出セラレシハ

何人、承諾ニ依ラシヤ

七 本人、所持金取ハ何レノ場所ニテ押収セラレシヤ

八 押収書ハ何人ニ渡セラレシヤ

右理由詳細兼り申渡後行状伺及戻や

明治四十二年九月廿一日

以下四里多ノ旅中跡町大字中跡
之今三ノ二拾二馬紀七ノ九拾即也

川喜多ふく
(川喜多)

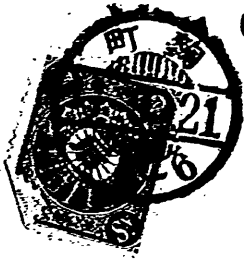
陸軍省
市中

1594

魏所通

陸軍省官房

御中



川喜多あゝ

1595

明治元年九月廿一日



1596

川長多妻何書と云ふ左記を領し依りお良き
口述ノコト

一故川長多妻大治中ハ軍極保護法甚反ノ様様アリ
タル故ハ月ノ下旬ナリナリ法蘭西軍軍官等ハ同今
任ナルハ東京東四牌門橋頭同「丁錦」方ニ在リ可成
約溫和ノ事アリテ軍官等派兵等々同リヲ求メタルハ大
治中ハ仕込杖ヲ抜刀ニ當テニ斬無リ其年開ノ際憲
兵ノ為リ善戦ヲ以テ御部ヲ移タレタリ

一大治中ハ創傷ニ處セズ抵抗シタルモ勢付ミシテ斃レタルヲ

陸

四

以テ憲兵ハ應急ノ事當ラレシ支那馬車ニ乗セテ
 二時二十五分同邸ヲ出發シ少々分歸所至ニ小京江先
 軍醫務室ニ収容ノ上醫務室ヲ獲ニタルモ十五分ノ後
 死セリ

一 死ニ後至ニ遺族ニ通知ナカリシハ取調上ノ必要ニ出ラタ
 ルナリ

一 當時川表多ハ休戦状態ニシテ許サレズ海外ニ移リ
 中ナル者ニシテ其死ニ際ニ剥奪ノ虞ヲ軍人ノ身分ヲ
 有セサリシ他地に引取ラズ一キ者ナキヲ已メズ決
 断シテ其死ニ際シ其費用ヲ本人所持金より
 支拂ヒタリ

一、正式ノ葬儀ヲ営ミタル形跡ナシ

一、本人ノ所持金銀ハ其居住ミタル丁錦郎正門ヲ入り二
間斗ニシテ左折四間斗ノ中門ノ内ニ立ル一家居即チ憲
兵ト争鬭アリタル居内ニ於テ川表及ノ妻諸人ハ羽
林ノ承諾ヲ得テ遺骨云々ヲ領運セリ
一、領収書ハ何人ニモ交付セズ

明治四年丁酉十月五日午後河内中佐ヨリ

川表及方及ノ之ヨリ呈助ノ口述証書

附...

永必

目録

66ST

No.

清特報第十二号

明治四十一年八月八日

在清國帝國公使館附 青木宣純

參謀總長伯爵 奧保鞏殿

別紙川喜多大治郎軍機漏洩事件、関シ及報告候也

追而同人遺骨、身持品其他犯罪ニ伴、証憑書類圖書等、

清國駐屯軍、其協助、進達、答ニ有之申添候

参秘第一三八八号

八月廿二

川喜多事件ニ関スル報告

一、逮捕前ノ情况

故休職陸軍砲兵大尉川喜多大治郎ノ件ニ関シ、曩キ、總務部長ノ内報ニ接セル以來、諸種ノ手段ヲ盡シテ其所在ヲ探求ニ勉メタリシカ、去七月中旬ニ至リ、北京駐屯憲兵ノ使用スル清人間諜ニヨリテ、略ホ其所在ヲ確ルヲ得、尙其動靜ニ関レ、次、諸情報ヲ得タリ

一、川喜多ハ民政部尚書肅親王秘書官丁某ノ宅ニ居住シ、日々二三清國人ト相會シテ密事ヲ談合シ、時々陸軍部々員良弼、馮耿光、丁士源等ト相往來ス

二、川喜多ハ前記丁宅ニ居住セシモノ、月前陸軍部諮議官丁錦宅ニ移轉セリ

三、佛國公使館ニ等書記官ジヨセス、又ハルキエトナルモノ支那装セル某日本人ト秘密、實際アリ、又今より一ヶ月前、日本人ノ北京佛國兵營内

ニ儲ミオリタルモノアリト聞ク

ニ逮捕實施ノ情况

此クシテ川喜多ノ動靜ハ清國陸軍及民政部（警察部）ニ關係アルモノト想像セラレタルニヨリ之レカ逮捕ニ關レ清國警察ノカラ籍ルノ危険アルヲ慮リ代理公使ト協議シ八月一日正午我憲兵及守備隊下士十名ヲ常服ニ変装セシメテ諷テ錦屯ニ差遣シ徐々ニ面會ヲ求メタルモ家人秘シテ之ヲ隱匿スルニヨリ其承諾ヲ得テ邸内ノ搜查ニ着手シ（實際降ル承諾ヲ受クルノ望アラズ直ニ搜索ヲ開始セリ）本人ノ現在ヲ認メテ穩カニ之ヲ叱斯ニ自行セシメントセシモ肯カス直ニ刀ヲ揮フテ抵抗ヲ試ミ我憲兵止ムヲ得ス拳銃ヲ發射シテ之ヲ威赫シタルニ不幸ニレテ銃丸ハ川喜多ノ左心臟ニ命中シ之ヲ殲シタリ仍テ即時之レヲ車輛内ニ收容シ其居室ヲ搜索シテ其所持品ノ全部ヲ押收シ同宅使丁某ヲ伴ヒ清國警察側ノ交渉ヲ惹起スルニ至ラスシテ駐屯軍兵營ニ復歸スルヲ得タリレカ

當時川喜多ハ既ニ昏睡ノ状態ニアリ着後十五分ニテ既ニ絶命レ何等
ノ訊問ヲ行フ結ビリレハ遺憾ノ極ミナリシ

於此遺骸ハ翌日陸軍墓地ニ移送レテ火葬、附レ遺骨其他ノ珍
持品等凡テ解化軍患兵ヲ東京憲兵司令官ニ送附スル筈

三、押收珍持品ノ取調并同宅使下ノ訊問

押收珍持品中軍機保護法違反ト認リキ圖書ハ別紙圖書目録
第一ニ記載スル通ニシテ内軍制兵要地誌、隣邦兵備、國防計畫、日
露奉天戰史等ハ係ル川喜多自著講義録等ヲ換スルニ殊更ニ我
軍事ノ機密ヲ漏洩セタルノ形跡ナシト雖其原稿ハ幸シテ我陸軍大
學校ノ講授筆記ニ準據セシモノ、如何我軍事ノ秘密事項ニ係ルモ
ノ數ナラス奉天戰史ノ如キハ在ク我戰聞詳報ニ基キ編集セタルモノ
ニシテ本原本ハ不幸之ヲ發見セズ其行李中別紙圖書目録第二ヲ發
見セシヲ以テ見レハ其原本ハ既ニ全部清國人ノ手中ニ歸セシモノト想

像セラル而レテ押收セル圖書中歐文ニ属スルモノハ一ニ佛語會話篇
 辞書ノ外何等ノ歐文書ヲ發見セザリレテ見レハ此方面ニ對シテハ恐ク
 何等ノ罪跡ナカリモト察セラル

川喜多達捕ニ際シ同伴レ来リタル從僕ハ本年秋以来同家ニ召使シ
 タルモノニシテ其陳述スル所ニ依リハ川喜多ハ陸軍部検査官韓國饒
 丁錦等ニシテ清國武官ト親交アリ又貴冑學堂總辦馮國璋トモ多
 少ノ交際アルシク良娼馮秋光其他外國人等トハ毫モ往來セリナシ
 ト云ヒ而カモ彼ハ川喜多ノ日本人ナルヲ知リ幾何カ情ヲ解レアルモノ如ク
 其言ヲ新極メテ曖昧ニシテ何等ノ好材料ヲ得ルニ由ナキモ之ヲ押收書類
 ノ内容ト對照カル時ハ其言ヲ新強イテ事實ヲ曲スルモノトリ認メ難シ

四、川喜多ノ罪跡并ニ伴フ判断

川喜多罪業ノ起因ハ既ニ一昨卅九年其保定應聘中ニ兆シアリレカ如
 シ回顧スレリ當時川喜多ノ言行醜聲彼ノ如クナリレニ係ラス支那人側

ニ對スル彼ノ名聲反テ嘖々タリシモノアリテハ人々ノ至リマヽアリシ所ナルカ此次
 調査ノ結果、依リハ諸項學堂督辦段祺瑞ハ川喜多ノ歸朝、際レ特ニ
 書ヲ寄セテ其叩頭ヲ賞シ且ツ夫妻ニ贈物ヲ贈リタルイアリテ川喜多ハ尙
 當時段督辦ノ書狀并其寫真ヲ金櫃底ニ秘藏レアリレカ如キ其解備
 歸朝ノ後依然鬚頭髮ヲ貯ヘ一在京中撮影セル寫真ニヨリテ証ス（在京僅ニ
 數ヶ月再々北清ノ地ニ來リテ直ニ此ハ大膽不敵ノ秘密業務ニ從事セタル如キ
 イテ當時於ル段祺瑞對川喜多間ノ關係ヲ察スルニ足ルヘク爾來掩京
 一年有餘彼ノ常ニ段ノ採配ニ基キ此種ノ業務ニ談リタルモノナルハ別紙
 保定陸軍軍官學堂監督張鴻達ノ書信ニ依リテ之ヲ證明レ得ツ
 尙是等ニヨリテ事表世凱一時輩下ノ事業ニ屬シ貴冑學堂總辦馮
 國璋亦之ニ于與スルイテ察レ得タルノミナラス袁世凱自身モ亦サケモ
 既ニ其情ヲ知リマヽアリテ確知スルヲ得タリ
 此クテ諸種ノ情報系押收書類ヨリテ判斷スレハ川喜多ハ昨年六月

下向東京北城ノ陸軍部諮議官丁錦ノ邸、借、軍官學堂出
 身ニシテ現ニ陸軍部検査官若リリ貴賓學堂教官等ノ閑職ニアルモ
 十名（日本留學生出身者三名アリ）ヲ集メテ和蘭維社ヲ結ヒ一軍事
 研究部ヲ設ケテ自カラ之レカ教官トシ銳意高等兵學ヲ研究ニ從事シ
 其講義録ハ貴賓學堂ニ於テ上刻レ之ヲ關係諸官ニ配布シマシ
 モノテ毎月受クル薪ノ報酬ハ三百兩ノ規定ナリト自昨年八月以來留守
 宅ニ送レル金額及本人日常ノ生活費（日計表ヨリ概算スレハ毎月諸費約百五
 ヲ起算スルハ平均毎月ノ收入約八百兩（六百兩余）ヲ要スル筈ニシテ此別途
 ノ收入ハ果シテ何ニヨリテ得マシヤホト知ルヲ得ヤルモ其一次ノ送金額尠
 少用乃至尠千三百兩ニ上リタルヲ想像スルハ押收セシ秘書書類外
 別ニ清國當局者ニ賣渡セシ秘書書類アルト想像セラル
 川喜多ノ罪跡概テ前記如シ此クシテ其連絡ハ主トシテ段祺瑞等一部
 ノ軍人間ニ限リ陸軍當局ニ深キ關係ヲ有セサリレモノ如ク尙書鐵良

以下ニテモハ勿論情ヲ和アリレニ相違ナキモ彼、良弼等日本留學生出身者連ハ多クハ之ヲ知ラサリレモノ、如ク今ニ至リ事ノ日清戦争外交ニ大光影響アル(キ)直後應シ何カト希疏、途ヲ講レハヤリ而レテ本件、関シ段祺瑞ハ常々袁世凱トノ連繫ヲ怠ラス其議談録ノ如キモ隠カニ之ヲ袁世凱ノ査閱ニ供レワアリレハ別紙書信傳ニモリテ確實ニ証明セズ、斯レテ鐵良派新進者ノ領袖トモ稱ス一キ彼、良弼ハ本件ノ由来トレテ密カニ尤記ル事項ヲ小官ニ洩レタリ

ハ本件ハ鐵良一派ノ陸軍部ニ快カラサル袁世凱一派ノ反抗運動ニシテ昨年来内政改革ニ對スル袁世凱ノ上策中陸軍部施設ノ不振ヲ考察シタルモト同一ノ精神ニ出テ正ニ陸軍部東亞策進ニ備ニ汲ルタルノ結果ナルト

二、清國留學生ヲシテ進シテ我大學校、入校セシムルハ其筋ノ内諾ヲ得タルモ未タ實際行ノ期ニ至ラズ然ルニ清國陸軍施設

一、為ニハ高等算術學ノ傳習ヲ必要トスルイタリ我應稗將校ニヨリ
 講授セシハ一般ノ原則ニ止マリ常ニ隔靴搔痒ノ感ナキニテ
 三、從來我國ニ在留スル清國學生ハ屢々書ヲ陸軍當局ニ寄セテ
 清國學生ニ對スル我軍事教育ノ誠意ナキヲ批難シ特別ノ手
 段ヲ講スルニテハ到底軍事智識骨髓ヲ修得レ得サルイヲ
 許ハタルイハ恐リク之レカ一因ヲナセルモノシテ清國カ近來西洋諸國
 ニ多數ノ留學生ヲ派遣スルニ至リモノホ之ニ起因スルモノナリ云々
 以上長強ノ言ハ尽リ信ヲ措キ難シト雖余々一考ノ價值アリ論ヲ俟タス
 殊ニ昨年来袁世凱ノ公子ニシテ農工商部各議タル袁克定カ厚ク野
 澤中阮ヲ聘シテ其本職外軍事學ノ研究ニ着手シタル事實ト對
 照スル袁世凱ノ野心或ハ果シテ止記良強ノ言如キモノアルヤモ測リ難ク
 彼ノ鐵血ト永炭窟ナル段祺瑞カ別ニ其一派ノ同志ヲ叫合シテ秘密
 結社ヲ結ヒ他日治績者ヲ養成シテ自己ノ用ヲ為サシメント規畫

不心モノ固トヨリ、以テヤキニテ此クレテ本件ニ関ル清國當事者ノ意志ハ依
 リテ以テ軍事高等警察ヲ收養セントスルノ外大ニ野心アリモトハ察シ難ク川喜
 多自身ニ於テモ敢テ進テ賣國的ノ行ヲ犯サント意カサレサルヲ從テ其
 罪跡ハ範圍ハ如ク驚クヘキ程度ニ及リシモノト想像セラル而レテ日常親日主
 義ヲ標榜スル良弼等一部ノ留學生連ハ本件ノ發覺ハ關聯シ延イテ
 我當局ハ應聘武官等ノ感情ヲ害スヘキニ付聊カ憂慮シツアルヲ以テ
 本件ノ出来ハ偶々以テ將來彼我軍事連絡折衝ニ好影響ヲ来スアル
 一方我應聘將校ヲレテ定シテ其業務ニ熟達セシメンハ將來其業務
 ノ執行ハ關レ特ニ我當局ヨリ詳細ニ訓示標準ヲ與ヘ且ツ其取締法
 ニ就キ更ニ一層ノ注意ヲ倍從セラレンイ希望ニ至リニ堪ヌ

五、本事件に伴フ外交上ノ交渉ノ一般ノ風評

川喜多逮捕當時ノ概況ハ既ニ記述セルカ如ク我警察機構ノ違法行
 使トレテ聊カ國際法違反ノ嫌ナキニテアルハ已ウヲ得サル所ニレテ清國外

務部ハ之ニ関レ數日前我公使ニ抗議ヲ提出シ責任者ノ處罰ヲ要求シ
 来リレニ我代理公使ハ一方公文ヲ以テ之カ并駁テ試ムルト共ニ別ニ裏面
 ヲ外務部負ニ警告シ事ノ兩國軍事外交ニ關聯シ徒ラニ声ヲ大ニスルノ
 彼我國交ニ利アラサルヲ以テシキタ其回答ニ接セサルモ本件ハ陸軍部側
 ニ於テモ既ニ是レカ掃清運動ニ着手シタル形跡アリ小官モ亦暗ニ良例ニ勸
 メテ其運動方ヲ促レオキタルハ本件ハ外交上今後差シタル面倒ヲ惹起スル
 イナリ日ナラスレテ田滿ノ結果ヲ得ヘト豫想セラル
 北京叢刊漢字新聞ハ西三日ニ亘リ卷々本件ノ顛末ヲ掲載シテ之ヲ論評
 レ罪ヲ清國警察ノ不振ニ歸レ清國主權ノ尊重ヲ叫ビ又銳鋒ヲ我當
 事者ニ向ケス其記載ノ事實亦大ニ真相ニ遠カルモノ多カリシカ袁世凱ノ
 機關新聞ト認メラル、北京日報ハ獨リ本件犯罪ノ真相ヲ記載シタル
 ニテ我順天時報ヲレテ一度事ノ兩國軍事ニ關係ナキヲ并疏セシメタリ
 此クレテ本件ハ此方ニ至リ漸ク其声ヲ減レ本日北京叢刊ノ某英字

新聞（北京日報附屬新聞）と我憲兵ノ警察權不法行使ヲ攻撃
 セレモノ外天津及州外等諸新聞ハ一ニ其事實ノ大略ヲ記載セシモ
 ノアルモ孰レモ未ダ充分ノ注意ヲ以テ此間ノ消息ヲ得ルモナキハ僥倖
 ノ一ニシテ當地方在留我通信員ニ對シテハ絕對ニ事實ノ真相ヲ通信
 スルヲ以テ嚴禁シ置キタルカ此報漸次上海廣東地方ニ傳播スル時ハ
 偶々數回前發生セシ福建清人虐待事件等ニ關連シ一部清人間
 此難ノ声トナルヲナキカ聊カ憂慮シマアル所ナリ

附記、本件ノ関レ良弼、自白スル所、ヨレハ在東京元陸軍學生
 監督李士銳、馮國璋（前總）ノ密旨ヲ受ケ東京附近ニ於テ
 我軍事秘密書ノ買收、從事レリテ戦死將校ノ遺族等ヨリ
 買收シ得タル秘密書類數カラス其買收金額既ニ約三千兩
 ニ及ヘリト云フ但此等ノ因本件ト何等ノ關係ナク本件ニ就テハ
 別ニ何等連類者ヲ有セシハ証跡ヲ見ス

六 清國陸軍當局ニ對スル我態度

本件ノ關レハ官ニ清國陸軍當局ニ對シ概テ何等ノ交渉ヲ行フナカリカ
 前記良好ノ過渡自ラ官ヲ訪ヒ事態ノ説明シテ我感情ノ融和ヲ請ヒ
 更ニ進シテ他ノ中級ニシテ我軍事當局精銳ノ解カンイヲ明言セルニヨリハ官ハ
 之ニ答フルニ川喜多自身ノ陳述（逮捕後數日間存命アリレ旨ヲ傳（置ケリ））及其
 他ノ証憑書類ニヨリ委曲事件ノ真相心ヲ詳悉レタルイリ以テレ迄イテ我
 軍事當局殊ニ應聘武官ノ感情ヲ害スヘキ旨ヲ告ケ殊更ニ沈靜
 ノ愛懺ノ態度ヲ粧ヒ彼等ノ熟考ヲ促レオケリ此クレテ今後清國側ノ
 態度如何ハ以テ我陸軍ニ對スル彼等ノ誠意ノ釋度ヲト知スルノ標準ナ
 ルヲ得ヘリ之レヲ應ルル我陸軍ノ態度如何ニ從テ考量ス（キ必要）ル
 ヘシト信ス

馬

陸軍軍官學堂監督張鴻達ヨリ丁錦宛ル書信

慕韓仁兄大人如握。昨日弟乘早車返保。所帶之書。已呈督辦。而督辦淳々囑呈官保之工課。務須飭司書用心騰抄。而字休猶須端正。不可草率。庶可以壯觀瞻。借收效力。是為至要。倘司書不敷用。可暫添一名。至所添之司書薪餉。由敝堂籌給可也。但呈官保之書。督辦囑不可令軍部及他處人等知之。務希秘密為禱。專此敬請。

勳安

愚弟 張鴻達 頓首

(解)

前父中慕韓丁錦字督辦。既棋瑞、官保、袁世凱、敝堂、軍官學堂、

川喜多大治郎所持圖書目錄第一
機密系重要書類目次

目録

名称	機番	頁数	年月日
吳要塞射界一般図	軍部機密第百三十三号 吳要塞司令部自記知事 清保監、分	秘天第一二二五号 十面連合した地圖	明治三十五年三月二十日 發行 (二万六千二)
吳要塞通信網圖	軍部機密吳才定号 、分	秘天第九〇号 十面連合した地圖	明治三十五年三月二十日 發行 (二万六千二)
吳戰術要塞防禦一般圖	軍部機密吳才定号五 、分	秘天第五五五号 十面連合した地圖	明治三十六年三月 發行 (二万六千二)
廣島灣要塞防禦永久 兵備及運送物覽表	軍事機密第六三 号、分	一	明治三十四年十月十日 印刷 (二万六千二)
廣島灣要塞防禦永 久覽表		一	
韓國交通及地勢概要圖	秘 (附技、外國覽) (計廿六)		明治三十四年十月十日 兵要地學附圖
滿洲沼澤誌	本書ハ附技、外國 覽、計廿六	二	
野戰重砲兵要提要	秘	一	

船舶輸送勤務令	秘史部四五五号		
東京湾要塞附近	五 四五八号		
秘密地図	五 比七号 四九一号 一七七号 五枚	計一二	(二万分之一)
韓國電信電話	秘		明治三十四年印刷
大野方面附圖第三	軍事機密吳那 四号一七	六枚連合地圖一	明治三十四年印刷 (三万分之一)
同附圖第一 (吳方面)	軍事機密吳那 一五	六枚連合地圖一	明治三十四年印刷 (三万分之一)
同附圖第二 (大野方面)	同附圖第一	六枚連合地圖一	明治三十四年印刷 (二万分之一)
吳附近 (中興嶺燒山) (廣山)	同附圖第一	四	明治三十四年印刷 (三万分之一)

兵站勤務令	傳授ノ外閱覽ヲ 許ス	一	三十七年一月 老澤本部次郎
鳥蘇利洛通誌	秘第一八六号	一	三十七年三月十日 陸軍省印刷
三式車射形砲射擊表	明治三十七年度	一	三十七年製 (子令二)
舞鶴要塞防務設計圖	軍事機密第七 号ノ一	一	三十七年二月製 陸地測量部
佐世保要塞、警備之要 備、演習記事附圖	三十七年 八月二十日	三	三十九年五月一日 高橋少佐
吳 前同方面砲備圖	其二 秘	二	三十九年五月
第三軍三式九式城砲兵 展開表、第三軍位置圖	秘	一	
要塞紀錄編纂要領	其二 秘	一	
現用海岸砲射擊一覽 表	秘	一	
現用火砲重要數量 一覽表		一	

4T9I

0 0 0 0 0 0

攻城兵器提要	秘			手三十九月五日 新田陸軍省印刷
新式三曲砲知要 三曲砲加裝射撃手要	秘第九号			
七曲知要同砲榴彈射撃手要	秘第八号	外二三冊	同	
平時砲司令部職務法		一卷		
軍制與士	自才一篇 至才三篇	一八卷		
隣邦兵器備	自才一篇 至才八篇	七卷		
全附表		一卷		川喜多司著 係ル研究所 講義録
經略軍國學	日才一篇 至才三篇	三卷		リテ各卷ニ サテ部ヲ印 刷シテ研究
軍事地理學	自才一篇 至才二篇	二卷		
全附表		一卷		

00

四

川喜多大治郎所持墨書目錄第二
戰聞詳報目次

戰訓詳報之部(光緒三十四年)

名	種	頁數(附圖)	附圖
第七師團戰訓詳報	太子河左岸騎兵龍衣未領未遑束縛軍	四六八	番一 二
騎兵第一聯隊戰訓詳報	第三師團後備騎兵第一中隊(除小)戰訓詳報	一 一	番一
第六師團後備騎兵第一中隊戰訓詳報	後備步兵第四十五聯隊(大隊)戰訓詳報	九	番一
後備步兵第四十五聯隊(大隊)戰訓詳報	後備步兵第四十一聯隊第三中隊接官堡	七	番一
後備步兵第四十一聯隊第三中隊接官堡	後備步兵第四十一聯隊第三中隊接官堡	四	番一
後備步兵第四十一聯隊第三中隊接官堡	後備步兵第四十一聯隊第三中隊接官堡	八	番一

後備步兵第四聯隊第三隊(部)戰鬥詳報	七	
牛莊守備隊後備步兵第三三聯隊第四中隊及 第三團後備騎兵一中隊戰鬥詳報	一七	四一
海城軍政署牛莊分遣所長報告	七	
牛莊北守備隊後備步兵第三三聯隊第一 大隊戰鬥詳報	二六	四一
後備步兵第八聯隊(部)戰鬥詳報	一	二
後備步兵第三三聯隊第五隊戰鬥詳報	二	
後備步兵第三三聯隊第六隊戰鬥詳報	五	
營口砲壩場及兵屯司令部戰鬥詳報	三五	四一
第四軍戰鬥詳報第二號	五七	四二
第五師團戰鬥詳報第六號	一一六	四六張表一五

第十師團戰圖詳報第三號	四八	番二
第十師團戰圖詳報	一〇三	番一
第十師團戰圖詳報	一一二	番一表 丁〇
第四軍戰圖詳報第三號	二一	番六
第五師團戰圖詳報第七號	九九	番二
第十師團戰圖詳報第四號	二四五	番四
山田支隊戰圖詳報	七五	番四
第一軍戰圖詳報	一四二	番四
近衛師團戰圖詳報	一九二	番一六
第三師團戰圖詳報第四號	八四	番八

第十二師團戰術詳報	一三二	八
近衛後備混成旅團戰術詳報第二號	一八	一
近衛後備混成旅團戰術詳報第三號	六	一
近衛後備混成旅團戰術詳報第四號	二二	二
近衛後備混成旅團戰術詳報第五號	二六	二
第一軍戰術詳報	四九	五表一三頁
近衛師團戰術詳報第十號	五九	一一表二五頁
近衛後備混成旅團戰術詳報第十一號	一六	一表二頁
第二師團戰術詳報第十五號	八〇	一〇表九頁
第三師團松永旅團戰術詳報第十六號	二六	一表六頁

第十三師團戰例詳報	八六	④五表 卷
第五師團戰例詳報第八號	一七	④一表 二
歩兵第三旅隊中隊戰例詳報	一五	④一
騎兵第十六聯隊戰例詳報	一二	
騎兵第三旅團戰例詳報第二號	二四	④一
騎兵第十五聯隊戰例詳報第五號	五	④一
騎兵第十五聯隊中隊戰例詳報	五	④一
第一聯隊戰例詳報第一號	五	④一
騎兵第三旅團戰例詳報第三號	一四	
騎兵第三旅團屬森田大隊戰例詳報	二	

近衛後備旅團戰術詳報	三 八	
第十一師團戰術詳報	一 七 二	
第三軍給養詳報附圖		(四) 一
第三軍行動關於通信網圖		(四) 一 二
近衛混成旅團(後備)戰術詳報	七 四	井
第十一師團戰術詳報	八 五	
騎兵第十五聯隊戰術詳報 _{第七号}	八	(四) 二
第二聯隊戰術詳報 _{第七号}	六	(四) 一
騎兵第十六聯隊戰術詳報第三號	九	(四) 一
騎兵第十五聯隊戰術詳報第六號	一 一	(四) 一

近衛師團戦闘詳報第十一號	六	六	
第一軍砲兵戦闘詳報	四	二	
第二師團戦闘詳報第七號	二	六	二
右翼隊 (後備歩兵 第六旅團) 戦闘詳報第十一號	二	三	表 二
後備歩兵第五聯隊戦闘詳報	六	一	
後備第一師團戦闘詳報	一	三	八
河村支隊 (後備歩兵 第三旅團) 戦闘詳報	一	三	
北島支隊 (後備歩兵 第九旅團) 戦闘詳報	一	一	
後備歩兵第十三聯隊戦闘詳報	一	二	
草場支隊 (後備歩兵 第六旅團) 戦闘詳報第十一號	四		

後備步兵才三兵隊新聞詳報	五	九	
比島島支隊 (後備步兵才九旅團) 新聞詳報	二	六	
比島島支隊 (後備步兵才九旅團) 新聞詳報	二	〇	
右側支隊 (後備步兵才八旅團) 新聞詳報	二	一	
前衛 (後備步兵才五旅團) 新聞詳報才三號	三	〇	表二
後備步兵才一旅團才一大隊新聞詳報 (才十九旅團比島島防四、五)	六	一	表二
草場支隊 (後備步兵才五旅團) 新聞詳報才四號	七	七	表一九
後備步兵才十二旅團新聞詳報	五		表一
西高鈴木支隊新聞詳報	一 五		表三
後備步兵才四旅團新聞詳報	三	六	

後備第師團騎兵隊才重隊戰訓詳報	一	七	
後備第師團後備兵隊戰訓詳報第貳號	一	一	
右側衛 (後備步兵才重隊) 戰訓詳報第五號	一	五	四
比志島支隊 (後備步兵才重隊) 戰訓詳報	一	六	
吉利支隊戰訓詳報	一	二	
徒步砲兵才重隊戰訓詳報	一	五	
後備第師團彈藥大隊戰訓詳報		九	
電信建築班作業報告		九	
野戰砲兵才重隊戰訓詳報		四	
後備步兵才重隊戰訓詳報	一	一	

生井支隊 (後備步兵) 戦闘詳報	二六	
後備步兵第三聯隊 戦闘経過概要	一四	
後備步兵第八聯隊 戦闘詳報	九	
第一軍 戦闘詳報	二二	表七
近衛師團 戦闘詳報	八三	図七
第三師團 戦闘詳報 第三師	一八	図一
步兵第十五旅團 戦闘詳報	六六	圖二
第十二師團 戦闘詳報	一六	表一
第十三師團 左翼隊 戦闘詳報	九	表二
第十二師團 左翼隊 戦闘詳報	八	表一

第三師團戰術詳報第六編	五 五	番 四
摺澤支隊 (步兵第九旅團) 戰術詳報	二 五	番 一
第五師團戰術詳報第九編	五 一	番 四
積田支隊 (步兵第五旅團) 戰術詳報第八編	一 一	番 二
村山支隊 (步兵第二旅團) 戰術詳報	三 九	番 三
第八師團戰術詳報第一編	五 九	番 三
臨時支隊戰術詳報目錄次	一 四 七 四	附錄 一 七 番 四
第三師團戰術電信隊戰術詳報	八	
第三師團戰術電信隊戰術詳報	一 四	
第三師團右翼隊戰術詳報	三 九	表 二 二

第三師團戰闘經過詳圖	三	
第四師團戰闘經過詳圖	四	
第五師團戰闘經過詳圖	二	
第六師團戰闘經過詳圖	三	
騎兵旅團戰闘經過詳圖	四	
野戰砲兵旅團戰闘經過詳圖	一	
第三軍行動間通信情態	三	
奉天附近各戰間第三軍統率詳報	四	
奉天附近各戰間各師團及野戰砲兵旅團陣勢及糧食彈藥行動一覽表	六	
第三軍戰闘詳報第五號	二	一

第三軍戰圖詳報第一號	二	三
第三軍戰圖詳報第二號	二	三
第三軍戰圖詳報第三號	一	五
第三軍戰圖詳報第四號	四	六

閣

付入受第一二號

十月十日

陸軍省

十月二日

密元三

天第一〇七號三

明治四十一年十月三十日

第11師團參謀長古海殿

陸軍省副官之花少郎殿

陸密第一八七號故川喜多大治郎所持タル書

書、關シ御照會ノ件取調候處當師團ニ於

關係ナル別紙目錄ノ番書ハ全部元廣

島涉要塞司令官田中信隆ノ保管中明治

三十八年七月不要ト認メタル為メニ焼棄ヲ取

1634

陸軍省
文相
子公

明治 廣東 番禺

元

1634

文相之件書郵一括
子公要のり
子公要のり

板者タル元同要塞副官柳井庄治郎ニ命シタル
 〃拘ラス副官ハ元要塞參謀川喜多大治郎
 カ自ラ焼却スヘキ條件ヲ以テ時日ノ猶豫ヲ請
 求シタルニ對シ之ヲ過信シ見要求ニ應ジタルニ其後
 參謀ハ既ニ燒却ヲラシタル旨申出タルモ事實ハ然
 ラスシテ此機ヲ以テ密切ニ私シタル次第ニ有之候條
 別紙關係者ノ顛末書寫相添、此段及回六
 候也

追テ該責任者タル元元居官及副官只目ト在御
 者有之者今ノ途チ又別紙目錄以外ノ番書
 ハ少師因ト關係無之ナリト申添、

件名	番 號	發行 廳
重砲各種射撃表	秘第ニノ六 四九五号	陸軍省
克式十五瓏米三五五加農射撃表	秘第ニノ九 一五号	令
九瓏米加農榴霰彈射撃表	秘第ニノ五 二三号	令
九瓏米加農榴霰彈射撃表	秘第ニノ三 二三号	令
カ子一式二十七瓏米射撃表	秘第ニノ九 五〇号	令
第十五号 克式二十五瓏米三五五加農射撃表	秘第ニノ一 九号	令
第十七号 克式二十五瓏米三五五加農射撃表	秘第ニノ二 九号	令
第十四号 克式二十五瓏米三五五加農射撃表	秘第ニノ二 九号	令
第十五号 克式二十五瓏米三五五加農射撃表	秘第ニノ二 九号	令
克式二十五瓏米三五五加農射撃表	秘第ニノ二 九号	令

野戰重砲兵兵器提要	今	陸軍省
攻城兵器提要	今	陸軍省
各種砲射擊表 十部	今	陸軍省
明治三十五年廣島海軍要塞司令部備置	軍事機密	陸軍省
戰間方面配備面	軍事機密	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ五	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ六	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ七	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ八	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ九	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ十	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ十一	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ十二	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ十三	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ十四	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ十五	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ十六	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ十七	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ十八	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ十九	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ二十	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ二十一	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ二十二	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ二十三	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ二十四	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ二十五	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ二十六	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ二十七	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ二十八	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ二十九	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ三十	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ三十一	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ三十二	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ三十三	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ三十四	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ三十五	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ三十六	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ三十七	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ三十八	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ三十九	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ四十	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ四十一	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ四十二	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ四十三	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ四十四	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ四十五	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ四十六	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ四十七	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ四十八	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ四十九	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ五十	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ五十一	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ五十二	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ五十三	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ五十四	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ五十五	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ五十六	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ五十七	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ五十八	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ五十九	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ六十	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ六十一	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ六十二	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ六十三	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ六十四	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ六十五	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ六十六	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ六十七	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ六十八	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ六十九	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ七十	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ七十一	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ七十二	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ七十三	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ七十四	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ七十五	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ七十六	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ七十七	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ七十八	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ七十九	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ八十	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ八十一	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ八十二	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ八十三	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ八十四	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ八十五	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ八十六	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ八十七	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ八十八	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ八十九	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ九十	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ九十一	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ九十二	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ九十三	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ九十四	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ九十五	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ九十六	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ九十七	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ九十八	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ九十九	陸軍省
日 今第ニ	日第一四号ノ一百	陸軍省

要塞防衛一般圖（吳縣備）	三六、三 軍事機密第四号ノ五	吳要塞司令部
吳要塞通信網圖	三五、三 軍事第四号ノ六	〃
吳要塞射界一般圖	三三、一 内 第二号	〃
廣島湾要塞防衛永久兵備及施設遺物圖表 要塞陣地是教表	三六、一 内 第六三号ノ一六	廣島湾要塞司令部
吳（大野）戰陣方面配備圖	軍事機密第七号ノ二	吳要塞司令部

明治四十二年十月二十六日

廣島湾要塞司令官川谷致秀

第五師團長男爵木越安綱殿

當部保管圖書中舊年度ニ屬スル要塞防禦
計畫書並諸射撃表類ヲ故川喜多大治郎
ガ所持致居候件ニ就キ當時、保管出納、
顛末、夫々取調候處別紙當時、司令官
田中信隣、令副官柳井庄治郎、顛末書、

如ク有之又本職着任當初之カ整理ヲ實
 施セシ候得共附屬計畫書類中參謀ノ保
 管ニ係ハル分ニシテ年度变换ノ為メ不用
 屬ニ當然燒棄ララセシ筈ナルモノニシテ往々
 現品ヲ發見セシ事實ニ徴シ追想スルトキハ
 當時其狀態稍乱雜ナリシヲ免レス隨テ川
 喜多大路郎^{ラレテ}其手取ヲ施ス餘地ヲ與ヘ
 シ次第ト被認美關係者ノ顛末書類相添ヘ
 此段及報告

追テ今回發見ノ書類中當部保管ノ屬ス
 ル書目ハ別紙目錄ノ通

件名	番號	發行廳
重砲各種射擊表	秘第 ^{三ノ六} 四九五号	陸軍省
克式十五瓏米三吉座加農射擊表	秘第 ^{三ノ九} 一五号	〃
九瓏米加農榴霰彈射擊表	秘第 ^{三ノ五} 二三号	〃
九瓏米加農榴霰彈射擊表	秘第 ^四 二三号	〃
力子一式二十七瓏米射擊表	秘第 ^{三ノ九} 五〇号	〃
第十五号 克式三吉座三瓏米加農射擊表	秘第 ^{三ノ一} 九号	〃
第十七号 克式三吉座三瓏米加農射擊表	秘第 ^{三ノ二} 九号	〃
第十四号 克式三吉座三瓏米加農射擊表	〃	〃
第十三号 克式三吉座三瓏米加農射擊表	〃	〃
第十二号 克式三吉座三瓏米加農射擊表	〃	〃

第12号 其1	克式三十三厘米主砲米加農射擊表	秘第12号	陸軍省
斯式三十三厘米主砲米加農射擊表	秘第9号	陸軍省	
九厘米臼砲榴彈射擊表	秘第18号	陸軍省	
九厘米臼砲榴霰彈射擊表	秘第7号	陸軍省	
野戰重砲兵兵器提要	今	陸軍省	
攻城兵器提要	今	陸軍省	
各種砲射擊表 十部	今	陸軍省	陸軍省司令部又 陸軍省文庫保管
明治三十四年度廣島灣要塞警備計畫	軍事機密		
戰術方面配備面	三六ノ三 軍事機密第四号ノ七	吳要塞司令部	
今第1号 (吳方面)	三七ノ三 口第一四号ノ五	廣島灣要塞司令部	
今第2号 (安藝方面)	口第四号ノ六	今	

要塞防衛一般圖（吳縣備）	三六、三 軍事機密第四号ノ五	吳要塞司令部
吳要塞通信細圖	三五、三 軍事機密第七号ノ六	人
吳要塞射界一般圖	三三、一 第一二一号	人
廣島陸軍要塞防衛永久大砲及砲臺造作圖表 （吳縣備）	三六、一 第一二二号	廣島陸軍要塞司令部
吳（大野）縣間方面配備圖	軍事機密第七号ノ一	吳要塞司令部

願末書

廣島湾要塞司令部備附圖書ノ内舊年度ニ属スル
 要塞防禦計畫書並ニ諸射表類ヲ元要塞参謀
 川喜多大治郎が所持致居候件ニ就テ該圖書年
 度变换等ノ為メ不用ニ属セシヲ以テ三十八年七月副
 官柳井大尉ヲシテ整理セシメ未ダ焼棄ノ手續ヲ
 為サシメタリ當時別ニ疑ヲ容ルベキ點ヲ見ズ全シ
 焼棄シタリタルモノト信居美處今面川喜多大
 治郎が所持品中ヨリ發見セシ事實ニ徴スレバ表
 面焼棄セン如ク装ヒ竊ニ自己ノ所有トナシタルモノ

ト認メテレ美全ク小官在職中ノ不行由恐入美
儀ニ有之候

右顚末書差出美也

明治四十一年十月二十一日

元廣島湾要塞司令官田中伴隣

願末書

明治三十七年十二月以降三十九年三月迄廣島灣要塞
副官奉職中別紙目錄ノ機密秘密面書紛失ノ係ル
理由左ノ如シ

(一) 要塞防禦計畫書類ニ就テ

三十八年五月前年度各種防禦計畫書類ヲ燒棄セシガ
為部内各主任官ヨリ之ヲ返納セシメシカ當時ノ要塞
參謀川喜多砲兵大尉ハ全書類(別紙目錄ノ通)ハ參
考トシテ若干日間參謀ノ手許ニ存置セシトヲ
申出テタルヲ以テ小官ハ全大尉が必要止マハ直ニ全

大尉自ラ之ヲ燒棄スベシトノ確約ヲ信ジ之ヲ承諾セリ其後全大尉ハ既ニ燒棄セシ旨確言セシヨリ原簿上ニハ燒棄済ノ手續ヲ了シタリ然レ今面ノ事實ニ徴シ全大尉ハ當時全ク之ヲ燒棄スルコトナク自己ノ所有物ト爲シアリタルモノナルコトヲ發見セリ

(二) 各種射表ニ就テ

三十八年七月不用ニ歸シタル各種射表ヲ燒棄セシガ爲メ全大尉及當時ノ砲兵部員ト協議ノ上之が實行ニ着手セシガ當時全大尉ノ言ニ依レバ別紙目録ノ射表モハ燒棄スベキモノト爲スレモ参考トシテ若干日間参

謀ノ手許ニ存置センコトヲ申出タルヲ以テ小官ハ全兵料出身
トシテ其取捨ハ一ニ砲兵科タル全大尉ノ意見ニ從ヒ之ヲ
承諾セリ其後全大尉ハ既ニ自ラ焼葉セン旨ヲ確言セ
シ依リ原簿上ニハ焼葉済ト爲シタリ然レ今面全大
尉ノ所持品中ニ該圖書ノ現在セムヲ見レバ全大尉ハ
尔来焼葉スルコトナク自己ノ所有物ト爲シアリタルモノト
認ム

以上ノ理由ニ據リ今回別紙目錄ノ圖書ノ紛失セシハ全
ク小官ガ職務實行ニ關シ不行届ノ矣リシニ起因セ
レモノタルコト明瞭ノ義ニテ誠ニ恐懼ノ至ニ不堪
依テ願末書差出候也

明治四十二年十月十七日

元廣島湾要塞副官柳井庄治郎

陸

軍

目録

明治三十七年度廣島灣要塞整修工事配備計画 軍事機密

戰闘方面配備面 附面第三 (大野方面) (三六ノ三 軍事機密第四号ノ七)

同 附面第三 (吳方面) (三七ノ三 軍事機密第四号ノ五)

同 附面第二 (大野方面) (三七ノ三 軍事機密第四号ノ六)

要塞防禦一般面 (吳戰備) (三六ノ三 軍事機密第四号ノ五)

吳要塞通信網面 (三五ノ三 軍事機密吳第四号ノ六)

吳要塞射界一般面 (三三ノ二 軍事機密第二号ノ一)

戰闘方面配備圖 軍事機密第七号ノ一

三十年式速射野砲射撃表 (三四ノ三 機第一八六号ノ一)

重砲各種射撃表 (三三ノ六 機第四九号ノ一)

三ノ九
總第一九号

三五、五
（按第一二二号）

(五五) 五
代第二三子

三三ノ九
株五〇三

（三三ノ二）
徳第九

第三十九号

人

人

今

(三三ノ九
根葉九乎)

（三三）
秘第一八号

九冊米臼砲榴霰彈射表
各種砲射數手表

十部

秘(三編、七)

閑



故川島大藏所蔵之倭文書目録ノ圖書之被
 法同經多事月令記ヨリ送付事ナリ本日録中ノ大
 部ハハ老月令記及庚島漢書等月令記ノ倭
 語ノ書ナリ倭モノト被認ルハ凡ハ古書撰書被
 寫書類カ如クニシテ何人ノ手ニ渡リタルモノナル
 哉又當時ノ倭書出納ノ類末等詳細取調
 ノ上被失お成至
 陸奥第一八七
 十月十二
 追テ所載目録中老漢書ノ關係ヲ有セザル書
 目ハ本文ト同時ニ以申被お成至

陸密第一八七

十月十一

推

第五師團司令部及第一師團司令部

1655

件名	番號	發行者
船舶輸送勤務令	表紙剥脱=付不明	陸軍省
兵站勤務令	同	同
三十一年式速射野砲射擊表	秘第一八六号	同
重砲各種射擊表	秘第三六号 秘第四九五号	同
克式十五珊米三十五口径加農射表	秘第三九号 秘第一五号	同
九珊米加農榴彈射擊表	秘第五二五号 秘第二三三号	同
九珊米加農榴霰彈射擊表	同 秘第二三三号	同
力子一式二十七珊米射擊表	秘第三九号 秘第五〇号	同
第十五号 克式二十五口径二十四珊米加農射擊表	秘第三一二号 秘第九号	同

英

尾

各種砲射擊表

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

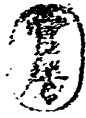
陸	軍	吳(大野)戰鬥方向配備圖		各種大砲重要數量一覽表		十部	軍事機密第七号二		不 明	不 明
---	---	--------------	--	-------------	--	----	----------	--	--------	--------

係有誌不分明

件	名	番	號	發行者
明治三十七年度舞鶴要塞防禦計畫書	軍事機密			第十師 舞鶴要塞司令部
佐世保要塞警急配備演習記事附表附圖				佐世保要塞司令部
旅順附近地圖 第三軍攻城砲兵展開並 第三軍位地圖				
第二軍揚陸計畫	戰機第五三乃至五五号			
韓國電信電話回線圖	秘	三九、四		古川少佐
韓國交通及地勢概見圖 (兵要地學附圖)	同	三六、一〇		古川少佐
滿洲沿道誌 卷一 卷二	秘			參謀本部

烏蘇利沿道誌	秘	參謀本部
現用火砲重要數量一覽表 其一、其二	同	高橋少佐
要塞記錄編纂要領	同	高橋砲兵少佐
現用海岸砲射擊諸元一覽表 其一、其二	同	同
口露戰役系之蘇南海軍日録		12

1991



陸軍省

三九九

憲法第一五〇九號一

九月三日



明治四十年九月二日

憲兵司令官 林忠夫



陸軍省副官 立花小一郎 叙

故休職砲兵大尉 川喜多大治郎 自宅
ニアリシ別紙目錄地圖取纏メ差出
候間 御受領相成度

陸

軍

地高原呂長小西子石土

尾町川岡田條生岡

名山田驛山村山町村浦

目録

一 一 一 一 一 一 一 一 教

地安谷鋒藤檜竹北根木

田部

陸

居原澤本條原本

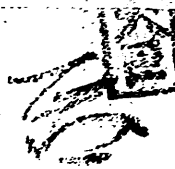
名村町村村村村村村村

教

一 一 一 一 一 一 一 一

山	真	田	松	寺	我	流	越	浦和近傍	浦和近傍	浦和近傍	浦和近傍	浦和近傍	山
王	壁	無	戸	岡	孫	山	石	大和田町	扇町	扇町	扇町	扇町	澤村
村	町	町	驛	村	宿	村	驛						
羽	上	平	小	下	岩	西	小						
田	溝	塚	田	崎	下	間	多						
村	村	驛	原	村	郷	村	田						
一	一	一	一	一	一	一	一						

計
多
田
七
枚



1665

1664

陸軍省 密受第三十九號

陸軍省 密受第三十九號

九月一日

九月一日

八月廿六

密二九三

明治四十年八月十七日

陸軍駐屯軍司令官中村愛三

陸軍大臣子爵寺内正毅殿

故川喜喜大治郎所有軍事機密及其他圖書
類別統目録通了及進達候也

陸軍省 陸軍部 發第 五 号

1664 1665

神皇正統記

軍事

陸軍

大官

陸軍大臣子爵

陸軍大臣子爵寺内正毅殿

明治四十年八月十七日
清國駐屯軍司令官中村慶三

故川喜喜子大治郎所有軍事機密及其他圖書
類別紙目録通し及進達候也

從陸軍

九月一日

第二九三

陸軍

八月廿六

清國駐屯軍司令官中村慶三
發部
三 号

故川喜多太郎閣下軍務秘書類目録

名	種	機密番号	頁数	年月日
吳要要對岸一般圖	全	機密第二号 吳要要司令官印和奉備保 官印	秘大第二号 秘大連合地圖	三十二年三月十五日發行 (二百五)
吳要要通信網圖	全	第四号一	全 第九号 秘大連合地圖	三十五年三月十五日發行 (二百五)
吳要要防禦防禦一般圖	全	第四号一五	全 第五号 秘大連合地圖	三十二年三月十五日發行 (二百五)
廣島灣要要防禦永久共 備及管造物覽表	一	一	一	三十二年三月十五日發行 (二百五)
韓國交通及地形概況圖	秘	機密第一号 機密第二号 機密第三号 機密第四号 機密第五号 機密第六号 機密第七号 機密第八号 機密第九号 機密第十号 機密第十一号 機密第十二号 機密第十三号 機密第十四号 機密第十五号 機密第十六号 機密第十七号 機密第十八号 機密第十九号 機密第二十号 機密第二十一号 機密第二十二号 機密第二十三号 機密第二十四号 機密第二十五号 機密第二十六号 機密第二十七号 機密第二十八号 機密第二十九号 機密第三十号 機密第三十一号 機密第三十二号 機密第三十三号 機密第三十四号 機密第三十五号 機密第三十六号 機密第三十七号 機密第三十八号 機密第三十九号 機密第四十号 機密第四十一号 機密第四十二号 機密第四十三号 機密第四十四号 機密第四十五号 機密第四十六号 機密第四十七号 機密第四十八号 機密第四十九号 機密第五十号 機密第五十一号 機密第五十二号 機密第五十三号 機密第五十四号 機密第五十五号 機密第五十六号 機密第五十七号 機密第五十八号 機密第五十九号 機密第六十号 機密第六十一号 機密第六十二号 機密第六十三号 機密第六十四号 機密第六十五号 機密第六十六号 機密第六十七号 機密第六十八号 機密第六十九号 機密第七十号 機密第七十一号 機密第七十二号 機密第七十三号 機密第七十四号 機密第七十五号 機密第七十六号 機密第七十七号 機密第七十八号 機密第七十九号 機密第八十号 機密第八十一号 機密第八十二号 機密第八十三号 機密第八十四号 機密第八十五号 機密第八十六号 機密第八十七号 機密第八十八号 機密第八十九号 機密第九十号 機密第九十一号 機密第九十二号 機密第九十三号 機密第九十四号 機密第九十五号 機密第九十六号 機密第九十七号 機密第九十八号 機密第九十九号 機密第一百号	一	三十二年十月十五日 吳要要地圖
滿州道誌	秘	機密第一号 機密第二号 機密第三号 機密第四号 機密第五号 機密第六号 機密第七号 機密第八号 機密第九号 機密第十号 機密第十一号 機密第十二号 機密第十三号 機密第十四号 機密第十五号 機密第十六号 機密第十七号 機密第十八号 機密第十九号 機密第二十号 機密第二十一号 機密第二十二号 機密第二十三号 機密第二十四号 機密第二十五号 機密第二十六号 機密第二十七号 機密第二十八号 機密第二十九号 機密第三十号 機密第三十一号 機密第三十二号 機密第三十三号 機密第三十四号 機密第三十五号 機密第三十六号 機密第三十七号 機密第三十八号 機密第三十九号 機密第四十号 機密第四十一号 機密第四十二号 機密第四十三号 機密第四十四号 機密第四十五号 機密第四十六号 機密第四十七号 機密第四十八号 機密第四十九号 機密第五十号 機密第五十一号 機密第五十二号 機密第五十三号 機密第五十四号 機密第五十五号 機密第五十六号 機密第五十七号 機密第五十八号 機密第五十九号 機密第六十号 機密第六十一号 機密第六十二号 機密第六十三号 機密第六十四号 機密第六十五号 機密第六十六号 機密第六十七号 機密第六十八号 機密第六十九号 機密第七十号 機密第七十一号 機密第七十二号 機密第七十三号 機密第七十四号 機密第七十五号 機密第七十六号 機密第七十七号 機密第七十八号 機密第七十九号 機密第八十号 機密第八十一号 機密第八十二号 機密第八十三号 機密第八十四号 機密第八十五号 機密第八十六号 機密第八十七号 機密第八十八号 機密第八十九号 機密第九十号 機密第九十一号 機密第九十二号 機密第九十三号 機密第九十四号 機密第九十五号 機密第九十六号 機密第九十七号 機密第九十八号 機密第九十九号 機密第一百号	二	三十二年十月十五日 吳要要地圖
野戰重砲兵器提要	秘	一	一	三十二年十月十五日 吳要要地圖
獨國攻城放令	秘	一	一	三十二年十月十五日 吳要要地圖
兵諸勸務令	秘	一	一	三十二年十月十五日 吳要要地圖
船舶輸送勸務令	秘	一	一	三十二年十月十五日 吳要要地圖

東京湾要害附近秘密圖	秘 昭和五年生第百六号至第百七号外三 号至第百九号と第百七号外二 号		一	(二百五十一)
韓國電信電話回線圖	秘		一	三十九年二月調
大野方面附圖第三 附土地方視地圖	單本機密第百四十七 六枚邊右圖		一	三十九年三月十日調 (二百五十二)
同附圖第二(吳方面)	全 第四千一百五	全	一	三十九年三月十九日 廣島要塞司令部印刷局(二百五十三)
同附圖第二(大野方面)	全 第四百十六	全	一	右 全 (二百五十四)
吳附近 (中島頭、鏡山、 吳、廣山)	全 第七百一十一 將敵外國航空機計カス	全	四	主五陸地測量部印刷 (二百五十五)
烏蘇利河道誌	秘 第一八六年		一	三十七年一月 參謀本部印第一種 (二百五十六)
主五式速射砲射擊表	秘 三十七年度		一	三十四年三月一日 陸軍省印刷 (二百五十七)
舞鶴要港防禦計畫書	單本機密第七百二十一		一	
吳戰鬥方面配備圖	機密第百三十三号至第百三十四号 全第百三十三号至第百三十四号		一冊	三十七年四月三十日
第二軍揚陸計畫	三十七年一月十日決定		一	三十九年二月調 陸地測量部 (二百五十八)
第三軍揚陸計畫	三十七年一月十日決定		一	
要害記録編其重要領	秘		一	

899T

現國海軍砲射撃一覽表	松其二	二	三十九年九月一日 高橋少佐
攻城兵器提要	松	一	
新式三四式野戰重砲三六口径加農 砲等表	松 第九号	一	三十九年九月十日 大庭實清印刷
日露戰役砲台戰圖詳報目錄		一	
陸軍兵備原稿		若干	川島孝ノ著述ニ係ルモノニシテ日本ノ各ノ下 等ノ中ノ東部ニシテ中ノ東部ノ四國ノ東部 北緯四ノ南緯二ノ地方
日本五方台一圖		一七	
東洋沿岸海圖		約一〇〇枚	
九洲沿岸海圖 極彈射撃 表		一	三十九年九月十日 大庭實清印刷
日露戰役三六口径日本軍 砲台詳報目錄		一	
現用大砲重要數量一覽表	松	一	三十九年九月 大庭實清印刷
飯沼瑞ノ馬車		一	川島孝ノ著述ニ係ルモノニシテ日本ノ各ノ下 等ノ中ノ東部ニシテ中ノ東部ノ四國ノ東部 北緯四ノ南緯二ノ地方
自筆証言ニ遺言	三十九年九月十日 川島孝ノ著述ニ係ルモノニシテ日本ノ各ノ下 等ノ中ノ東部ニシテ中ノ東部ノ四國ノ東部 北緯四ノ南緯二ノ地方	一	日語 日方九ノ下
他色保要軍要言ニ係ル 海軍砲台一覽表		一	

699T

清國陸軍ノ爲メニ書キテト云フ一考其言頗チ及
ル也其言也及陸軍ノ制メ及兵ノ器ヲ考テ

外ハ以テ辛七ノ年以前ノ法ヲ要スル也其法ハ

一冊ニ見ル一考其言頗チ及

1670 1671

陸軍省 密受第二九九號

明治四十年八月十七日

清國駐屯軍參謀磯部昌朝

陸軍省副官立花少郎殿

故川喜子大治郎ニ屬ス遺骨及貴重品一箱
並ニ桐包五個及送附候也

追テ犯罪ニ使用セシ軍需機密書類ニ列シ桐包ニ大臣
宛テ送附可候 同御朱印知相成度申添候

付入受領方一 納房

八月廿六日

清國駐屯軍司令部 秘發第五二號

清國駐屯軍司令部 秘發第五二號

陸軍

1672

取込
手立
シ
中

1670 1671

明治四十年八月十七日

清國駐屯軍參謀磯部昌朝

陸軍省副官立花少郎殿

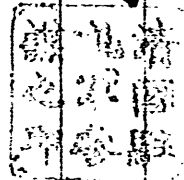
故川喜子大治郎之遺骨及貴重品一箱
並、櫛包五個及送附候也

追て犯罪に使用せし軍需機密書類、列し櫛包に大臣
宛送相成候間御承知相成度申添候

付入愛蔵方一編房

八月廿六日

清國駐屯軍司令部 秘發第五乙号



陸

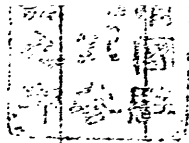
軍

1672

取品
手立
シヨ
シヨ
シヨ

廿六日

乙
号



二箱

三大臣

1672

現出た大徳王の書は、此書に
手紙の形にあり、上は、
三書前へ引かざるに、
中書へ入る。

故川喜喜大佐郎貴重物品目録

一金側時計

(銀文箱付)

一金指環

一貫式雙眼鏡

一印形

一晚卷銀側時計

一陸軍大學校卒業證書

一陸軍大學校卒業徽章

一参謀飾緒

一藥品入箱

(ノントリ外品)

一馬具

一鍵

壹何

貳何

叁何

肆何

伍何

陸何

柒何

捌何

玖何

拾何

拾八何

目録

一

一洋銀十四圓四仙

(華五圓一圓二五五圓七十四仙文印せし付銀金貨拾圓券拾仙)
アリは山五圓一圓二五五圓七十四仙文印せし付銀金貨拾圓券拾仙

臣

宣

目録

- 一、遺骨 冬家
- 一、犯之証書 冬板
- 一、金側時計（鎖及箱表） 冬個
- 一、金指環 冬個
- 一、カミツ式双眼鏡 冬個
- 一、印形 冬個
- 一、絨巻銀側時計 冬個
- 一、陸軍大學校卒業証書 冬板
- 一、陸軍大學校卒業徽章 冬個

陸

震

（大トリル外五音） 孝 個

赴校

歌一個

洋銀八十兩四仙

不探亦洞トシテ五葉五郭七取以仙支辨セシ身持全視勢水八糸
重糸仙了支辨陀者辨所

个

有「内白大華」暨「个」内「容」五十二其他「華」暨

言於數及私而書稿耳

一、書類考

分有誤、其費矣。初た、江口

川喜多治郎遺骨及同人取所有品前託載通り

其々正三確收候

明治四十三年九月三日

府下豊多摩郡中野町参千彦白甲蔵番地

故川喜多大治郎妻

川喜多幸子

